看護学科
Syllabus 2023

KUHW
Kyushu University of Health and Welfare

九州保健福祉大学総合医療専門学校

看護学科　カリキュラム

			単位数		開講年	時間数	備考
			講義	実習			
基礎分野	科学的思考の基盤	物理学	1		1	15	
		情報科学Ⅰ	1		1	15	
		情報科学Ⅱ	1		1	30	
		哲学	1		1	30	
		文章表現法	1		1	30	
		英語Ⅰ	1		1	15	
		英語Ⅱ	2		1	30	
	人間と生活・社会の理解	社会学	1		1	30	
		教育学	1		1	30	
		心理学	1		1	30	
		人間関係論	1		1	30	
		芸術論	1		1	30	
		生涯スポーツ	1		1	30	
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1		1	15	
		形態機能学Ⅱ	1		1	30	
		形態機能学Ⅲ	1		1	30	
		形態機能学Ⅳ	1		1	30	
		形態機能学Ⅴ	1		1	15	
		生化学	1		1	30	
		栄養学	1		2	30	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態・疾病論Ⅰ	1		1	30	
		病態・疾病論Ⅱ	1		1	30	
		病態・疾病論Ⅲ	1		1	30	
		病態・疾病論Ⅳ	1		2	30	
		病態・疾病論Ⅴ	1		2	30	
		病態・疾病論Ⅵ	1		2	30	
		薬理学Ⅰ	1		2	30	
		薬理学Ⅱ	1		2	15	
		微生物学	1		1	30	
	健康支援と社会保障制度	医療概論	1		1	30	
		医療倫理	1		2	15	
		社会福祉学	1		2	30	
		公衆衛生学	1		2	30	
		地域生活環境論	1		3	15	
		関係法規	1		2	15	

			単位数		開講年	時間数	備考
			講義	実習			
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1		1	30	
		基礎看護技術Ⅰ	1		1	15	
		基礎看護技術Ⅱ－１	1		1	30	
		基礎看護技術Ⅱ－２	1		1	15	
		基礎看護技術Ⅲ	1		1	30	
		基礎看護技術Ⅳ	1		2	30	
		基礎看護技術Ⅴ	1		1	30	
		基礎看護技術Ⅵ	1		1	30	
		基礎看護技術Ⅶ	1		1	30	
		臨床看護総論	1		1	30	
		看護研究	1		3	30	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論Ⅰ	1		1	15	
		地域・在宅看護論Ⅱ	1		2	30	
		地域・在宅看護論Ⅲ	1		2	30	
		地域・在宅看護論Ⅳ	1		3	30	
		地域連携論Ⅰ	1		1	15	
		地域連携論Ⅱ	1		2	15	
		地域連携論Ⅲ	1		3	15	
	成人看護学	成人看護学Ⅰ	1		1	15	
		成人看護学Ⅱ	1		1	30	
		成人看護学Ⅲ	1		2	30	
		成人看護学Ⅳ	1		2	30	
		成人看護学Ⅴ	1		2	30	
		成人看護学Ⅵ	1		3	30	
	老年看護学	老年看護学Ⅰ	1		1	15	
		老年看護学Ⅱ	1		2	15	
		老年看護学Ⅲ	1		2	30	
		老年看護学Ⅳ	1		2	30	
	小児看護学	小児看護学Ⅰ	1		2	15	
		小児看護学Ⅱ－１	1		2	15	
		小児看護学Ⅱ－２	1		2	30	
		小児看護学Ⅲ	1		2	30	
	母性看護学	母性看護学Ⅰ	1		2	30	
		母性看護学Ⅱ－１	1		2	30	
		母性看護学Ⅱ－２	1		2	15	
		母性看護学Ⅲ	1		2	30	
	精神看護学	精神看護学Ⅰ	1		1	15	
		精神看護学Ⅱ－１	1		2	15	
		精神看護学Ⅱ－２	1		2	15	
		精神看護学Ⅲ	1		2	30	
	看護の統合と実践	看護統合実践Ⅰ	1		2	30	
		看護統合実践Ⅱ－１	1		3	15	
		看護統合実践Ⅱ－２	1		3	15	
		看護統合実践Ⅲ	1		3	15	

			単位数		開講年	時間数	備考
			講義	実習			
専門分野	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ		2	1	90	
		基礎看護学実習Ⅱ		2	2	90	
		成人看護学実習A		2	3	90	
		成人看護学実習B		2	3	90	
		老年看護学実習A		2	2	90	
		老年看護学実習B		2	3	90	
		小児看護学実習		2	2	90	
		母性看護学実習		2	3	90	
		精神看護学実習		2	3	90	
		地域・在宅看護論実習		3	3	135	
		看護統合実習		2	3	90	
合　　計			80	23		3,000	
			103				

※カリキュラムは原則的に入学年の学則で示したものが、卒業時まで適用されます

基礎分野

科学的思考の基盤

人間と生活・社会の理解

授業科目	物理学			科目分類	基礎分野		
責任教員	惠下　斂	実務経験		授業形態	講義		
開講年次	１年前期			単 位 数	１	時間数	１５
科目目標	人間の動作や行動に重点をおいた学びをする。 １．医療看護の場面でおこり得る現象を本質的に見抜く思考能力（科学的思考に基づいて看護問題を解決できる力）を身につける。 ２．安全で快適な作業、安全で使いやすい道具、効率よく充実した生活環境を整え、作業に伴う身体疲労の改善などができる基礎的能力を身につける。 ３．ボディメカニクスに基づく看護の動作ができる基礎的能力を身につける。 ４．実際の支援活動に役立つよう、支援技術の物理的基礎を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．物理および自然科学について	①自然科学と物理学の歴史について学ぶ ②物理学の考え方と方法について学ぶ	講義	惠下
2 (3-4)	２．数、単位、数式、グラフ	①数字と単位について学ぶ ②数式とその意味について学ぶ ③わかりやすいグラフの見方、書き方について学ぶ ④加速度と速度と移動距離について学ぶ		
3 (5-6)	３．力	①力を重力と加速度の関係からわかりやすく学ぶ ②力と抵抗（体位変換に関係）の関係について学ぶ ③力の合成・分解について学ぶ ④重心について学ぶ		
4 (7-8)	４．圧力	①まず気圧からはじまって圧力について学ぶ ②血圧や酸素ボンベなど一般的な圧力について考察する		
5 (9-10)	５．トルク（回転力）	①トルクについて、てこの原理とともに学習する ②体位変換にも関係が深いトルクの応用について学習する		
6 (11-12)	６．仕事とエネルギー	①エネルギーについて学ぶ ②力と移動距離（体位変換）の関係から仕事のエネルギーについて学習する		
7 (13-14)	７．熱と音と光	①熱につて学ぶーカロリーとジュールの関係をはっきりさせる ②音について学ぶーデシベルやドップラー効果等について ③光について学ぶーレンズによる実像および虚像について等		
8 (15-16)	８．電気と磁気	①電気につて、オームの法則その他、重要な心得ておくべきことを学ぶ ②電磁波について、重要な心得ておくべきことを学ぶ ③近代物理と話題（放射能等）		

評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
講師作成テキスト
新体系看護学全書　基礎科目　物理学　メヂカルフレンド社

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">情報科学Ⅰ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">基礎分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>山内　利秋</td><td>実務経験</td><td></td><td>授業形態</td><td colspan="3">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">１年前期</td><td>単位数</td><td>１</td><td>時間数</td><td>１５</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">１．情報の定義、医療や看護における情報システムの概要を理解する。
２．健康に関する自己決定能力としてのヘルス・リテラシーを市民が獲得するために必要となる知識について理解する。</td></tr>
<tr><td>講義回数</td><td>単元</td><td colspan="4">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>1-2
(1-4)</td><td>１．情報ネットワークと会議システムの利用・情報の定義</td><td colspan="4">１．アカウントの設定とクラウドサービスについて
２．電子会議システムの利用
３．情報の定義と特徴</td><td>講義
演習</td><td rowspan="4">山内</td></tr>
<tr><td>3-4
(5-8)</td><td>２．情報化社会と看護</td><td colspan="4">１．情報化と社会の変化
２．　情報に関わるモラル</td><td></td></tr>
<tr><td>5-6
(9-12)</td><td>３．保健医療医療と情報</td><td colspan="4">１．保健医療と情報
２．エビデンス情報と保健医療
３．ヘルスプロモーションとリテラシー</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>7-8
(13-16)</td><td>４．看護における情報</td><td colspan="4">１．看護情報と知識化
２．データ標準化とエビデンス
３．信頼できる情報と看護</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">出席状況・課題・筆記試験（終講試験）</td></tr>
<tr><td colspan="8">教科書・参考書等
系統看護学講座　別巻　看護情報学　医学書院</td></tr>
</table>

授業科目	情報科学Ⅱ			科目分類	基礎分野		
責任教員	山内　利秋	実務経験		授業形態	講義・演習		
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	１．保健医療における情報、医療情報システムについて理解する。 ２．メディア・リテラシーにおいて必要な技術を理解し、習得する。 ３．医療に必要な遠隔通信システムについての知識・技術を習得する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-3 (1-6)	１．医療における情報システム	１．医療情報の根拠法 ２．看護記録とシミュレーション ３．医療情報システムと電子カルテ ４．地域社会における ICT の活用	講義 演習	山内
4 (7-8)	２．情報倫理と医療	１．情報倫理・知的財産権とプライバシー権		
5 (9-10)	３．患者の権利と情報	１．医師－患者関係の変化 ２．インフォームドコンセントとセカンドオピニオン ３．個人情報の保護		
6-7 (11-14)	４．調査によるデータ収集	１．調査によるデータ収集方法 ２．調査デザイン ３．調査紙を作成する		
8-11 (15-22)	５．統計解析について	１．Excel の基本操作 ２．データと集計 ３．正規分布・検定 ４．回帰分析		
12-13 (23-26)	６．　情報の記述化	１．文章のまとめ方(word の利用)		
14-15 (27-30)	７．情報の公開とプレゼンテーション	１．PowerPoint の操作 ２．発表の仕方		

評価方法	出席状況・課題・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
系統看護学講座　別巻　看護情報学　医学書院

授業科目	哲学			科目分類	基礎分野		
責任教員	栗栖　照雄	実務経験		授業形態	講義		
	岩江　荘介	実務経験					
開講年次	１年前期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	１．専門職業人として、人間理解を広げ、人間洞察を深めるための基礎的思考力を養成する。様々な思想家のすぐれた遺産や知恵にも精神の目を向け、よりバランスの取れた判断力を身につけられる内容とする。 ２．人間の心の多様性や重層性に関して、思想家（ソクラテス、プラトン、アリストテレスなど）の学説に基づいて人間を理解する。 ３．人間の未来に向けての思想や希望を、各自の生き方と重ね合わせて表現し実践することができる教養としての西洋・東洋の哲学史を理解する。 ４．人間観、自然観、価値観などについて、抽象的な概念思考が行える能力を身につける。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-3 (1-6)	Ⅰ序論 第１章 看護と哲学	１．不安から自由になるために ２．現代の医療・看護と哲学のつながり ３．「観察」は「見ること」としての哲学 ４．批判的精神（クリティカルシンキング）自己の発見 ５．自分で考えるという意味	講義	栗栖
	第２章 看護理論と哲学	１．看護とはという問いの意味するもの ２．看護理論と「看護」の本質 ３．ナイチンゲール以降・・アメリカにおける看護理論の発展 ４．看護理論の根拠となる人間観・科学観と倫理 ５．看護と哲学		
4-5 (7-10)	Ⅱ哲学の歴史と現在 第３章 古代ギリシャ哲学の人間理解 第４章 中世における人間の尊厳の思想 第５章 近代・現代哲学における人間理解	１．古代ギリシャ哲学の人間理解 ソクラテス、プラトン、アリストテレス ２．古代ギリシャの医学思想 １．キリスト教の伝統における人間の尊厳 ２．主体的存在としての人間 ３．人間の弱さ １．近代哲学における人間観 ２．現代哲学における人間への問い		
6-7 (11-14)	第８章 バイオエシックスと医療・看護	１．バイオエシックス誕生の背景 ２．バイオエシックスとは ３．現代の医療・看護問題 ４．バイオエシックスの考えに基づいた医療･看護		
8-9 (15-18)	第９章 哲学的考えに基づく看護の本質、専門職者としてのあり方	１．６万年前のネアンデルタール人の「こころ」 ２．看護の中における哲学の役割 ３．医療者に求められる態度		
10-11 (19-22)	第10章 ホリスティク看護と哲学	１．ホリスティク看護の実践 ・人間は自然の一部であるという考え		
	Ⅳ看護実践に向かう哲学	１．現代の家族問題と看護 ２．母子関係の看護と哲学 ３．発達障害児への看護的ケアにおける哲学的問題 ４．加齢に向かう臨床の哲学 ５．ターミナルケアに臨む　哲学・宗		

12-15 (23-30)	Ⅲ看護と哲学 第７章 ケアと倫理と医療・看護	１．ケアの倫理と医療・看護 ２．「ケアの倫理」の確立に向けて ３．「正義の倫理」と「ケアの倫理」との統合 ４．「ケアの倫理」の意義	講義	岩江
評価方法	出席状況・授業態度・筆記試験（終講試験）			
教科書・参考書等 哲学　看護と人間に向かう哲学　　ヌーヴェルヒロカワ				

授業科目	文章表現法			科目分類	基礎分野		
責任教員	栗栖　照雄	実務経験		授業形態	講義		
開講年次	１年前期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	文章表現の基礎、様々な場面における文章表現に関する力を身に着ける授業である。看護学生として必要なレポートや小論文を書くことができ、卒業後に様々な看護場面で、文章で表現し、伝達できることを目指していく。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-3 (1-6)	１．言語表現の基本	１）間違えやすい漢字・語彙・語法など ２）必要な敬語表現 ３）文章作成のための基本	講義	栗栖
4-5 (8-10)	２．レポート作成	１）レポートとは何か ２）基本的なレポート作成の方法		
6-8 (11-16)	３．レポート作成の実際	１）興味のあるテーマを選択し、レポート作成を行う ２）各自のレポートのグループ単位での発表、評価		
9-10 (17-20)	４．小論文作成	１）小論文とは何か ２）小論文が必要な場面 ３）基本的な小論文の書き方		
11-14 (21-28)	５．小論文作成の実際	１）興味のあるテーマを選択し、小論文作成を行う ２）各自のレポートのグループ単位での発表、評価		
15 (21-28)	６．手紙の書き方	１）基本的な手紙、挨拶状の書き方		
評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等：基礎からわかる書く技術　くろしお出版
講師作成資料

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">英語　Ⅰ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">基礎　分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>松尾　祐美子</td><td>実務経験</td><td></td><td>授業形態</td><td colspan="3">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">１年前期</td><td>単位数</td><td>１</td><td>時間数</td><td>１５</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">１．国際化および情報化社会に対応しうるコミュニケーション能力を養う。
１）学生同士が関わり合い、お互いを理解し、認め、支え合えるようにすることで、コミュニケーション能力を培い人間関係構築を図る。
２）話し手、聞き手ともに魅力のある人間性を養う。
３）専門職として異なる文化や異なる価値観を持つ人たちと積極的にコミュニケーションを図る。
２．英語の音の変化になれる。</td></tr>
<tr><td>講義回数</td><td>単元</td><td colspan="4">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>1
(1-2)</td><td>ガイダンス</td><td colspan="4">テキストおよび講義内容説明</td><td>講義</td><td>松尾</td></tr>
<tr><td>2-8
(3-16)</td><td>基本的な英会話の基本を学ぶ</td><td colspan="4">１）高等学校までの英語の基礎知識の復習
２）基礎的な英会話を学ぶ</td><td>講義
演習</td><td>松尾</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">出席状況・筆記試験（終講試験）</td></tr>
<tr><td colspan="8">教科書・参考書等
教科書：看護系学生のための実践英語（改訂版）
出版社：朝日出版社</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">英語Ⅱ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">基礎分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>松尾　祐美子</td><td>実務経験</td><td></td><td>授業形態</td><td colspan="3">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">１年後期</td><td>単位数</td><td>２</td><td>時間数</td><td>３０</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">１．国際化および情報化社会に対応しうるコミュニケーション能力を養う。
１）学生同士が関わり合い、お互いを理解し、認め、支え合えるようにすることで、コミュニケーション能力を培い人間関係構築を図る。
２）話し手、聞き手ともに魅力のある人間性を養う。
３）専門職として異なる文化や異なる価値観を持つ人たちと積極的にコミュニケーションを図る。
２．臨床現場において使える初歩的な会話を英語で行える</td></tr>
<tr><td>講義回数</td><td>単元</td><td colspan="5">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>1
(1-2)</td><td>ガイダンス</td><td colspan="5">前期に学んだ事柄を確認、復讐する。</td><td>講義
演習</td><td>松尾</td></tr>
<tr><td>2-15
(3-30)</td><td>医療場面における英会話</td><td colspan="5">１）専門用語を覚え、その会話を実際に練習する。
２）テキスト以外で、看護/医療場面の多い動画を見て、看護場面での会話に親しむ。
３）実際の機器を使用してのバイタルチェックを英語で行う練習をする。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">出席状況・筆記試験（終講試験）</td></tr>
<tr><td colspan="8">教科書・参考書等
教科書：看護系学生のための実践英語（改訂版）
出版社：朝日出版社</td></tr>
</table>

授業科目	社会学			科目分類	基礎分野		
責任教員	倉　真一	実務経験		授業形態	講義		
開講年次	１年前期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	文学など人文学が、人間一人ひとりを個性的で個別の存在であると捉え、ある一人の独特な世界を描き出すことで人間の本質を照らし出そうとするに対して、社会科学の一つである社会学は、大勢の人々の共通点にこだわり、そこに法則性があって、科学の方法で解明できると考えている。 本講義では社会学的なモノの見方・考え方を養うために、社会学が法則性をみつけだそうと取り組んできた社会の諸側面のうち、１５のキーワードで切り出したテーマ郡を、原則１テーマ１コマ完結で検討していく。それらはいずれも当たり前の日常であり、いわば「空気」のようなものだが、それは確かに存在しており、私たちの意識や行動を拘束し「規定」しているのである。社会学の意義は、その目に見えない「空気」のような存在をみえるようにする「技法」を学ぶことであり、私たちの生を「規定」するカラクリ＝法則性を知ることにある。そうして初めて、私たちは自由や充実した人生を、社会のなかで他者とともに生きる＝実践する際のヒントを得ることができるだろう。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．言語	言葉を使う。言葉をしゃべれる。これは人間だけの能力である。言葉が生み出す豊かな意味の世界があってはじめて、私たちは他者とともに社会を作ることができる。	講義	倉
2 (3-4)	２．戦争	戦争とは、「暴力を用いて、自分の意思を相手に押し付けること」をいう。歴史的に医療や看護は戦争と切ってもきれない縁にある。私たちは戦争を含む暴力にどう向き合うべきだろうか。		
3 (5-6)	３．憲法	憲法は、人民から国に宛てた手紙である。その国の国家元首や政治家、大臣や政府職員に向けて「こうしなさい」「こうしてはいけない」と約束させるものである。		
4 (7-8)	４．貨幣	貨幣とは不思議なモノである。また昔から今のような貨幣があったわけでない。「女性」「市場」「貨幣の働き」「資本主義と利潤」「金本位制と管理通貨制度」「小切手」等のキーワードから貨幣と経済の謎を読み解く。		
5 (9-10)	５．資本主義	資本主義とは資本が特別な働きをする経済のことである。この仕組みを理解すると、学校や病院などの経営者や職員の日々の振る舞いの持つ意味が見えてくる。		
6 (11-12)	６．私有財産	私有財産制度は私たちの社会の基礎である。ところがその起源は近代社会に特有の新しい考え方なのである。私有財産と公共の利益と両立という古くて新しい論点から改めて考えてみたい。		
7 (13-14)	７．性	性とは、体と体の関係のことである。そして性の根本には人間がほかの人間の体から生まれるほかない、という事実がある。ここでは「親子の関係」「あそび」「愛の表現」「暴力」「家族の性」「男と女」「異性愛と同性愛」「性と羞恥心」等のキーワードから性について考察する。		
8 (15-16)	８．家族	家族があるのは人類の特徴である。家族の在り方はその背後にある文化の違いによって様々であり、また大きく変化してきた。ここでは「食事と家族」「子育てと介護」「拡大家族」「中間集団」等のキーワードから家族の過去・現在・未来について考える。		
9 (17-18)	９．結婚	結婚はどの民族や文化にも認められる習慣である。しかしそこには多様な慣習やルールが存在し、それらは大きな変化に直面している。「誰と結婚できるのか」「宗教と結婚」「恋愛結婚とは何か」「同性は結婚できるのか」等の論点から考えてみたい。		

10 (19-20)	10. 正義	正義とは、「正しさが外からやってきた」という感覚のことである。この感覚の意味を、「裁判」「正しさを言葉にする」「正義とルール」「入試は公平か」「正義をどう定義するか」「男女の違い」「格差と正義」等の論点から考察する。		
11 (21-22)	11. 自由	自由とは人間が思ったように行動したり、好きなように考えたりできることをいう。だが私たちは「自由にしてイイよ」と言われると、かえって戸惑ったりもする。「自由に何をするのか？」「万人の万人に対する闘争」「権利の線を引く」「自由を学ぶ」「自由と法律」「自由と言葉」等をキーワードに考える。		
12 (23-24)	12. 死	人間も生き物である以上、死ぬことは宿命といってよい。「かけがえのない個性」「自分が死ぬこと・死ぬということ」「死はなぜ怖いのか」「人生の意味」「死を悼む」等のキーワードから、死について考える。		
13 (25-26)	13. 宗教	宗教は人類になくてはならないもの、人類の文化の中心である。社会学的には、社会そのものが宗教的に成り立っているといってよい位である。「神を信じない宗教」「一神教の構造」「仏教、儒教、神道」等をキーワードに、人類と切っても切れない宗教について考える。		
14 (27-28)	14. 職業	職業とは仕事のことであり、収入があってかなりの時間をさいて生活を支える活動のことをいう。「職業はなぜできたのか」「農業革命と社会階層の分化」「職業の決め方、決まり方」「どう職業を選ぶのか」等のキーワードから理解を深める。		
15 (29-30)	15. 幸福	幸福とは、人間が人間として生きていることが、充実している状態のことである。「幸福のつかみにくさ」「自分に向いているとは」「仕事のあやふやさ」「逆風にたちむかう」「人と比べない」「幸福と不幸」「幸福のバトンタッチ」等をキーワードに考えたい。		
評価方法	出席状況・取り組み姿勢（30%）、個別課題やグループワーク等の成果物（40%）、最終レポート課題（30%）			

教科書：

指定しないが、本講義では以下の書籍から多くのヒントを得ている。

参考書等：

社会学を学ぶ第一歩として、特にその研究対象やモノの見方・考え方を知るための格好の入門書として、次の書籍を紹介しておく。

・橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』ＰＨＰ研究所、2014 年

【ISBN】978-4569821559

また社会学において「当たり前」を疑う姿勢の大切さを教えてくれる本であり、初心者から社会学にちょっと興味が湧いてきたくらいで読むと、さらに社会学が面白くなる本を紹介する。

・ランダル・コリンズ『脱常識の社会学－社会の読み方入門』岩波文庫、2013 年

【ISBN】978-4006002848

社会学にいったい何ができるのか。その可能性を垣間見せてくれる本としては、以下の本も紹介しておく。

・奥村隆ほか『社会学になにができるか』千代田出版、1997 年

【ISBN】978-4842910338

特に医療、安楽死の問題を扱った「権力論に何ができるか」の章と、教育や学校の問題を「努力」に人々を向かわせる文化の働きから考察した「文化装置論に何ができるか」は秀逸である。

授業科目	教育学			科目分類	基礎分野		
責任教員	盛満 弥生	実務経験		授業形態	講義		
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	「社会化」という概念を手掛かりに、教育学の基礎知識を理解するとともに、今日の教育 をめぐる問題状況についてデータをもとに客観的に理解・説明できるようにする。あわせ て、教育と看護の関連について理解することをねらいとする。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	オリエンテーション ― 教育学とは ―	シラバスを基に授業のねらいと概要を確認する。看護学科で教育学を学ぶ意義を理解する。	講義	盛満
2 (3-4)	教育の基本原理 ―人間の発達と教育の意義①	人間にとっての教育の必要性や適時性について講義や映像資料を基に理解する。		
3 (5-6)	教育の基本原理 ―人間の発達と教育の意義②	人間にとっての教育の必要性や適時性について講義や映像資料を基に理解する。		
4 (7-8)	教育の基本原理 ―人間の発達と教育の意義③	子どもが他者との相互作用を通じて社会に適応していく「社会化」過程について理解する。		
5 (9-10)	教育の基本原理 ―家族集団における社会化①	家族集団の中で子どもが親やきょうだいの影響を受けながら社会化されていく過程について理解する。		
6 (11-12)	教育の基本原理 ―家族集団における社会化②	家族集団の中で子どもが親やきょうだいの影響を受けながら社会化されていく過程について理解する。		
7 (13-14)	教育の基本原理 ―仲間集団における社会化①	仲間集団の中で子どもが同世代の仲間たちの影響を受けながら社会化されていく過程について理解する。		
8 (15-16)	教育の基本原理 ―仲間集団における社会化②	仲間集団の中で子どもが同世代の仲間たちの影響を受けながら社会化されていく過程について理解する。		
9(17-18)	教育の基本原理 ―学校集団における社会化①	学校集団の中で子どもが社会化されていく過程について理解する。		
10 (19-20)	教育の基本原理 ―学校集団における社会化②	学校集団の中で子どもが社会化されていく過程について理解する。学校が果たす役割について映像資料を基に理解する。		
11 (21-22)	現代社会の教育問題 ―非行・少年犯罪①	逸脱行動の典型例である「非行・少年犯罪」について、各種統計資料をもとに客観的・具体的に把握する。		
12 (23-24)	現代社会の教育問題 ―非行・少年犯罪②	逸脱行動の典型例である「非行・少年犯罪」について、映像資料をもとに客観的・具体的に把握する。		
13 (25-26)	現代社会の教育問題 ―子どもの貧困	「子どもの貧困」問題について、各種統計資料や映像資料等をもとに客観的・具体的に把握する。		
14 (27-28)	看護と教育	看護の中での教育の位置づけについて理解する。		
15 (29-30)	講義のまとめ	講義のまとめとこれまでの授業内容に関する疑問点の 確認等を行う。		

評価方法	出席状況・レポート試験（終講試験）

教科書：
教科書は指定しない。授業は主に資料とレジュメを中心に行う
参考書等：
特に無し

授業科目	心理学			科目分類	基礎分野		
責任教員	柿田　美香	実務経験	臨床発達心理士	授業形態	講義		
開講年次	１年前期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	１．心理学を学ぶことで、他者および自己理解を深める。 １）認知、発達、パーソナリティーなどがどのようにその個人、ならびに人間関係に影響を与えているかを理解する。 ２）自分自身の行動を振り返ることで、自分の認知特性、行動特性などに気づく。 ３）「共感」し、「共にある」ことができる看護師となる能力を養う。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	心理学とは	・心理学とは何か、何に役立つのかを知る ・実習を通し、自分並びにクラスメートへの新たな発見をし、更にカウンセリングの基本に気づく	講義 演習	柿田
3 (5-6)	パーソナリティーからの人間理解	・パーソナリティーとは ・気質とは ・虐待について	講義	
4-5 (7-10)	交流分析からの人間理解	・交流分析とは ・実例を通し、自分の特性に気づく		
6 (11-12)	精神分析からの人間理解	・フロイト理論を中心に		
7-9 (13-18)	発達について	・発達理論について学ぶ ・発達に影響するものとしての遺伝と環境 ・発達評価の視点 ・発達検査についての実習	講義 演習 ビデオ	
10-13 (19-26)	発達障がいについて	・自閉症スペクトラム障がい、ADHD、LD などについてその特性と対応の仕方を学ぶ ・アスペルガーと診断を受けている子どものビデオを視聴することで本人並びに家族の苦悩についてより理解を深める	講義 ビデオ	
14 (27-28)	看護に活かす心理学	・話の聞き方のスキルを学ぶ ・末期患者の心理の推移を理解することで看護師としてのあり方を学ぶ	講義	
15 (29-30)	筆記試験（終講試験）			

評価方法	出席状況・演習時の態度及び姿勢・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
新体系看護学全書　基礎科目　心理学　メヂカルフレンド社
講師作成資料

授業科目	人間関係論			科目分類	基礎分野		
責任教員	柿田　美香	実務経験	臨床発達心理士	授業形態	講義・演習		
開講年次	１年後期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．人間関係成立や効果的な関係成立のための基本について学ぶ。 ２．人間は人間によって作られ、人間は相互関係の中で人格が作られることを学ぶ。 １）自分に関心を向け、自分と対話し、自分自身をより広く、より多方面から理解する。 ２）自分のコミュニケーションのあり方に気づくことができる。 ３）グループワークを通して、他者との相互関係の中での自分に気づくことができる。 ４）他者に働きかける方法を学ぶ。 ５）人間関係の様々な様相、どのような人間関係の形があるのか、コミュニケーションのずれが生じる要因、相互交流、自己の振り返りなどを通して学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-3 (1-6)	人間存在と人間関係	・人間関係の基本的意義について ・演習を通し、自己への気づきを促すとともに、人間関係をスムーズに営むための基本に気づく	講義 演習	柿田
4-5 (7-10)	コミュニケーション	・コミュニケーションとは ・コミュニケーションに障害を持つ人々への理解及び医療現場での配慮方法について	講義	
6-7 (11-14)	アサーティブ- コミュニケーション	・アサーションの理論とスキル ・看護への応用	講義 演習	
8-9 (15-18)	社会的相互作用と 社会的役割	・人間関係における社会的相互作用とは ・社会的役割とは	講義	
10-13 (19-26)	カウンセリングと 心理療法	・アドラーの心理学について ・カウンセリングに関する理論と実践 ・看護ケア、福祉への応用	講義 演習	
14 (17-28)	患者を支える 人間関係	・さまざまな看護場面における人間関係について ・事例を通しての学び	講義	
15 (29-30)	筆記試験（終講試験）			
評価方法	出席状況・課題レポート・演習時の態度及び姿勢・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等
系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　　医学書院
講師作成資料

授業科目	芸術論			科目分類	基礎分野	
責任教員	松原　由美	実務経験		授業形態	講義	
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数　３０
科目目標	１．芸術は、人間に生きがいを与え、長期的な視点で物事を考える力を養いなど、生活において大きな役割を担っている。本講義は、芸術の中の音楽を中心に講義を予定しているが、音楽のジャンル、時代背景、楽器の特徴などを中心に習得する。 ２．音楽により心拍が速くなったり、気持ちが落ち着いたり呼吸もゆったりとした速さになるなど、 音楽による生理的影響は日常的に感じることができるが、音楽による影響について分野ごと実体験により学ぶ。					

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	オリエンテーション	本授業の学習の目的、評価方法、学習の方法について 芸術と文化、音楽について理解する	講義	松原
2 (3-4)	音楽のジャンルについて	ミュージカルについて理解する① （サウンドオブミュージックを活用して学ぶ）		
3 (5-6)	音楽のジャンルについて	ミュージカルについて理解する② （サウンドオブミュージックを活用して学ぶ）		
4 (7-8)	音楽のジャンルについて	映画音楽の中の音楽を理解する① （グレイテストショーマン）		
5 (9-10)	音楽のジャンルについて	映画音楽の中の音楽を理解する② （グレイテストショーマン）		
6 (11-12)	音楽のジャンルと楽器について	クラシックの音楽とその歴史 （オーケストラの少女）		
7 (13-14)	音楽の歴史	バロックと古典派の特徴と音楽家 （バッハ・モーツアルト・ベートーヴェンの作品と生涯について）		
8 (15-16)	音楽の歴史	古典派の特徴と音楽家 （アマデウス）		
9 (17-18)	音楽の歴史	古典派とロマン派の特徴と音楽家 （アマデウスとのべおか第九）		
10 (19-20)	音楽の歴史	ロマン派と印象派、現代の音楽家とその特徴 （ラヴェルを中心に　左手のピアニスト舘野泉とバイオリニストヤンネ舘野）		
11 (21-22)	音楽と治療、療育	芸術療法（音楽療法）とは何か	講義 演習	
12 (23-24)	音楽と治療、療育	高齢者への芸術療法（詩歌療法絵画療法音楽療法）		
13 (25-26)	音楽と治療、療育	障碍児者と終末期の音楽療法		
14 (27-28)	音楽と治療、療育	被虐待児の音楽療法		

15 (29-30)	まとめ	本講義のまとめとレポート作成	講義	松原
評価方法	出席状況・授業内レポート（60%）・課題レポート（30%）課題提出（10%）			

教科書：
・教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
参考書：
・授業中に参考文献の紹介をする。

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">生涯スポーツ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">基礎分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>松田　智香子</td><td>実務経験</td><td></td><td>授業形態</td><td colspan="3">講義・実技</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">１年前期</td><td>単位数</td><td>１</td><td>時間数</td><td>３０</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">身体活動やスポーツを通して他者理解やコミュニケーション能力を育むとともに、健康管理や安全管理を正しく行う能力を身につける。また、生涯にわたってスポーツを楽しみながら健康の保持増進や生きがいづくりを目指すとともに、心身の健全な発達と明るく豊かで活力に満ちた活動習慣を形成していく態度を学ぶことを目的とする
１．健康管理、安全管理を正しく行いスポーツを楽しむことができる。
２．他者理解に努め、集団でのコミュニケーション能力を身につける。
３．健康の保持増進のための運動実践と生涯にわたってできるスポーツを理解する。</td></tr>
<tr><td>講義回数</td><td>単元</td><td colspan="4">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>1-15
(1-30)</td><td>１．レクリエーション
室内運動</td><td colspan="4">１．導入ゲーム
２．ミニバレーボール
３．ストレッチ
など

※履修上の必要事項
緊張感を持ち受講すること
運動着、体育館シューズを着用</td><td>講義
実技</td><td>松田</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">出席状況・授業態度</td></tr>
<tr><td colspan="8">教科書・参考書等
特になし</td></tr>
</table>

専門基礎分野

人体の構造と機能

疾病の成り立ちと回復の促進

健康支援と社会保障制度

授業科目	形態機能学Ⅰ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	菱川　善隆	実務経験	医師	授業形態	講義		
開講年次	１年前期			単 位 数	１	時間数	１５
科目目標	１．日常生活を営むための人体の構造や機能について理解する。 ２．人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力・判断力を身につけるための基礎的な知識を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	第１章 解剖生理学を学ぶための基礎知識	A．人体とはどのようなものか １）人体の階層性 ２）自然界における人類の位置 ３）社会のなかの人体 B．人体の素材としての細胞・組織 １）細胞の構造 ２）細胞を構成する物質とエネルギーの生成 ３）細胞膜の構造と機能 ４）細胞の増殖と染色体 ５）分化した細胞がつくる組織 C．構造と機能からみた人体 １）構造からみた人体 ２）機能からみた人体 ３）体液とホメオスタシス	講義	川
3-6 (5-12)	第７章 からだの支持と運動	A．骨格とはどのようなものか １）人体の骨格　２）骨の形態と構造 ３）骨の組織と組成　４）骨の発生と成長 ５）骨の生理的な機能 B．骨の連結 １）関節　２）不動性の連結 C．骨格筋 １）骨格筋の構造　２）骨格筋の作用 ３）骨格筋の神経支配 D．体幹の骨格と筋 １）脊柱　２）胸郭 ３）背部の筋　４）胸部の筋 ５）腹部の筋 E．上肢の骨格と筋 １）上肢帯の骨格　２）自由上肢の骨格 ３）上肢帯の筋群　４）上肢の筋群 ５）前腕の筋群　６）手の筋群 ７）上肢の運動 F．下肢の骨格と筋 １）下肢帯と骨盤　２）自由下肢の骨格 ３）下肢帯の筋群　４）大腿の筋群 ５）下腿の筋　６）足の筋 ７）下肢の運動 G．頭頚部の骨格と筋 １）神経頭蓋　２）内臓頭蓋 ３）頭部の筋　４）頚部の筋 H．筋の収縮 １）骨格筋の収縮機構 ２）骨格筋収縮の種類と特性 ３）不随意筋の収縮の特徴	講義	

7-8 (13-16)	第９章 体表からみた人体の構造	１．体表から触知できる骨格部分 　１）頭頚部の骨格 　２）体幹上部の骨格 　３）上肢の骨格 　４）体幹下部の骨格 　５）下肢の骨格 ２．体表から触知できる大きな筋 　１）頭頚部の筋 　２）体幹上部の筋 　３）上肢の筋 　４）体幹下部の筋 　５）下肢の筋 ３．体表からの触知できる動脈 　１）頭頚部の動脈 　２）体幹の動脈 　３）上肢の動脈 　４）下肢の動脈 ４．体表から到達できる静脈	講義	菱川
評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

教科書：系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能〔１〕　医学書院

参考書：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔１２〕皮膚　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔　６　〕内分泌・代謝　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔１０〕運動器　医学書院

授業科目	形態機能学Ⅱ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	山田　光子	実務経験		授業形態	講義		
	川野　純一	実務経験					
開講年次	１年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．日常生活を営むための人体の構造や機能について理解する。 ２．人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力・判断力を身につけるための基礎的な知識を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-5 (1-10)	第２章 栄養の消化と吸収	Ａ．口・咽頭・食道の構造と機能 １）口腔の機能と構造 ２）咽頭と食道の構造と機能 Ｂ．腹部消化管の構造と機能 １）胃の構造 ２）小腸の構造 ３）大腸の構造 ４）胃における消化 ５）小腸における消化 ６）栄養素の消化と吸収 ７）大腸の機能 Ｃ．膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 １）膵臓 ２）肝臓と胆嚢の構造 ３）肝臓の機能 Ｄ．腹膜 １）腹膜と腸管膜 ２）腹膜と内臓の位置関係 ３）胃の周辺の間膜	講義	山田
6-10 (11-20)	第４章 血液の循環と その調節	Ａ．循環器系の構成 Ｂ．心臓の構造 １）心臓の位置と外形 ２）心臓の４つの部屋と４つの弁 ３）心臓壁 ４）心臓の血管と神経 Ｃ．心臓の拍出機能 １）心臓の興奮とその伝播 ２）心電図 ３）心臓の収縮 Ｄ．末梢循環系の構造 １）血管の構造 ２）肺循環の血管 ３）体循環の動脈 ４）体循環の静脈 Ｅ．血液の循環の調節 １）血圧 ２）血液の循環 ３）血圧・血流量の調整 ４）微小循環 ５）循環器系の病態生理 Ｆ．リンパとリンパ管 １）リンパ管の構造 ２）リンパの循環	講義	川野

11-15 (21-30)	第６章 内臓機能の調節	Ａ．自律神経による調整 　１）自律神経の機能 　２）自律神経の構造 　３）自律神経の神経伝達物質と受容体 Ｂ．内分泌による調節 　１）内分泌とホルモン 　２）ホルモンの化学構造と作用機序 Ｃ．全身の内分泌腺と内分泌細胞 　１）視床下部―下垂体系 　２）甲状腺と副甲状腺 　３）膵臓 　４）副腎 　５）性腺 　６）その他の内分泌腺 Ｄ．ホルモン分泌の調節 Ｅ．ホルモンによる調節の実際 　１）ホルモンによる糖代謝の調節 　２）ホルモンによるカルシウム代謝の調節 　３）ストレスとホルモン 　４）乳房の発達と乳汁分泌 　５）高血圧をきたすホルモン	講義	山田
評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

教科書：	系統看護学講座	専門基礎分野Ⅰ	人体の構造と機能〔 １ 〕解剖生理学	医学書院
参考書：	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔１５〕歯・口腔	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔 ５ 〕消化器	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔 ６ 〕内分泌・代謝	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔 ３ 〕循環器	医学書院

授業科目	形態機能学Ⅲ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	川野　純一	実務経験		授業形態	講義		
開講年次	１年通年			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．日常生活を営むための人体の構造や機能について理解する。 ２．人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力・判断力を身につけるための基礎的な知識を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-6 (1-12)	第３章 呼吸器と血液の はたらき	A．呼吸器の構造 １）呼吸器の構成 ２）上気道 ３）下気道と肺 ４）胸膜・縦隔 B．呼吸 １）内呼吸と外呼吸 ２）呼吸器と呼吸運動 ３）呼吸気量 ４）ガス交換とガスの運搬 ５）肺の循環と血流 ６）呼吸運動の調節 ７）呼吸器系の病態生理 C．血液 １）血液の組織と機能 ２）赤血球 ３）白血球 ４）血小板 ５）血漿タンパク質と赤血球沈降速度 ６）血液の凝固と繊維素溶解 ７）血液型	講義	川野
7-11 (13-22)	第５章 体液の調節と尿の 生成	A．腎臓 １）腎臓の構造と機能 ２）糸球体の構造と機能 ３）尿細管の構造と機能 ４）傍子球体装置 ５）クリアランスと糸球体濾過量 ６）腎臓から分泌される生理 B．排尿路 １）排尿路の構造 ２）尿の貯蔵と排尿 C．体液の調節 １）水の出納 ２）脱水 ３）電解質の異常 ４）酸塩基平衡		

12-14 (23-28)	第 10 章 生殖・発生と老化のしくみ	A．男性生殖器 1）精巣（睾丸） 2）精路(生殖路)と付属生殖腺 3）男性の外陰部 4）男性の生殖機能 B．女性生殖器 1）卵巣 2）卵管・子宮・膣 3）女性の外陰部と会陰 4）乳腺 5）女性の生殖機能 C．受精と胎児の発生 1）生殖細胞と受精 2）初期発生と着床 3）胎児と胎盤	講義	川野
15 (29-30)		D．成長と老化 1）小児期の成長 2）老化		
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

教科書： 系統看護学講座　専門基礎分野Ⅰ　人体の構造と機能〔 1 〕　解剖生理学　医学書院

参考書： 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 2 〕呼吸器　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 8 〕腎・泌尿器　医学書院

授業科目	形態機能学Ⅳ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	菱川　善隆	実務経験	医師	授業形態	講義		
	近藤　照義	実務経験					
	川野　純一	実務経験					
開講年次	１年後期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．日常生活を営むための人体の構造や機能について理解する。 ２．人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力・判断力を身につけるための基礎的な知識を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	第８章 情報の受容と処理	Ａ．神経系の構造と機能 １）神経細胞と支持細胞 ２）ニューロンでの興奮の伝導 ３）シナプスでの興奮の伝達 ４）神経系の構造	講義	近藤
3 (5-6)		Ｂ．脊髄と脳 １）脊髄の構造と機能 ２）脳の構造と機能		
4 (7-8)		Ｃ．脊髄神経と脳神経 １）脊髄神経の構造と機能 ２）脳神経の構造と機能		
5 (9-10)		Ｄ．脳の高次機能 １）脳波と睡眠 ２）記憶 ３）本能行動と情動 ４）内臓調節機能 ５）中枢神経系の障害		
		Ｅ．運動機能と下行伝導路 １）運動ニューロン ２）下行(遠心)伝導路		
6-7 (11-14)		Ｆ．感覚機能と上行伝導路 １）感覚の種類 ２）感覚の性質 ３）体性感覚の受容器の種類 ４）皮膚の感覚受容器の分布 ５）上行（求心）伝導路		
8-10 (15-20)	第８章 情報の受容と処理	Ｇ．眼球の構造と視覚 １）眼球の構造 ２）眼球付属器 ３）視覚 Ｈ．耳の構造と聴覚・平衡覚 １）耳の構造 ２）聴覚 ３）平衡覚	講義	川野
11 (21-22)		Ｉ．味覚と嗅覚 １）味覚器と味覚 ２）嗅覚器と嗅覚 Ｊ．疼痛（痛み） １）痛みの分類 ２）疼痛の発生機序	講義	菱川

12-14 (23-28)	第９章 外部からの防御	Ａ．皮膚の構造と機能 １）皮膚の組織構造 ２）皮膚の付属器 ３）皮膚の血管と神経 Ｂ．生体の防御機構 １）非特異的防御機構 ２）特異的防御機構 - 免疫 - ３）生体防御の関連臓器 Ｃ．体温とその調節 １）熱の出納 ２）体温の分布と測定 ３）体温調節 ４）発熱 ５）高体温と低体温	講義	菱川
15-16 (29-32)	解剖学見学実習 （2 月初旬）	解剖学標本示説実習（解剖生理学基礎学力試験） （宮崎大医学部解剖学講座組織細胞化学分野）		
評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

教科書：系統看護学講座　専門基礎分野Ⅰ　解剖生理学　人体の構造と機能〔１〕　医学書院

参考書：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔７〕脳・神経　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔４〕血液・造血器　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔11〕アレルギー・膠原病・感染症　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔13〕眼　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔14〕耳鼻咽喉　医学書院

授業科目	形態機能学Ⅴ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	川島　香理	実務経験	保健師・看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	１．日常生活を営むための人体の構造や機能について理解する。 ２．疾患や症状が出現している機序を考え、臨床判断や看護過程展開に必要な考え方を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-4)	１．ガイダンス	１）科目の目的、授業方法の概要説明 ・臨床判断や看護過程展開との関連性 ・基礎看護技術Ⅱとの関連性 ２）疾患や症状の出現している機序の考え方 ・基礎看護技術Ⅱ-２の既習学習をもとに、事例を通して教科書や参考書を用いて考える。	講義	川島
2-3 (5-6)	２．臓器や器官の働き	１）事例を通しての、臓器、器官の働き、疾患学習（肺炎の事例） ・DVD 視聴 ・基本フォームを使用して個人ワークにてまとめる	講義 演習	
4-6 (7-12)	３．症状出現の機序	１）事例を通しての疾患、症状の機序 ・グループにてディスカッションをとおして考えていく。		
7-8 (13-16)	４．症状出現の機序の発表	１）グループワークの内容の共有 ・グループ発表を通して他者の考えを共有していき、学びを深める ・他者にわかりやすく伝達するための工夫（発表原稿作成）		
評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

教科書：系統看護学講座　専門基礎分野Ⅰ　解剖生理学　人体の構造と機能〔１〕　医学書院

系統看護学講座　専門基礎分野　基礎看護技術Ⅰ医学書院

授業科目	生化学			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	西片　一朗	実務経験		授業形態	講義		
開講年次	１年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．生体を構成する成分の種類・性状・分布、並びにその代謝メカニズムを理解する。 ２．生化学の知識を生体と結びつけ、代謝と疾病の関係を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	生体の成り立ちと 生体分子	１生体の成り立ち ２人体を構成する階層（個体・器官・組織・細胞） ３ヒトの真核細胞の構造と機能 ４人体を構成する物質の種類 ５生体で行われる化学反応（代謝）	講義	西片
2 (3-4)	タンパク質の性質	１タンパク質の分類 ２タンパク質を構成するアミノ酸の定義 ３アミノ酸の種類 ４必須アミノ酸と栄養学的アプローチ ５電解質としてのアミノ酸 ６タンパク質の高次構造 ７タンパク質の変性		
3 (5-6)	酵素の性質と働き	１酵素の定義 ２酵素の分類 ３酵素の特性 ４酵素反応速度論 ５アイソザイムとその位置付け ６血清酵素の診断への利用		
4 (7-8)	糖質の代謝	１糖の定義 ２糖の分類 ３糖質の消化・吸収 ４重要なエネルギー源としての糖質 ５グルコースとグリコーゲンの合成 ６血統の調節 ７糖尿病とその病態		
5 (9-10)	脂質の代謝	１脂質の種類と化学的物質 ２脂質の代謝 ３リポタンパク質と脂質代謝異常		
6 (11-12)	アミノ酸およびタンパク質の代謝	１タンパク質代謝の概要とその意義 ２アミノ酸の異化と尿素回路 ３非必須アミノ酸の合成 ４アミノ酸から合成される生理活性物質 ５タンパク質およびアミノ酸代謝異常とその病態		
7 (13-14)	核酸の役割	１核酸の所在 ２２種類の核酸と構造 ３遺伝情報に基づくタンパク質合成のしくみ ４核酸の合成と代謝 ５細胞分裂と DNA 複製のしくみ ６遺伝子操作技術の応用と課題		
8 (15-16)	ホルモン	１ホルモンの定義 ２ホルモンの種類と作用機序 ３各種のホルモンの構造と働き ４ホルモン関連物質の構造と働き ５内分泌疾患とその病態		

9 (17-18)	ビタミン	１水溶性ビタミンの構造と働き ２脂溶性ビタミンの構造と働き	講義	西片
10 (19-20)	ホメオスタシス	１ホメオスタシスの定義 ２神経系による調節 ３内分泌系による調節 ４細胞間情報伝達物質（免疫系）による調節 ５酵素による代謝調節 ６フィードバック機構とその意義		
11 (21-22)	体液	１水の構造と性質 ２無機質の種類とその役割 ３酸・塩基平衡のしくみ		
12 (23-24)	血液	１血液の構成と働き ２血球成分の構成とその役割 ３血漿成分の構成とその役割 ４血液凝固のしくみ ５赤血球と血液型		
13 (25-26)	尿	１腎臓の構造と機能 ２ろ過・再吸収・分泌のしくみ ３尿生成による体液調節 ４尿の成分とその性状 ４腎機能検査の種類とその目的		
14 (27-28)	免疫系・運動器系・消化器系	１免疫系（生体防御のしくみ） ２運動系（筋肉の構造と働き） ３消化器系（肝臓と小腸の役割）		
15 (29-30)	消化・吸収と栄養価	１栄養素の定義 ２栄養素と食品成分 ３栄養素の摂取・消化・吸収 ４食品のエネルギー量 ５エネルギー産生栄養素バランス ６体が必要とするエネルギー ７必要な栄養素の量と質 ８食事摂取基準と食生活指針 ９保健機能食品		
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			
教科書・参考書等 わかりやすい生化学　―疾病と代謝・栄養の理解のために―　ヌーヴェルヒロカワ				

授業科目	栄養学			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	篠原　久枝	実務経験		授業形態	講義		
	二宮　るみ子	実務経験	管理栄養士				
開講年次	２年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．人間にとっての栄養の意義を知り、ライフステージにそった栄養管理の基本を理解する。 ２．臨床地域で役立つ食生活指導の実際を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	第１章 健康と栄養	１）健康状態とアセスメント ・食生活の評価 ・食事摂取量調査 ・栄養状態アセスメント ・健康的な食生活の実現 ２）看護と栄養 ・食と環境	講義	篠原
3-4 (5-8)	第２章 日常生活と栄養	１）食事と栄養 ・日常生活における食事の意義 ・健康生活と食事 ・わが国の食事計画ガイドライン ２）日本人の食事摂取基準 ・食事摂取基準 ・食事摂取基準と摂取量の現状と課題 ３）スポーツと栄養 ・日常生活におけるスポーツの意義 ・基礎代謝と活動代謝 ・スポーツと栄養管理		
5-6 (9-12)	第４章 食物と栄養	１）食品の種類と栄養素 ２）栄養素とその働き ３）食物摂取と消化・吸収		
7-8 (13-16)	第５章 ライフステージと 健康教育	１）ライフステージによって異なる栄養 （１）母性の栄養 （２）乳幼児期 ・授乳と離乳、成長と活動、食事摂取量基準 食生活の特徴、栄養問題 ２）学童期 ・成長と活動、食事摂取基準、食生活の特徴 栄養問題 ３）思春期 ・成長と活動、食事摂取量基準、 食生活の特徴、栄養問題 ４）成人期 ・健康と活動、食事摂取基準、食生活の特徴 食習慣と疾患の特徴 ５）老年期 ・健康と活動、食事摂取量基準、 食生活の特徴、栄養問題 食習慣と疾患の特徴		

9-11 (17-22)	第３章 栄養指導・保健指導	１）栄養指導の過程 ・栄養指導とその過程 ・栄養スクリーニング ・栄養診断 ・栄養指導の実施 ・患者中心の栄養指導 ・栄養指導の記録・評価 ・食事介助時の心理的配慮 ２）入院患者のための食事の調整 ・病院食の種類 ・治療食と栄養主成分別分類の関係	講義	二宮
12-15 (23-30)	第６章 疾患別食事指導の 実際	各疾患別の食事指導の実際と栄養指導 １）糖尿病 ２）高血圧 ３）脂質異常症・肥満・痛風 ４）虚血心疾患性 ５）脳卒中 ６）慢性閉塞性肺疾患 ７）肝炎・肝硬変 ８）膵炎、胆石症 ９）慢性腎臓病 10）潰瘍性大腸炎、クローン病 11)胃切除術後 12）摂食・嚥下障害 13）褥瘡		
	第７章 栄養管理における チームアプローチ	栄養管理におけるチームアプローチ １）栄養サポートチームについて		
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等
わかりやすい　栄養学　臨床・地域で役立つ食生活指導の実際　ヌーベル・ヒロカワ
糖尿病食事療法のための食品交換表　　文光堂

授業科目	病態・疾病論Ⅰ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	林　透	実務経験	医師	授業形態	講義		
開講年次	１年後期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスを理解する。 ２．さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化について理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．疾病の領域	１．疾病の概要 ２．疾病の概要 ３．人体病理学と実験病理学 ４．病理学と臨床医学	講義	林
	２．細胞・組織とその障害	１．細胞の微細構造と機能 ２．組織 ３．細胞障害 ４．壊死とアポトーシス ５．萎縮		
2 (3-4)	３．再生と修復	１．再生 ２．化生 ３．創傷治癒と肉芽組織 ４．異物の処理 ５．肥大と過形成		
3-4 (5-8)	４．循環障害	１．充血とうっ血 ２．旁側循環 ３．出血 ４．血液凝固と血栓症 ５．塞栓症 ６．虚血と梗塞 ７．体液の調節障害 ８．ショック ９．高血圧		
	５．炎症	１．炎症とは ２．炎症の基本病変 ３．急性炎症のメカニズム ４．急性炎症の種類 ５．炎症の経過に影響する因子 ６．慢性炎症と肉芽腫性病変 ７．炎症の全身への影響		
5-6 (9-12)	６．免疫とアレルギー	１．生体における免疫系の役割 ２．免疫系のしくみと働き ３．アレルギー ４．自己免疫疾患 ５．免疫不全症 ６．移植免疫		
	７．感染症	１．感染症とは ２．人体における微生物の分布 ３．病原微生物の種類とその特徴 ４．感染経路および潜伏期間 ５．感染防御能（感染免疫） ６．各種感染症と起炎微生物 ７．ＡＩＤＳと日和見感染症 ８．抗菌化学療法、耐性菌、菌交代現象 ９．新興感染症と再興感染症 10．予防処置と感染防御（院内感染対策）		

7-8 (13-16)	８．代謝異常	１．脂質代謝異常 ２．糖質代謝異常 ３．蛋白代謝異常 ４．核酸代謝異常 ５．栄養過剰と肥満 ・生活習慣病 ・メタボリックシンドローム	講義	林
9-10 (17-20)	９．老化と老年病	１．老化と老年看護 ２．老化のしくみ ３．老化の形態と諸臓器の老化 ４．老化と疾患としての老年病		
11-12 (21-24)	10．新生児の病理	１．新生児の病理 ２．肺硝子膜症 ３．人工換気により引き起こされる病変 ４．脳の発育 ５．脳室内出血 ６．脳の低酸素性変化 ７．新生児の感染症 ８．出生前診断		
	11．先天異常	１．先天異常の原因 ２．主な先天異常		
13 (25-26)	12．腫瘍	１．腫瘍の分類と名称 ２．腫瘍の形態 ３．腫瘍の発育 ４．腫瘍と宿主との関係 ５．腫瘍の発生 ６．腫瘍の原因 ７．腫瘍の疫学		
14 (27-28)	13．生命の危機	１．日本人の死因　世界の死因 ２．生命の危機をもたらす損傷 ３．特殊な重症病態 ４．バイタルサインとその変化 ５．ショック ６．死の徴候		
15 (29-30)	＜各論の活用方法＞ 循環器、呼吸器系、消化器系の形態と機能	１．循環器の形態と機能 ＊心臓、血管系の形態と機能 ２．呼吸器の形態と機能 ３．消化器の形態と機能 ＊食道、胃、肝臓、膵臓の形態と機能		
評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等
カラーで学べる病理学　　ヌーヴェルヒロカワ
※カラーで学べる病理学　整理ノートを活用して予習・復習をする。

授業科目	病態・疾病論Ⅱ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	園田　徹	実務経験	医師	授業形態	講義		
	黒木　直哉　他	実務経験	医師				
開講年次	１年後期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．病因と病変の特徴を理解し、疾病によって生じる人体の形態や機能・代謝の異常を学ぶ。 ２．病理的知識を基に、対象に必要な看護を身体的側面から判断できる能力を養う。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	呼吸機能の障害〔１〕	１．呼吸器の構造と機能 ２．症状とその病態生理 １）自覚症状　　２）他覚症状	講義	園田
2-3 (3-6)	呼吸機能の障害〔２〕	３．検査 １）胸水検査　　２）画像診断 ３）内視鏡検査　　４）呼吸機能検査		
4-5 (7-10)	呼吸機能の障害〔３〕	４．治療・処置 １）吸入療法　　２）呼吸理学療法 ３）胸腔ドレナージ　４）呼吸器外科の手術		
6-7 (11-14)	呼吸機能の障害〔４〕	５．疾患の理解 １）感染症 肺炎　結核 ２）間質性肺疾患 ３）気管支喘息 ４）慢性閉塞性肺疾患 ５）肺血栓塞栓症 ６）呼吸不全 ７）呼吸調節に関する疾患 ８）肺腫瘍 ９）自然気胸 10）胸膜腫瘍		
8 (15-16)	栄養の摂取・吸収 機能障害〔１〕	１．消化器の構造と機能 ２．症状とその病態整理 １）嚥下困難　　２）吐血　下血 ３）肝臓疾患に特有の症状 腹水　黄疸　肝性脳症	講義	黒木 他
9-10 (17-20)	栄養の摂取・吸収 機能障害〔２〕	３．検査と治療・処置 １）診察と診断の流れ ２）検査・治療 ①肝機能検査　②内視鏡検査　③肝生検 ④薬物療法　⑤手術療法		
11-15 (21-30)	栄養の摂取・吸収 機能障害〔３〕	４．疾患の理解 １）食道癌　　２）胃，十二指腸潰瘍 ３）胃癌　　４）腸炎 ５）イレウス　　６）結腸癌　直腸癌 ７）肝炎　　８）肝硬変 ９）門脈圧亢進　　10）肝癌 11）胆石症　　12）胆管癌 13）胆嚢癌　　14）膵炎 15）膵癌		

評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔２〕呼吸器　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔５〕消化器　医学書院

授業科目	病態・疾病論Ⅲ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	松浦　祐之介　他	実務経験	医師	授業形態	講義		
	上野　浩晶　他	実務経験	医師				
	中原　梢	実務経験	医師				
開講年次	１年後期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．病因と病変の特徴を理解し、疾病によって生じる人体の形態や機能・代謝の異常を学ぶ。 ２．病理的知識を基に、対象に必要な看護を身体的側面から判断できる能力を養う。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	循環機能の障害〔１〕	１．循環器の構造と機能 Ａ　心臓の構造と機能 ①心臓の構造 ②心臓の電気活動 ③心臓のポンプ作用 ④心臓機能の適応性 Ｂ　血管の構造と機能 ①動脈及び静脈の構造 ②体循環と肺循環 ③血液の循環力学 ④循環の調節 ２．症状とその病態整理 Ａ胸痛 Ｂ動悸 Ｃ呼吸困難 Ｄ浮腫 Ｅチアノーゼ Ｆ失神 Ｇ四肢の疼痛 Ｈショック	講義	松浦 他
2 (3-4)	循環機能の障害〔２〕	３．検査と治療・処置 Ａ診察と診断の流れ Ｂ検査 ①心電図 ②心臓カテーテル法 Ｃ治療・処置 ①心臓カテーテル治療 ②ペースメーカ治療 ③外科的治療		
3-5 (5-10)	循環機能の障害〔３〕	４．疾患の理解 Ａ虚血性心疾患 ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ　狭心症　心筋梗塞 Ｂ心不全 Ｃ血圧異常 Ｄ不整脈 Ｅ弁膜症 Ｆ心膜炎 Ｇ心筋疾患 Ｈ肺性心 Ｉ先天性心疾患 Ｊ動脈系疾患 Ｋ静脈系疾患 Ｌリンパ系疾患		

6-7 (11-14)	内分泌・代謝機能の障害〔１〕	１．内分泌・代謝器官の構造と機能 Ａ内分泌器官の構造と機能 ①視床下部　②下垂体　③甲状腺 ④副甲状腺　⑤副腎　⑥消化管ホルモン Ｂ内分泌器官とホルモンの機能 Ｃ代謝の概要と機能 ２．症状とその病態生理 Ａ救急の場面で内分泌・代謝疾患を疑う所見 Ｂ一般診療で内分泌・代謝疾患を疑う所見 ３．検査と治療・処置 Ａ内分泌疾患の検査 Ｂ代謝疾患の検査	講義	上野 他
8-10 (15-20)	内分泌・代謝機能の障害〔２〕	４．疾患の理解 １）視床下部－下垂体前葉系疾患 ２）視床下部－下垂体後葉系疾 ３）甲状腺疾患 ４）副甲状腺疾患 ５）副腎疾患 ６）糖尿病 ７）高脂血症 ８）尿酸代謝障害		
11 (21-22)	排泄機能の障害〔１〕	１．腎・泌尿器の構造と機能 ２．症状とその病態整理 Ａ尿の異常　Ｂ排尿に関連した症状 Ｃ浮腫　Ｄ脱水 Ｅ循環器系の異常　Ｆ血液の異常 Ｇ尿毒症　Ｈ疼痛 Ｉ腫脹、腫瘤　Ｊその他の症状	講義	中原
12 (23-24)	排泄機能の障害〔２〕	３．検査と治療・処置 Ａ診察　Ｂ検査　Ｃ治療と処置 Ｄ排尿管理　Ｅ透析療法　Ｆ腎移植		
13-15 (25-30)	排泄機能の障害〔３〕	４．疾患の理解 Ａ腎不全と慢性腎臓病 Ｂネフローゼ症候群 Ｃ糸球体腎炎 Ｄ全身性疾患による腎障害 Ｅ尿細管間質性腎炎 Ｆ腎血管性病変 Ｇ尿細管機能異常 Ｈ妊娠高血圧症候群 Ｉ尿路・性器の感染症 Ｊ尿路の通過障害と機能障害 Ｋ尿路損傷及び異物 Ｌ尿路結石症 Ｍ尿路　性器の腫瘍 Ｎ発生／発育異常 Ｏ男性不妊症、男性性機能障害、その他の男性生殖器疾患		
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 ３ 〕循環器　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 ６ 〕内分泌・代謝　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 ８ 〕腎・泌尿器　医学書院

授業科目	病態・疾病論Ⅳ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	横上　聖貴　他	実務経験	医師	授業形態	講義		
	梅北　邦彦	実務経験	医師				
	宮内　俊一	実務経験	医師				
	幣　光太郎　他	実務経験	医師				
開講年次	２年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．病因と病変の特徴を理解し、疾病によって生じる人体の形態や機能・代謝の異常を学ぶ。 ２．病理的知識を基に、対象に必要な看護を身体的側面から判断できる能力を養う。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	脳機能の障害〔１〕	第２章　脳・神経系の構造と機能 第３章　症状とその病態整理 A　脳・神経系とは B　おもな症状とその病態生理	講義	横上 他
3-4 (5-8)	脳機能の障害〔２〕	第４章　検査・診断と治療・処置 A　診断と診療の流れ B　検査 C　治療・処置		
5-7 (9-14)	脳機能の障害〔３〕	第５章　疾患の理解 A　脳疾患 B　脊髄疾患 C　末梢神経障害 D　神経・筋疾患 E　脱髄・変性疾患 F　脳・神経系の感染症 G　中毒 H　てんかん I　認知症 J　内科疾患に伴う神経疾患		
8 (15-16)	生体防御機構・免疫機能障害〔１〕	第２章　免疫のしくみとアレルギー 第３章　検査と治療 第４章　症状と疾患の理解	講義	宮内 梅北
9 (17-18)	生体防御機構・免疫機能障害〔２〕	第２章　自己免疫疾患とその機序 第３章　症状とその病態整理 第４章　検査と治療		
10-11 (19-22)	生体防御機構・免疫機能障害〔３〕	第５章　疾患の理解 A　関節リウマチ B　全身性エリテマトーデス C　全身性強皮症 D　多発性筋炎、皮膚筋炎 E　混合性結合組織病 F　血管炎症症候群 G　シェーグレン症候群 H　ベーチェット病		
12-13 (23-24)	造血に関わる諸機能の障害〔１〕	第２章　血液の生理と造血のしくみ A　血液の成分と機能 B　造血の仕組み 第３章　検査・診断と症候・病態生理 A　病歴聴取と身体所見 B　検査 C　症候とその病態整理	講義	幣 他

14-15 (25-30)	造血に関わる 諸機能の障害〔２〕	第４章　疾患と治療の理解 A　赤血球系の異常 B　白血球系の異常 C　造血器腫瘍 D　出血性疾患	講義	幣 他
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 7 〕脳・神経　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 11 〕アレルギー／膠原病／感染症　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 4 〕血液・造血器　医学書院

授業科目	病態・疾病論Ⅴ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	帖佐　悦男　他	実務経験	医師	授業形態	講義・演習		
	新地　達哉	実務経験	理学療法士				
	中村　明子	実務経験	看護師				
開講年次	２年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．病因と病変の特徴を理解し、疾病によって生じる人体の形態や機能・代謝の異常を学ぶ。 ２．病理的知識を基に、対象に必要な看護を身体的側面から判断できる能力を養う。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	運動機能の障害〔１〕	第２章　運動器の構造と機能 第３章　症状とその病態整理 Ａ　疼痛 Ｂ　形態の異常 Ｃ　関節運動の異常 Ｄ　神経の障害 Ｅ　異常歩行または跛行 Ｆ　筋肉の障害	講義	帖佐 他
3-4 (5-8)	運動機能の障害〔２〕	第４章　診断・検査と治療・処置 Ａ　診察・診断の流れ Ｂ　検査 Ｃ　治療・処置		
5-7 (9-14)	運動機能の障害〔３〕	第５章　疾患の理解 Ａ　骨折 Ｂ　脱臼 Ｃ　捻挫および打撲 Ｄ　神経の損傷 Ｅ　筋・腱・人体などの損傷		
8-9 (15-18)	リハビリテーションとは	１．リハビリテーションとは ２．評価（ＲＯＭ―Ｔ、ＭＭＴ、ＡＤＬ） ３．高次機能障害 ４．実習：良肢位、ＲＯＭｅｘ ５．嚥下講義、ベッド上での訓練指導 ６．実習：ＡＤＬ（座位保持、トランスファー、衣服の着脱など） ７．実習：杖処方、歩行	講義 演習	新地
10-14 (19-28)				
15 (29-30)	筆記試験（終講試験）			中村
評価方法	出席状況・演習への取り組み・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 10 〕運動器　医学書院

リハビリテーション看護論　成人看護学　ヌーヴェルヒロカワ

授業科目	病態・疾病論Ⅵ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	近藤　修	実務経験	医師	授業形態	講義		
	高橋　邦行	実務経験	医師				
	金子　政時	実務経験	医師				
	楠元　和美	実務経験	医師				
	山下　理絵	実務経験	医師				
開講年次	２年後期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．病因と病変の特徴を理解し、疾病によって生じる人体の形態や機能・代謝の異常を学ぶ。 ２．病理的知識を基に、対象に必要な看護を身体的側面から判断できる能力を養う。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	外科総論〔１〕	１．手術侵襲と生体の反応	講義	近藤
2-5 (3-10)	外科総論〔２〕	２．麻酔法 １）手術前・中・後の管理 ①全身麻酔 ②局所麻酔 ２）体液　栄養管理 ３）臓器移植		
6-7 (11-14)	耳鼻咽喉・頸部の構造及び主な症状	１．耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 １）耳・鼻の構造と機能 ２）口腔と唾液腺の構造と機能 ３）咽頭・喉頭の構造と機能 ４）気管・食道・甲状腺の構造と機能 ２．症状とその病態生理 ３．検査と治療 １）聴力検査、音叉による検査 ２）平衡機能検査 ３）気管切開 ４）手術療法	講義	高橋
8-9 (15-18)	耳鼻咽喉科領域における主な疾患	４．　疾患の理解 １）耳疾患 ２）鼻疾患 ３）口腔・咽喉頭疾患 ４）気道・食道疾患と音声・言語障害		
10 (19-20)	女性生殖器と その疾患	１．女性生殖器の構造と機能 ２．女性生殖器の異常でみられる症候	講義	金子 楠元
11 (21-22)		３．無月経に関する疾患（診察・検査・治療） １）無月 ２）月経随伴症状 ４．更年期の疾患（診察・検査・治療） １）更年期障害 ２）骨盤臓器脱		金子 山下
12 (23-24)		５．性器の炎症・性感染症（診察・検査・治療） １）外陰部・膣の炎症 ２）性感染症		金子

13-14 (25-28)		６．子宮の疾患（診察・検査・治療） １）子宮内膜症 ２）子宮筋腫 ３）子宮頸がん ４）子宮体がん ５）絨毛性疾患		金子 山下
15 (29-30)	女性生殖器と その疾患	７．卵巣の疾患（診察・検査・治療） １）卵巣腫瘍 ８．性分化疾患・性器形態異常（診察・検査・治療） １）性分化疾患 ・ターナー症候群 ・クラインフェルター症候群 ２）性器形態異常	講義	金子 楠元
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

系統看護学講座　別巻１　　臨床外科看護総論　　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 14 〕耳鼻咽喉　　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔 15 〕歯・口腔　　医学書院
ﾅｰｼﾝｸﾞ･ｸﾞﾗﾌｨｶ EX　疾患と看護（　9　）女性生殖器　メディカ出版

授業科目	薬理学Ⅰ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	髙山　日出美	実務経験	薬剤師	授業形態	講義		
	川島　香理	実務経験	看護師･保健師				
開講年次	２年前期			単位数	1	時間数	30
科目目標	薬物療法時の看護の視点を理解し、患者の安全を確保するために臨床の場で必要とされる知識を習得することができる。 １）身近なあるいは重要な疾患に焦点をあて、その疾患の治療に用いられる薬剤を適正に利用するための知識を習得することができる。 ２）薬物療法において危険と判断できる実践力を身に付けることができる。 単位や剤形（薬のカタチ）の特徴を学ぶことで「薬はどのように効くのか」ということを理解し、与薬事故防止や服薬指導に役立つ知識を身につけることができる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	第１部 薬理学総論 第１章 薬理学を学ぶにあたって	A　薬理学とはなにか B　薬による病気の治療	講義	髙山
2-4 (3-8)	第２章 薬理学の基礎知識	A　薬が作用するしくみ B　薬の体内の挙動　C　薬物相互作用 D　薬効の個人差に影響する因子 E　薬物使用の有益性と危険性 F　薬と法律		
5 (9-10)	第２部 薬理学各論 第３章 抗感染症薬	A　感染症治療に関する基礎事項 B　抗菌薬 C　抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬 D　感染症の治療における問題点		
6 (11-12)	第４章 抗がん剤	A　がん治療に関する基礎事項 B　抗がん薬各論		
7 (13-14)	第５章 免疫治療薬	A　免疫系の基礎知識 B　免疫抑制薬 C　免疫増強薬・予防接種薬		
8 (15-16)	第６章 抗アレルギー薬・抗炎症薬	A　抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 B　炎症と抗炎症薬 C　関節リウマチ治療薬 D　痛風・高尿酸血症治療薬		
	第７章 末梢での神経活動に作用する薬物	A　神経系による情報伝達 B　自律神経系作用薬 C　交感神経作用薬 D　副交感神経作用薬 E　筋弛緩薬・局所麻酔薬		
9-10 (17-20)	１．薬物療法における看護師の役割と習得すべき基礎知識	（１）チーム医療において、患者に最も近い存在としての看護師の役割とは （２）薬物の保管管理 （３）与薬 （４）服薬管理	講義	川島
	２）看護業務に必要な計算	（１）単位の理解 （２）指示薬剤量を液量 ml に換算して取り出す （３）注入速度（流量・滴数）計算		
11-15 (21-30)	３）知らねばならない「危険」の知識	（１）注射（２）ポンプ（３）内服（４）輸血 （５）経管栄養（６）チューブ類の管理（７）検査 （８）その他		

評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進［３］　薬理学　医学書院
医療安全ワークブック　医学書院

授業科目	薬理学Ⅱ			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	髙山　日出美	実務経験	薬剤師	授業形態	講義		
開講年次	２年後期			単位数	1	時間数	15
科目目標	薬物療法時の看護の視点を理解し、患者の安全を確保するために臨床の場で必要とされる知識を習得することができる。 １）身近なあるいは重要な疾患に焦点をあて、その疾患の治療に用いられる薬剤を適正に利用するための知識を習得することができる。 ２）薬物療法において危険と判断できる実践力を身に付けることができる。 単位や剤形（薬のカタチ）の特徴を学ぶことで「薬はどのように効くのか」ということを理解し、与薬事故防止や服薬指導に役立つ知識を身につけることができる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	第８章 中枢神経系に作用する薬物	A　中枢神経系のはたらきと薬物 B　全身麻酔薬 C　催眠薬・抗不安薬 D　抗精神病薬 E　抗うつ薬・気分安定薬 F　パーキンソン症候群治療薬 G　抗てんかん薬 H　麻薬性鎮痛薬 I　片頭痛治療薬	講義	髙山
3-4 (5-8)	第９章 心臓・血管系に作用する薬物	A　降圧薬 B　狭心症治療薬 C　心不全治療薬 D　抗不整脈 E　利尿薬 F　脂質異常症治療薬 G　血液凝固系・線溶系に作用する薬物 H　血液に作用する薬物		
5 (9-10)	第 10 章 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	A　呼吸器系に作用する薬物 B　消化器系に作用する薬物 C　生殖器・泌尿器系に作用する薬物		
6 (11-12)	第 11 章 物質代謝に作用する薬物	A　ホルモンとホルモン拮抗薬 B　治療薬としてのビタミン		
7 (13-14)	第 12 章 皮膚科用薬・眼科用薬 第 13 章 救急の際に使用される薬物	A　皮膚に使用する薬物 B　眼科用薬 A　救急に用いられる薬物 B　急性中毒に対する薬物		
8 (15-16)	第 14 章 漢方薬 第 15 章 消毒薬	A　漢方医学の基礎知識 B　漢方薬各論 A　消毒液の基礎知識		
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等
系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進［３］　薬理学　医学書院
医療安全ワークブック　医学書院

授業科目	微生物学			科目分類	専門基礎分野	
責任教員	紺谷　靖英	実務経験		授業形態	講義	
開講年次	１年前期			単 位 数	１	時間数　３０
科目目標	１．病原微生物の種類と性質および臨床上重要な感染症の概要を理解する。 ２．感染症の成立要因、生体防御機構、治療法と予防法を理解し、感染制御対策における感染看護の役割を学ぶ。					

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	1.微生物と 微生物学	1.微生物の性質 2.微生物と人間 3.微生物の対象と目的 4.微生物の歩み	講義	紺谷
2 (3-4)	2.細菌の性質	1.細菌の形態と特徴 2.培養環境と栄養 3.細菌の遺伝 4.細菌の分類 5.常在細菌叢		
3-4 (5-8)	3.真菌の性質 4.病原真菌と 真菌感染症	1.真菌の形態と特徴 2.真菌の増殖 3.真菌の分類と命名法 4.栄養と培養 1.深在性真菌症をおこす真菌 2.深部皮膚真菌症をおこす真菌 3.表在性真菌症をおこす真菌		
5 (9-10)	5.原虫の性質 6.病原原虫と原虫 感染症	1.原虫の特徴と基本構造 2.病原原虫の種類 1.根足虫類 2.鞭毛虫類 3.胞子虫類 4.絨毛虫類		
6 (11-12)	7.感染と感染症	1.微生物感染の機構 2.感染の成立から発症・治癒まで 3.細菌感染の機構 4.真菌感染の機構 5.原虫感染の機構 6.ウィルス感染の機構		
7 (13-14)	8.感染に対する 生体防御機構	1.自然免疫のしくみ 2.獲得免疫のしくみ 3.粘膜免疫のしくみ 4.感染の徴候と症状		
8 (15-16)	9.感染源・感染経路 からみた感染症	1.経口感染―食物と水 2.経気道感染―空気と飛沫 3.接触感染 4.経皮感染―昆虫や注射器から 5.母子感染―母から児へ		
9-10 (17-20)	10.滅菌と消毒	1.バイオハザードとセーフティー 2.滅菌・消毒の意義と定義 3.滅菌法 4.濾過除菌 5.消毒と消毒薬		

11-12 (21-24)	11. 感染症の検査と診断 12. ウィルスの性質	1. 病原体を検出する方法 2. 生体の反応から診断する方法 1. ウィルスの特徴 2. ウィルスの構造と各部分の機能 3. ウィルスの増殖 4. ウィルスの分類	講義	紺谷
13 (25-26)	13. 感染症の治療	1. 化学療法の基礎 2. 各種の化学療法薬 3. その他の治療法		
14-15 (27-30)	14. 感染症の現状と対策 15. 病原細菌と細菌感染症	1. 感染症の変遷 2. 感染症の現状と問題点 3. 感染症への対策 1. グラム陽性球菌 2. グラム陰性球菌 3. グラム陰性好気性桿菌 4. グラム陰性通性桿菌 5. カンピロバクター属 6. グラム陽性桿菌 7. 抗酸菌と放線菌 8. 嫌気性菌 9. スピロヘータ 10. マイコプラズマ 11. リケッチア目 12. クラミジア科		
評価方法	出席状況・毎授業終了後に行う小テスト・筆記試験（終講試験）			
教科書・参考書等 南嶋洋一、吉田真一　著『系統看護学講座 専門基礎 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進〔4〕』　医学書院				

授業科目	医療概論			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	髙崎　眞弓	実務経験	医師	授業形態	講義		
開講年次	１年後期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．健康と疾病を理解する。 ２．日本の医療制度を学ぶ。 ３．地域の医療・保健サービスの仕組みを学ぶ。 ４．医療にかかわる者として倫理観を養う。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．健康を維持するにはどうするか （第１章）	１．食生活の重要性を理解する ２．運動習慣の重要性を知る ３．喫煙の健康阻害を学ぶ	講義	髙崎
2 (3-4)	２．なぜ病気になるか （第２章）	１．病気の原因を学ぶ ２．健康寿命と平均寿命を説明できる ３．日本人の死因を知る		
3 (5-6)	３．なぜがんになるか （第３章）	１．がんの発症機序を学ぶ ２．がんの罹患数と死亡数を知る ３．食事で防ぐことができるか		
4 (7-8)	４．病気の診断の仕方は （第４章）	１．病気の診断と治療の流れを知る ２．医療面接がもっとも大切である		
5 (9-10)	５．さまざまな治療法がある （第５章）	１．高木兼寛の脚気予防法の発見で学ぶ ２．自然治癒力が大切である		
6 (11-12)	６．消毒法と麻酔法の発見に学ぶ （第６章）	１．ゼンメルワイスの塩化カルシウム液による手指消毒を知る ２．華岡青洲の乳がん手術と麻酔を知る ３．500 年前の解剖図が今も通用する		
7 (13-14)	７．医療はチームで行う （第７章）	１．医療の担い手を知る ２．コミュニケーションの重要性を理解する ３．パッチ・アダムスの『トゥルー・ストーリー』を観てみよう		
8 (15-16)	８．治療法は患者が決める （第８章）	１．患者の自己決定権を理解する ２．インフォームド・コンセントを理解する		
9 (17-18)	９．医療を安全に行うには （第９章）	１．医療事故と安全改革を学ぶ ２．インシデント・レポートを学ぶ		
10 (19-20)	10．日本の医療は世界一か （第 10 章）	１．日本の医療制度を理解する ２．パンクしそうな国民医療費を知る		
11 (21-22)	11．病気は予防が大切 （第 11 章）	１．１次、２次、３次予防を理解する ２．介護保険を学ぶ		
12 (23-24)	12．医の倫理とは何だ （第 12 章）	１．紀元前の「ヒポクラテスの誓い」が今も通用する ２．臨床にどのような問題があるか学ぶ ３．看護師にも守秘義務がある		
13 (25-26)	13．脳死があって臓器移植がある （第 13 章）	１．死の３徴候を理解する ２．法的脳死判定を少々学ぶ ３．移植医療の現状を知る		
14-15 (27-30)	14．死への対応をどうするか （第 14 章）			

評価方法	出席状況・レポート・筆記試験（終講試験）
教科書・参考書等 教科書：医療概論－医療従事者のコモンセンス 14 章　総合医学社	

授業科目	医療倫理			科目分類	専門基礎分野	
責任教員	岩江　壮介	実務経験		授業形態	講義	
開講年次	２年後期			単 位 数	１	時間数　１５
科目目標	１．急速な医学の進展と医療技術の開発に伴って生じている諸問題を知り、問題解決の基礎となる基本的な倫理的思考と倫理的原則を学び、いくつかのテーマについて議論する。 １）様々な問題を通じて、専門職の責務について考えることができる。 ２）移植医療に対する見方や受け入れ方が社会によって異なることを知り、死やいのちの尊さについて論ずることができる。					

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	１．倫理とは何か	１）倫理とは何か ①倫理と法 ②職業倫理 ③倫理の基本 あるケース、愛・まごころ・信頼関係責任、患者の身になること、QOL と SOL、QOL チェックシート、よい死の物語、自由と事故決定、最善の利益倫理綱領・倫理マニュアル・法倫理と倫理学	講義	横山
3-4 (5-8)	２．医療倫理学の基本問題	１）プライバシーと守秘義務 ①守秘義務以前のデリカシー ②秘密の守り方 ③全人的医療とプライバシー ④自分のことを話したがる患者 ⑤守秘義務はなぜ大切か ⑥守秘義務解除の条件 ２）インフォームド・コンセント ３）医療情報の開示と説明 ４）本当のことの告知 ５）パターナリズム		
5-8 (9-16)	３．医療倫理学の応用問題	１）治療拒否 ２）患者の弱さと自律の尊重 ３）ケアと倫理 ４）患者と医療者の意見の対立 ５）家族と「その他の関係」 ６）限られた医療資源の配分	討議	

評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
医療倫理学の ABC　メヂカルフレンド社

授業科目	社会福祉学			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	横山　裕	実務経験		授業形態	講義		
開講年次	２年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．社会保障の理念と社会福祉の諸制度と施策について理解する。 ２．社会福祉の担い手とその職種の役割を学び、生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	第１章 生活と福祉	１）なぜ福祉を学ぶのか ２）生活基盤 ３）ライフサイクル ４）人間の集団としての働き	講義	横山
	第２章 社会保障の 概念･歴史･制度体系	１）社会保障概念の形成 ２）日本の社会保障の歴史的発展 ３）社会保障の定義と制度の範囲・分類 ４）社会保障の目的と機能 ５）社会保障の方法と財政		
3-5 (5-10)	第３章 わが国の 社会保険制度	１）社会保険の役割と制度の分類 ２）医療保険制度 ３）老人保健制度と公費負担医療制度 ４）保健医療制５）医療提供体制 ６）国民医療費と医療制度改革の課題 ７）介護保険制度 ８）年金保険制度 ９）労働保険制度		
6-7 (11-14)	第４章 社会福祉の歴史	１）慈善事業から福祉国家まで ２）わが国の社会福祉の歴史		
8-11 (15-22)	社会福祉の担い手と その職種の役割	１）社会福祉サービスと提供組織 ２）幅広い分野で働く社会福祉の担い手 ３）社会福祉援助を行う専門職「ソーシャルワーカー」 ４）社会福祉分野の資格制度と実践分野 ５）社会福祉と保健の連動の場と重要性		
	第５章 社会福祉の諸制度と 施策	１）生活保護法と施策 ２）児童福祉と施策 ３）身体障害児の福祉施設 ４）障害者の福祉施策 ５）知的障害者（児）の福祉施策 ６）精神障害者の福祉施策 ７）高齢者の福祉施策 ①高齢者保健福祉施策の社会的背景 ②高齢者保健福祉施策の目的と理念 ③高齢者保健福祉施策の経緯 ④介護保険制度 ⑤地域における高齢者保健福祉の課題 ⑥高齢者の権利擁護と虐待防止		
12 (23-24)	第６章 社会福祉行政のしく み	１）社会福祉行政のしくみ		
13-15 (25-30)	第７章 社会保障・社会福祉 改革の動向	１）少子高齢社会と社会保障改革 ２）福祉改革と社会福祉基礎構造改革		

評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
体系看護学全書社会福祉 健康支援と社会保障制度３ メヂカルフレンド社

授業科目	公衆衛生学			科目分類	専門基礎分野		
責任教員	黒田　嘉紀	実務経験	医師	授業形態	講義		
	山田　光子	実務経験					
開講年次	２年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．公衆衛生に関連する統計情報を理解し、組織的な公衆衛生活動について学ぶ。 ２．健康な社会を実現するための看護の役割について学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	第１章 衛生学・公衆衛生学 序論	1-1　衛生学・公衆衛生学 1-2　健康をめぐって 1-3　生活と健康 1-4　健康問題の変遷、公衆衛生と医療の歴史 1-5　公衆衛生活動 1-6　生命倫理 - 保健医療福祉の倫理	講義	黒田
	第２章 保健統計	2－1　健康の測定と健康指標 2－2　人口統計		
3-4 (5-8)	第３章 疫学	3－1　疫学とは 3－2　疫学調査の手順と留意事項 3－3　疾病の分類 3－4　疾病量の把握 3－5　疫学の方法		
	第４章 疾病予防と健康管理	4－1　疾病リスクと予防医学 4－2　健康管理 4－3　健康増進 4－4　健康日本		
5 (9-10)	第５章 主な疾病の予防	5－1　感染症の予防 5－2　循環器系の疾患の予防 5－3　糖尿病・脂質異常症・痛風 ・メタボリックシンドロームの予防 5－4　がんの予防 5－5　腎疾患の予防 5－6　アレルギー疾患の予防 5－7　不慮の事故と自殺の防止	講義	山田
6-7 (11-14)	第６章 環境保健	6－ 1　人間の環境 6－ 2　環境の把握とその評価 6－ 3　物理的環境要因 6－ 4　化学的環境要因 6－ 5　生物的環境要因－微生物を中心に 6－ 6　空気の衛生と大気汚染 6－ 7　水の衛生と水質汚染 6－ 8　廃棄物 6－ 9　衣食住の衛生 6－10　公害と環境問題 6－11　環境の管理		
8-9 (15-18)	第７章 地域保健と保健行政	7－1　地域社会と地域保健 7－2　地域保健活動と行政 7－3　消費者保健 7－4　健康都市		
	第８章 母子保健	8－1　母子保健の水準 8－2　母子保健の課題 8－3　母子保健活動と行政		

10 (19-20)	第９章 学校保健	9－1　子どもの健康状況 9－2　学校保健とは 9－3　学校保健の組織と運営 9－4　学校保健管理 9－5　歯科保健－小児を中心として 9－6　学校環境管理 9－7　学校保健教育	講義	山田
11 (21-22)	第 10 章 産業保健	10－1　働く人々の健康 10－2　労働災害・事故 10－3　職業病 10－4　職場における健康診断と健康増進 10－5　労働者の労働時間と余暇 10－6　職場復帰	講義	黒田
12 (23-24)	第 11 章 高齢者保健・医療・介護	11－1　老化とは 11－2　高齢者の生活と健康 11－3　高齢者の健康状態 11－4　高齢者の保健と医療 11－5　介護保険		
13 (25-26)	第 12 章 精神保健	12－1　精神保健と心の働きの理解 12－2　ストレスと精神健康の破綻 12－3　精神の健康とは 12－4　精神障害の現状と分類 12－5　精神保健福祉活動		
14 (27-28)	第 13 章 国際保健医療	13－1　国際保健とは 13－2　人間と民族と国 13－3　途上国の情報入手と調査法 13－4　途上国の健康問題とその対策 13－5　日本の保健医療の国際協力 13－6　国際機関を通じた協力－国連、ＷＨＯなど	講義	山田
15 (29-30)	第 14 章 保健医療福祉と法規	14－1　保健医療行政の概要と基礎知識 14－2　保健制度の仕組み－行政組織 14－3　医療制度の仕組み 14－4　保健医療行政に関するその他の事項		
評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）			
教科書・参考書等 シンプル衛生公衆衛生学　　南江堂 国民衛生の動向　厚生の指標				

授業科目	地域生活環境論			科目分類	専門基礎分野	
責任教員	山田　光子	実務経験		授業形態	講義	
開講年次	３年後期			単 位 数	１	時間数　１５
科目目標	１．人間と自然との関わりを考え、生命に与える影響を学ぶ。 １）地域の現状を知る。 ２）自然界と人間との基本的関係に即した物事の見方・考え方を修得し、自然に触れることで小さな草木の生命を慈しむ心を育むとともに、自分自身が自然破壊の原因のひとつになっていることに気づく機会とする。					

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	物理的、化学的環境要因	・放射線による健康問題、 ・環境汚染化学物質等による健康問題	講義	山田
2 (3-4)	空気の衛生と環境汚染 住居の衛生	・空気の正常成分、異常成分 ・大気汚染 ・住居の衛生と安全		
3 (5-6)	水の衛生と水質汚濁	・上水道の構成、水質基準 ・下水処理、水質指標 ・水質汚濁		
4 (7-8)	廃棄物対策の動向	・一般廃棄物、し尿、産業廃棄物の処理 ・不法投棄の現状と課題		
5 (9-10)	公害と環境問題 環境管理	・日本における公害問題 ・地球規模の環境問題 ・最近の環境問題 ・環境管理の方法 ・国際的取り組み、国内での取り組み		
6 (11-12)	食品と健康	・化学物質、放射線、ＢＳＥ等 ・食中毒 ・食品添加物について ・健康食品の現状と課題		
7-8 (13-16)	エコロジーと省エネルギー 宮崎の現状	・エコロジーの取り組み ・学校施設における省エネルギー対策 ・宮崎における、下水処理、廃棄物処理の現状		
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等
シンプル衛生公衆衛生学　南江堂
厚生の指標　国民衛生の動向　一般財団法人　厚生労働統計協会

授業科目	関係法規			科目分類	専門基礎分野	
責任教員	渡邉　譽	実務経験		授業形態	講義	
開講年次	２年後期			単 位 数	１	時間数　１５
科目目標	本講義は、人の生命を守り医療過誤の防止に努め、人に信頼される専門職看護師として、将来、医療業務に従事する際に必要不可欠とされる関係法規の理解と法的ものの考え方を身につける。					

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	法の概念	ガイダンス 法の概念 法の種類 成文法と不文法 法の分類 法の効力の優劣	講義	渡邉
2 (3-4)	看護法 医事法	保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律 医師法 医療法 歯科衛生士法 精神保健福祉士法 臓器の移植に関する法律 死産の届出に関する規程 本試験過去問検討		
3 (5-6)	予防衛生法 保健衛生法	地域保健法 健康増進法 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 母子保健法 母体保護法 学校保健安全法 予防接種法 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 身体障害者福祉法 本試験過去問検討		
4 (7-8)	薬務法	薬事一般に関する法律 麻薬及び向精神薬取締法 大麻取締法 毒物及び劇物取締法 覚せい剤取締法 本試験過去問検討		
5 (9-10)	社会保険関係法	健康保険法 国民健康保険法 高齢者の医療の確保に関する法律 介護保険法 国民年金法 本試験過去問検討		
6 (11-12)	社会福祉関係法	生活保護法 老人福祉法 児童福祉法 知的障害者福祉法 身体障害者福祉法 本試験過去問検討		

7 (13-14)	労働関係法	労働基準法 労働契約法 労働安全衛生法 労働者災害補償保険法 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 男女共同参画社会基本法 本試験過去問検討	講義	渡邉
8 (15-16)	医療過誤 総括	医療過誤とは、医療過誤を防ぐにはどうしたらよいか、医療過誤による責任はどのような責任か、民事上、刑事上、行政上の３つの法的責任について事例を挙げて解説 看護関係法令：保健師助産師看護師法 保健師助産師看護師法施行令 保健師助産師看護師法施行規則について重要条文の解説・整理		
評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等
教科書：系統看護学講座　専門基礎分野「看護関係法令」健康支援と社会保障制度４(医学書院)
参考書：ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障４「医療関係法規」(MC メディカ出版)

専門分野

基礎看護学

地域・在宅看護論

成人看護学

老年看護学

小児看護学

母性看護学

精神看護学

看護の統合と実践

臨地実習

授業科目	看護学概論			科目分類	専門分野		
責任教員	後迫　和子	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	１年　前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	看護の本質を探究するために、看護の対象である人間を理解するとともに、人間と健康、健康と環境について学習し、看護専門職としての機能と役割について理解する。また看護の歴史、看護理論を学び、看護の概念や本質、定義、理論がどのように作られてきたかを理解する。さらに、人間を身体的、心理的、社会的側面から理解し、統合された存在として捉えることができ、健康障害や疾病が人に及ぼす影響及び回復過程を支えるものが理解できる。また、倫理的看護実践を行うために必要な知識を身に付ける。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-15 (1-30)	序章　看護の責務とその広がり	＜看護職の魅力の追求、そして「看護」について学ぶ＞ １）　看護職の魅力（看護職への道）とは ２）　看護の責務とその広がり ３）　ワークブックで学ぶナイチンゲールについて知る。 ナイチンゲールから「看護」の原点を考える ４）　ナイチンゲール看護覚え書「金井一薫の看護の５つのものさし」 ＊ナイチンゲールの看護とは：看護で着目をするのは「生活」という視点（環境整備） ５）　看護の対象である人間を理解する 技術の一般概念、看護技術の特殊性 ６）技術とはなにか	講義 演習	後迫
	第１部 看護にける基本的概念	１．看護への導入（看護のねらい） １）看護とは ⑴看護、ケア、ケアリング及び看護が行うこと ⑵看護の役割 ２）実践科学としての看護　看護実践のための井淳エビデンスに基づく看護 ３）看護実践のための教育の準備 ４）看護実践のための基準　５）看護の変遷 ６）現代社会における看護のあり方 ２．看護の対象とその理解 １）統合体としての人間 ２）社会的・文化的存在としての人間 ３）健康障害をもつケアの対象の理解 ４）ストレスとコーピング ３．健康と病気における安寧（ウエルネス）の促進 １）健康・病気の捉え方の変遷（WHOの定義） ２）健康の諸相　　３）人々の生活と健康 ４）健康に影響する要因 ５）健康増進に向けた看護の役割 ４．ライフサイクルと健康 １）成長・発達の概念 ・人間の成長、発達の特質 ・発達理論の概観（フロイト、エリクソン、ハヴィガースト） ２）小児から成人期の概念：エリクソン ３）老年期の概念：ハヴィガースト 喪失、悲嘆と死		

	第２部 看護の理論と実践	５．看護実践のための理論的根拠 １）看護理論の分類 ２）看護理論の変遷 ３）さまざまな看護理論 ４）看護実践を読み解く ６．看護における倫理と価値 １）倫理と法律 ・共通点と相違点、看護における法律と倫理 (1) 法的責任　(2)看護専門職としての倫理 ２）看護倫理とは ３）歴史にみる人権の変遷 (1)世界人権宣言　(2)歴史にみる人権の変遷 ４）道徳的ジレンマと倫理的課題 ５）看護倫理と価値 ６）倫理的課題への対応 ７）倫理的看護実践を行うために必要なこと ７．看護ケア（看護援助）の基本的役割 １）コミュニケーターとしての役割 ２）支援者、代弁者としての役割 ３）学習支援者及びカウンセラーとしての役割 ４）ケア提供者としての役割 ８．看護過程	講義 演習	後迫
	第３部 社会的機能としての看護	９．看護における法的側面 １）法の概念　２）看護実践の職業的及び法的規制 ３）医療事故における法的責任 ・行政処分、懲戒処分とは ４）看護実践に影響を及ぼす法律 ・患者を守る医療現場の安全・健康 ・看護師が働く場としての安全・健康など 10．保健・医療・福祉システム １）概念、サービス提供の場のタイプ ２）保健・医療・福祉チーム ３）ケア提供の経済 ４）看護サービスに対する評価 11．看護の展開と継続性 １）看護の継続性と継続看護 ２）他職種連携・協働における看護		
	第４章 看護の統合と今後の展望	12．看護の統合 １）看護ケアのマネジメント ２）医療安全への取り組みと働く人の労働安全 ３）災害看護の基礎 13．これからの看護の課題と展望 １）看護に求められる教育 ２）専門職としての看護組織 ・日本看護協会、日本看護学校協議会		

評価方法	出席状況・課題レポート・演習時の態度及び姿勢・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
・系統看護学講座　　基礎看護技術Ⅰ　医学書院　　・実践に生かす看護理論　サイオ出版
・ナーシング・グラフィカ　基礎看護学①　看護学概論　ＭＣﾒﾃﾞｨｶ出版
・ワークブックで学ぶナイチンゲール『看護覚え書』　徳本弘子　メヂカルフレンド社
・Ｆナイチンゲール著　湯槙ます・小玉香津子・訳　『看護覚え書き』　現代社

備考	・受講に必要な知識やスキル、受講条件について、看護学概論及び人間関係論で学んだ知識を応用できるように復習しておくこと。

授業科目	基礎看護技術Ⅰ			科目分類	専門分野		
責任教員	中村明子	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	１年　後期			単 位 数	１	時間数	１５
科目目標	１．コミュニケーションの特徴と医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 ２．コミュニケーションの基本的な方法について学び、学内演習を通して実践することで、コミュニケーション障害のある人への効果的な対応を学ぶ。 ３．コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、ミスコミュニケーションを避け、適切なメッセージを伝える方法を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-8 (1-16)	１．コミュニケーションの意義と目的	１．コミュニケーションとは １）双方向的な相互作用を生むコミュニケーション 一方通行的な相互作用 ２）人間のコミュニケーションの特徴 ２．看護・医療におけるコミュニケーション １）看護・医療におけるコミュニケーションの目的：信頼関係の構築、主体的参加 ２）看護・医療におけるコミュニケーションの特徴 ３）看護・医療におけるコミュニケーションの重要性：患者との信頼関係を築く	講義 演習	後迫
	２．関係構築のためのコミュニケーションの基本	１．接近的コミュニケーションの原理 ２．接近的行動と非接近的行動 １）自己紹介　＊患者に寄り添う態度の前提 ２）外見・身だしなみ　３）表情　４）視線 ５）相手との距離・身体の向き　６）姿勢・動作 ７）ジェスチャー　８）スキンシップ ９）テリトリー　10)におい　11)声量・声のトーン		
	３．効果的なコミュニケーションの実際	１．傾聴することの重要性 ２．情報収集の技術 １）オープンエンドクエスチョンと クローズドクエスチョン ３．問診（面接）技術 ４．説明の技術 ５．アサーティブネス		
	４．フィジカルアセスメントに必要な技術	１．診査の基盤となるコミュニケーション		
	５．コミュニケーション障害への対応	１．コミュニケーション障害がある人の特徴 ２．言語的コミュニケーションに必要な身体機能 ３．コミュニケーション障害がある人への対応		

評価方法	出席状況・課題レポート・演習時の態度及び姿勢・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
系統看護学講座　　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
ナーシング・グラフィカ　基礎看護学①　看護学概論　ＭＣﾒﾃﾞｨｶ出版
看護コミュニケーション - 基礎からステップ -　へるす出版
患者の心に寄り添う聞き方・話し方　メヂカルフレンド社　　など

授業科目	基礎看護技術Ⅱ－１			科目分類	専門分野		
責任教員	和田　亜矢	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	１年　前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	看護実践に必要なフィジカルアセスメントのための知識・技術を習得する						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．ヘルスアセスメント ２．フィジカルアセスメント①	１）ヘルスアセスメントの持つ意味 ２）ヘルスアセスメントにおける観察 ３）ヘルスアセスメントにおける視点 ４）フィジカルアセスメントの意味・概要 ５）フィジカルイグザミネーションの意味	講義 演習	和田
2-3 (3-6)	３．フィジカルアセスメント②	１）健康歴とセルフケア能力のアセスメント ２）看護の対象をとらえるための技術 視診・触診・聴診・打診		
4 (7-8)	４．身体計測	１）身体計測の目的 ２）身長・体重・腹囲測定の目的・方法 ３）ＢＭＩ		
5 (9-10)	５．バイタルサインとは ６．バイタルサイン測定法①	１）バイタルサインの意義 ２）体温維持に関する基礎知識 ３）体温測定の目的・方法・留意点	講義 演習	和田
6 (11-12)	７．バイタルサイン測定の方法②	１）脈拍に関する基礎知識 ２）脈拍測定の目的・方法・留意点		
7-8 (13-16)	８．バイタルサイン測定の方法③	１）呼吸に関する基礎知識 ２）呼吸測定の目的・方法・留意点 ３）呼吸の異常		
9-12 (17-24)	９．バイタルサイン測定の方法③	１）血圧に関する基礎知識 ２）血圧計のしくみ、取り扱いの注意点 ３）血圧測定の方法（触診法、聴診法） ４）状況設定場面でのバイタルサイン測定実施		
13 (25-26)	10．罨法	１）罨法の目的 ２）罨法の実際		
14-15 (27-30)	11．看護記録	１）看護記録の構成要素、法的根拠 ２）フローシートの記載方法	講義	

評価方法	出席状況・課題レポート・演習中の取り組み態度・①筆記試験・②技術試験

教科書・参考書等
基礎看護学２　基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ　　医学書院
写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント　インターメディカ
系統看護学講座　専門基礎科目　解剖生理学　医学書院教科書・参考書等

備考	演習は実習室１を使用（白衣着用） ※課題提出：指示された日時を厳守する。

授業科目	基礎看護技術Ⅱ－２			科目分類	専門分野		
責任教員	中村　明子	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	１年　後期			単 位 数	１	時間数	１５
科目目標	フィジカルアセスメントの技術を用いて、臨床判断ができるための知識・技術を習得する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	１．呼吸の フィジカル アセスメント	１）呼吸フィジカルアセスメントの目的 ２）呼吸フィジカルアセスメントの実際 ３）呼吸音測定の方法 ４）パルスオキシメーターを用いた観察の方法	講義 演習	中村
3 (5-6)	２．循環器系の アセスメント	１）循環器系フィジカルアセスメントの目的 ２）循環器系フィジカルアセスメントの実際 ３）心音聴取の方法		
4 (7-8)	３．腹部の フィジカル アセスメント	１）腹部フィジカルアセスメントの目的 ２）腹部フィジカルアセスメントの実際 ３）腹部触診の方法 ４）腹部聴診の方法		
5-8 (9-16)	４．事例を用いた フィジカル アセスメント	１）呼吸器疾患を持つ患者の事例についての アセスメント ・実際に用いるフィジカルアセスメント ・症状が起きている機序		

評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）①筆記試験　／　②技術試験

教科書・参考書等
　基礎看護学２　基礎看護学技術Ⅰ　　医学書院
　写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント　インターメディカ
　系統看護学講座　専門基礎科目　解剖生理学　医学書院教科書・参考書等

備考	演習は実習室１を使用（白衣もしくは着用）※課題提出：指示された日時を厳守する。

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">基礎看護技術Ⅲ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td rowspan="2">責任教員</td><td>村岡　美穂</td><td rowspan="2">実務経験</td><td>看護師</td><td rowspan="2">授業形態</td><td colspan="3" rowspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>中川　綾香</td><td>看護師</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">１年　前期</td><td>単 位 数</td><td>１</td><td>時間数</td><td>３０</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">１．活動・休息の意義を理解し基本的な技術を習得できる。
２．看護における安全の重要性を理解し、対象の安全を守り事故を未然に防止するための基本的知識・技術を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>講義回数</td><td>単元</td><td colspan="4">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1-7
(1-14)

講義
(2 回)
初回と
2 回目</td><td>１．活動・休息
援助技術</td><td colspan="4">基本的活動の援助(基本的活動の基礎知識、体位)
１．基本的活動の基礎知識
１）よい姿勢とは
２）ボディメカニクスの原理
２．体位
３．移動（体位変換、歩行、移乗・移送）
４．身体ケアを通じてもたらされる安楽
安楽な体位を保持することができる
５．看護実践へボディメカニクスを活用
ボディメカニクスを考慮して体位変換を行うことができる</td><td>講義
演習</td><td>村岡</td></tr>
<tr><td>２．睡眠・休息の
援助</td><td colspan="4">１．援助の基礎知識
１）睡眠障害のアセスメント
２．睡眠・休息の援助</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8-15
(15-30)</td><td>３．感染防止の
技術</td><td colspan="4">１．感染とその予防の基礎知識
１）感染成立の条件
２）感染予防
３）院内感染の防止
２．標準予防策（スタンダードプリコーション）
１）標準予防策の基礎知識と対策の実際
３．感染経路別予防策
１）感染経路別予防策の基礎知識
２）接触予防策、飛沫予防策、空気予防策
４．感染源への対策（洗浄、消毒、滅菌）
５．無菌操作
ガーゼ交換時の看護
６．感染性廃棄物の取り扱い
７．医療施設における感染管理
８．針刺し事故防止</td><td>講義
演習</td><td>中川</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">出席状況・①筆記試験（終講試験）②技術試験
※評価の割合は①を５０％、②を５０％とする。</td></tr>
<tr><td colspan="8">教科書・参考書等
系統看護学講座　　基礎看護技術Ⅱ　医学書院（村岡）
系統看護学講座　　基礎看護技術Ⅰ　医学書院（中川）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="7">教科書は必ず持参。演習は実習室で行う。
原則的に演習室での服装は白衣とする</td></tr>
</table>

授業科目	基礎看護技術Ⅳ			科目分類	専門分野		
責任教員	中村　明子	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	２年　前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．看護の視点から対象をみつめ、看護の必要性を判断し実施するための思考プロセスを学習する。 ２．看護過程を展開する技術を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．看護過程の目的	１）看護過程の目的 ２）看護過程の構成要素 ３）クリティカルシンキング	講義 演習	中村
2-3 (3-6)	２．ヘンダーソン看護理論について	１）看護過程の看護理論の活用 ２）ヘンダーソン看護理論の概要		
4-5 (7-10)	３．看護過程 展開技術①	１）アセスメントとは ・情報収集 ・アセスメントの考え方		
6-8 (11-16)	４．看護過程 展開技術②	１）事例をもとにしたアセスメントの実際		
9-10 (17-20)	５．看護過程 展開技術③	１）看護問題の抽出 ２）目標設定		
11-12 (21-24)	５．看護過程 展開技術④	１）看護計画立案 ２）看護計画発表		
13-14 (26-28)	6. 看護過程展 開技術⑤	１）評価の方法 ２）評価の実際		
15 (29-30)	まとめ	１）講義全体を通しての要点 ２）クリティカルパスについて		
評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等
系統看護学講座　基礎看護学２　基礎看護学技術Ⅰ　　医学書院

授業科目	基礎看護技術Ⅴ			科目分類	専門分野		
責任教員	村岡　美穂	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
	興梠　ちひろ	実務経験	看護師				
開講年次	１年　前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．人間の生活および健康における食事の生理的、心理的、社会・文化的意義を理解し、栄養状態を整えるための基礎知識及び基本的援助技術を習得する。 ２．生活の基本を構成する生理的ニードである排泄を「自立」、「生活の質」と言う観点からも捉えられたうえで援助技術を身につける。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-7 (1-14)	１．食事援助技術	１．人間にとって食事、栄養摂取の意義と、仕組みについて理解する ２．人間が必要とするエネルギー量や水分量、栄養素などを理解し、食事・栄養摂取のアセスメントを行うための基礎知識を学ぶ ３．演習を通して食事摂取の自立困難な患者の気持ちを理解する ４．演習を通して視覚が及ぼす影響を知るとともに、食事しやすい体位の工夫など理解できる	講義 演習	興梠
8-15 (15-30) 講義２回（初回と２回目）	３．排泄援助技術	１．排泄の意義および患者の尊厳を踏まえた援助の基本を理解する ２．排泄のメカニズムとアセスメントを理解する ３．自然排尿、排便の介助 トイレにおける排泄、ベッドサイドでの排泄、ベッド上での排泄など、患者の病態およびADLに応じた様々な排泄援助の実際について学ぶ ４．一時的導尿、持続的導尿について学ぶ 導尿を必要とする患者に対して行う援助を学ぶ ５．排便を促す援助 浣腸、摘便、導尿を必要とする患者に対して行う援助を学ぶ 便秘改善のための看護ケアを学ぶ ６．ストーマケアの基礎知識、ストーマ装具の交換方法を学ぶ ７．おむつ交換、陰部洗浄を必要とする患者に対して行う援助を学ぶ	講義 演習	村岡

評価方法	出席状況・課題レポート・演習時の態度及び姿勢・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
系統看護学講座　　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
臨床看護技術　アドバンス　②　　インターメディカ

備考	教科書は必ず持参。演習は実習室で行う 原則的に演習室での服装は白衣とする 課題提出のルール：指定された日時を厳守し、未提出の場合減点対象とする

授業科目	基礎看護技術Ⅵ			科目分類	専門分野		
責任教員	村岡　美穂	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
	興梠　ちひろ	実務経験	看護師				
開講年次	１年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．環境と人の相互作用を理解し、健康生活の維持や疾病回復のための環境調整方法を学ぶ。 ２．対象の清潔の意義と衣生活を理解し、基本的な技術を習得できる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-7 (1-14)	１．環境調整技術	療養生活環境調整は生活の基本を構成する生理的ニードを満たすための基盤として重要であり、「安全」あるいは「生活の質：QOL」と言う観点からも重要であることを理解し、援助の実施が考えられている。 また、患者は一日の大半を病室で過ごしているため、患者の活動・休息のリズムに応じ 24 時間の連続的な療養生活環境の調整が必要であることを理解する。 １．環境調整の必要性・意義 ２．環境にはどのような要素があることを理解する ３．空調、照明、換気、プライバシーの保護など病室における環境調整の方法を理解する ４．ベッドメーキングおよび寝たきり患者のシーツ交換の方法を学ぶ	講義 演習	興梠
8-15 (15-30) 講義 1 回 （初回）	２．清潔・衣生活援助技術	１．健康な生活における清潔の意義と重要性を理解する ２．皮膚・粘膜に関する解剖生理学的知識を活用しながら、清潔援助の効果と全身への影響を理解する ３．疾病時の清潔の重要性について理解する ４．入浴の意義と身体への影響、およびその援助方法を学ぶ ５．手浴、足浴、全身清拭、洗髪、口腔ケア、整髪、爪切りの意義と方法を学ぶ ６．衣生活の意義を理解し、患者の状態に合わせた寝衣交換の方法を学ぶ ７．様々な清潔の方法から、患者に合わせた方法を選択し、安全・安楽に援助することができる ８．ケアにおける羞恥心や自尊心の低下など患者の心理的な苦痛を理解することができる	講義 演習	村岡

評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）①筆記試験　②技術試験

教科書・参考書等
系統看護学講座　　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
フローレンス・ナイチンゲール　看護覚え書き
ヴァージニア・ヘンダーソン　　看護の基本となるもの
写真でわかる臨床看護技術１　アドバンス　インターメディカ 2021（村岡　美穂）
パーフェクト　必修　メジカルフレンド　2023（村岡　美穂）

備考	教科書、授業プリントは必ず持参。 演習は実習室で行う。演習室での服装は原則として白衣とする。

授業科目	基礎看護技術Ⅶ			科目分類	専門分野		
責任教員	興梠　ちひろ	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
	村岡　美穂		看護師				
開講年次	１年後期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．薬物療法時の看護の視点を理解し、患者の安全を確保するための基本技術を習得する。						

講義回数	単元	学習方法並びに方法	担当教員	
1-8 (1-16)	１．薬物療法における看護師の役割 ２．与薬に関する看護技術	１．薬物療法の基本、与薬時の看護師の役割を理解する。 ２．看護業務である診療の補助時の、医療安全について理解する。 ３.検査や処置などのために一時的に薬物を用いる場合、一連の薬物使用スケジュールを理解し、薬物の使用目的について理解する。 ４．経口・舌下・皮膚塗布剤・座薬・吸入を理解する。	講義 演習	興梠
9-15 (17-30)		５．注射の基礎知識を学び、適用と目的を理解する。 ６．清潔操作を用いた注射準備の必要性について理解する。 ７．注射（点滴）法による与薬の必要性を理解し、長時間、輸液ラインをつけたまま日常生活を送る患者の気持ちを考える。 ８．静脈内注射について、ワンショット、翼状針を用いた点滴静脈内注射、静脈内留置針を用いた点滴静脈内注射の実際を理解する。 ９．演習を通して６R の必要性を理解し、誤薬防止に対する確認の必要性を理解する。 10．演習を通して筋肉や神経の走行などを考えた、注射の技術を習得する。	講義 演習	村岡

評価方法	出席状況・課題レポート・演習時の態度及び姿勢・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
系統看護学講座　　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
医療安全ワークブック　第３版　　医学書院
写真でわかる　　臨床看護技術１　アドバンス　　インターメディカ
スタディーガイド　2023（照林社）
パーフェクト　必修　メジカルフレンド　2024（村岡　美穂）

備考	・各回の授業に必要な事前学習、関連学習を行ったうえで授業に臨むこと授業のルール ・演習は実習室１使用（白衣着用）

授業科目	臨床看護総論			科目分類	専門分野		
責任教員	田中　とも子	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	１．臨床看護における場の特徴、臨床看護に臨むうえでの心得、看護の役割について理解することができる。 ２．医療・看護を必要としている患者と家族を理解することができる。 ３．健康障害を持つ対象の主要症状について、その症状や徴候が出現するメカニズムを理解し、症状緩和を目指す看護実践に必要な知識・技術を習得することができる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	１．１健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護	１）臨床看護の特徴と看護師の役割 ２）ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ ３）家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ ４）生活と療養の場からとらえた対象の対象者と家族のニーズ	講義	田中
3-7 (5-14)	２．健康状態の経過に基づく看護	１）健康状態と看護 ２）健康の維持・増進を目ざす看護 ３）経過別看護 ・急性期 ・慢性期 ・リハビリ期 ・終末期		
8-11 (15-22)	３．治療・処置を受ける対象者への看護	１）治療・処置別看護 ・食事療法 ・薬物療法 ・手術療法 ・放射線療法など ２）検査時の看護 ３）ME 機器の取り扱い		
12 (23-24)	４．主要症状を示す対象者への看護（呼吸困難）	１）呼吸困難 （１）呼吸の観察とアセスメント （２）呼吸困難を緩和する援助 （３）酸素・薬物吸入法・体位の工夫・吸引法		
13 (25-26)	８．酸素吸入法	１）酸素療法の目的・適応 ２）酸素投与方法の種類と特徴、観察と管理		
	９．吸引法	１）吸引の目的・適応、種類と特徴、方法と観察 （１）口腔・鼻腔内吸引 （２）気管内吸引		
14-15 (27-30)	10．酸素吸入法・吸引法の実際	１）酸素ボンベの取り扱いと酸素マスク法 ２）口腔・鼻腔内吸引法	演習	田中 その他の教員
評価方法	出席状況・課題レポート・演習時の態度及び姿勢・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　医学書院
系統看護学講座　臨床看護総論　医学書院
系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔２〕呼吸器　医学書院
写真でわかる　臨床看護技術１・２　アドバンス　インターメディカ

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">看護研究</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td rowspan="2">責任教員</td><td>後藤　美樹</td><td>実務経験</td><td>看護師･保健師</td><td rowspan="2">授業形態</td><td colspan="3" rowspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>中村　明子 他</td><td>実務経験</td><td>看護師</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">３年通年</td><td>単位数</td><td>１</td><td>時間数</td><td>３０</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">看護の質の向上や望ましい看護提供の為に、看護実践の場における疑問や未知の看護現象を科学的に探究する基礎を学ぶ。領域別看護実習においての事例をもとに、自己の看護を振り返り看護過程の実践を通して、看護学創造性、専門性を深める。
１．看護研究の意義・目的を理解する
２．看護研究に必要な科学的思考とは何かを理解するとともに、自己の考えを論理的に他者に表現する力を養う。
３．ケース・スタディをまとめることで、自己の看護観を確立する機会とする。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>講義回数</td><td>単元</td><td>学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>1-5
(1-10)</td><td>看護研究</td><td>１）看護研究の意義
２）研究の方法と一般的な記載内容
３）文献検索
４）看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定
５）看護におけるケース・スタディ
ケース・スタディの計画と実施
ケース・スタディのまとめ方</td><td>講義</td><td>後藤
他</td></tr>
<tr><td>6-15
(11-30)</td><td>事例分析、まとめ</td><td>１）事例研究の実際をまなぶ。一連の看護過程の中から１例選択し、文献を用いて考察する中で、具体的な実践の中で捉えた看護の視点や観点を、文献と照らして確認し、看護とは何かについて考えることができる。

※看護研究は学生の主体的な取り組みが原則であるが、研究の進行に際しては、指導教員の助言や承認を経てから開始する。
※看護研修のすべての過程において、倫理的配慮を十分に検討して実施すること</td><td>事例
研究</td><td>中村
後藤
他</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">出席状況・指導を受ける態度及び姿勢・事例研究まとめ</td></tr>
<tr><td colspan="5">教科書・参考書等
わかりやすいケーススタディの進め方　照林社</td></tr>
</table>

授業科目	地域・在宅看護論Ⅰ			科目分類	専門分野		
責任教員	後藤　美樹	実務経験	看護師･保健師	授業形態	講義		
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	在宅看護が推進される社会的背景と変遷を知りその目的と役割を理解する。在宅看護の基本的理念とその概要を理解しその人らしい生活が営めるよう在宅における看護のあり方を考えることができる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	１．在宅看護の概要	１．在宅看護活動の目標と目的 ２．地域で生活する対象者の特徴 ３．在宅看護を取り巻く最近の変化	講義	後藤
3-5 (5-10)	２．在宅看護を展開するための基本的概念	１．在宅看護と QOL ２．生活の自立支援 ３．在宅看護における自己決定 ４．在宅看護におけるアドボカシー ５．エンパワメント ６．プライマリヘルスケア ７．ヘルスプロモーション ８．在宅看護に求められる倫理		
6-7 (11-14)	３．療養者と生活する家族の理解	１．わが国における家族の変遷 ２．看護学における家族の定義 ３．家族を理解するための基礎理論 ４．看護のヘルスケア機能 ５．家族の危機と看護職の役割		
8 (15-16)	４．在宅看護の変遷	１．近代看護の歴史における在宅看護の位置づけ ２．在宅看護の歴史		

評価方法	筆記試験（終講試験）・出席状況・小テスト・テスト

教科書・参考書等
ナーシング・グラフィカ　地域療養を支えるケア　在宅看護論①　メディカ出版

授業科目	地域・在宅看護論Ⅱ			科目分類	専門分野		
責任教員	後藤　美樹	実務経験	看護師･保健師	授業形態	講義・演習		
開講年次	２年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	医療依存度の高い療養者や、慢性疾患を持つ療養者とその家族への援助を学び、その人らしい生活が営めるよう、在宅における看護のあり方を考えることができる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-13 (1-26)	１．医療依存度が高い療養者とその家族への在宅での援助	１．褥瘡ケア ・褥瘡発生のリスクアセスメントと予防 ・援助の実際、家族への指導 ２．間欠的自己導尿および留置カテーテル、膀胱瘻 ３．在宅酸素療法 ・意義と目的、対象の特徴 ・訪問時のアセスメント ・安全管理と援助 ・社会資源の活用と調整 ４．在宅経管栄養法 ・意義と目的、対象の特徴 ・訪問時のアセスメント ・安全管理と援助 ・社会資源の活用と調整 ５．在宅中心静脈栄養法 ・意義と目的、対象の特徴 ・訪問時のアセスメント ・安全管理と援助 ・社会資源の活用と調整 7．摂食嚥下障害の援助 ・誤嚥のメカニズム ・誤嚥のアセスメント ・誤嚥のスクリーニング、検査方法 ・誤嚥を防ぐリハビリテーション ・誤嚥を予防する介助法と環境調整 ・誤嚥を予防するための食品の工夫 ・誤嚥のリスクがあるケースの口腔ケア ７．在宅療養における感染予防 ・在宅における感染防止の基本 ・日常的なケアの注意点、指導 ・感染発生時の対応	講義 演習	後藤
14-15 (27-30)	２．在宅療養を支える災害対策	１．在宅療養における災害対策 ２．地域包括ケアシステムにおける災害対策 ３．訪問看護師による災害時対応	講義	
評価方法	出席状況・小テスト・筆記試験(終講試験)			

教科書・参考書等

ナーシング・グラフィカ　地域療養を支えるケア　在宅看護論①　メディカ出版

ナーシング・グラフィカ　地域療養を支える技術　在宅看護論②　メディカ出版

授業科目	地域・在宅看護論Ⅲ			科目分類	専門分野		
責任教員	後藤　美樹	実務経験	看護師･保健師	授業形態	講義		
開講年次	２年後期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	地域療養を支える制度や保険を理解し、訪問看護ステーションにおける訪問看護と看護師の役割の実際について理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-3 (1-6)	１．地域包括 ケアシステムにおける在宅看護	１．療養の場の移行に伴う看護 ・施設と地域の連携システム ・継続看護における看護師の役割 ２．地域包括ケアシステムにおける他職種・多機関との連携 ・地域包括ケアシステムとは ・地域包括支援センターとの連携 ・居宅介護支援事業所との連携 ・行政、看護・介護サービスとの連携 ・地域住民、専門職以外の人々との連携 ・地域ケア会議 ３．在宅看護におけるケースマネジメント、ケアマネジメント	講義	後藤
4-8 (7-16)	３．在宅看護に関わる制度	１．介護保険制度 ・制度の仕組み ・給付手続き ・地域包括支援センター ・介護保険と医療保険の調整 ２．医療保険制度 ・主なサービス給付　他		
9-11 (17-22)	４．訪問看護 ステーションが行う訪問看護	１．訪問看護ステーションの特徴 ２．訪問看護サービスの利用について ３．さまざまな種類の訪問看護 ４．初回訪問の面接技術、コミュニケーション ５．信頼関係の形成 ６．在宅看護過程の展開方法 ７．訪問看護の記録 ８．療養者と家族の住環境整備		
12-15 (23-30)	在宅がん化学療法	１．がん外来化学療法の目的と対象の特徴 ２．がん外来化学療法のアセスメント ３．リスクマネジメント ４．外来通院中の在宅療養者に対する援助 ５．社会資源の活用、調整 １．在宅療養における疼痛管理の意義・目的と対象者 ２．疼痛管理のアセスメント ３．リスクマネジメント ４．療養者と家族の支援の実際 ５．社会資源の活用、調整 ６．補完代替療法の活用 １．終末期の主な症状とコントロール ２．生活環境の整備 ３．医療、介護などチームの連携協働 ３．看取りの看護 ４．家族へのグリーフケア		

12-15 (19-30)	在宅がん化学療法	１．がん外来化学療法の目的と対象の特徴 ２．がん外来化学療法のアセスメント ３．リスクマネジメント ４．外来通院中の在宅療養者に対する援助 ５．社会資源の活用、調整	講義	後藤
	在宅療養における疼痛管理	１．在宅療養における疼痛管理の意義・目的と対象者 ２．疼痛管理のアセスメント ３．リスクマネジメント ４．療養者と家族の支援の実際 ５．社会資源の活用、調整 ６．補完代替療法の活用		
	終末期にある在宅療養者	１．終末期の主な症状とコントロール ２．生活環境の整備 ３．医療、介護などチームの連携協働 ３．看取りの看護 ４．家族へのグリーフケア		
評価方法	出席状況・小テスト・筆記試験(終講試験)			

教科書・参考書等
ナーシング・グラフィカ　地域療養を支えるケア　在宅看護論①　メディカ出版
ナーシング・グラフィカ　地域療養を支える技術　在宅看護論②　メディカ出版

授業科目	地域・在宅看護論Ⅳ			科目分類	専門分野		
責任教員	後藤　美樹	実務経験	看護師･保健師	授業形態	講義・演習		
開講年次	３年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	問題状況を含む事例から、学習課題を見出し、訪問計画を立て事例の問題解決にむけて演習を行い訪問看護に関する知識、態度を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-5 (1-10)	難病の在宅療養者	１．難病の定義と現状 ２．難病法、療養生活における難病対策制度 ３．在宅人工呼吸療法（HMV）非侵襲的陽圧換気療法（NPPV)、気管カニューレ管理 ４．コミュニケーションツールについて ３．リスクマネジメント ４．療養者と家族の支援の実際 ５．社会資源の活用、調整	講義	後藤
6-15 (11-30)	訪問計画を立て 事例の問題解決 に向けての演習	１．演習に関するオリエンテーション ２．演習事例の紹介（59 歳、男性、ALS） ・在宅人工呼吸療法（HMV）非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）について ・療養生活における難病対策制度 ３．事例演習 －全体像の描写・看護問題の明確化と目標設定 訪問看護の実際の計画立案 ４．グループごとの事例演習 －在宅実習室にて実際に看護師役が訪問し、ケア・指導をロールプレイによって演習する ５．演習の総括 個人・グループのリフレクション	講義 演習	後藤
評価方法	出席状況・課題レポート・演習状況・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等
ナーシング・グラフィカ　地域療養を支えるケア　在宅看護論①　メディカ出版
　ナーシング・グラフィカ　地域療養を支える技術　在宅看護論②　メディカ出版

授業科目	地域連携論Ⅰ			科目分類	専門分野		
責任教員	後藤　美樹	実務経験	看護師･保健師	授業形態	講義		
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	学生自身が居住地区に関心を寄せ、地位住民の目線をもち、そこに住む人々とつながりを持つ力が必要となることを理解する。学生自身がそれぞれの地域にどのような人々が暮らし、どのような社会資源があり、何が求められているのか、まず自分の地域を知ることが大切であり、看護職はケアの提供だけでなく予防活動や、自助や互助を高めるような取り組みをする役割を求められていることを理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	１．地域生活を支える社会資源と他職種他機関連携	１．連携・協働の必要性 ２．専門職の人々との連携 ３．専門職以外の人々との連携 ４．地域で生活する対象者の特徴 ５．地域住民との連携と見守りネットワーク ６．地域生活を支える機関 ７．地域生活で活用できるサービス ８．社会資源の活用における看護職の役割 ９．地域で看護職に求められる倫理	講義	後藤
3-8 (5-16)	２，居住地域における多機関・多職種と連携、地域での生活を支えるために必要な保健・医療・福祉サービスとその活用法	１．グループワークにて居住地域の中学校区における特徴、社会資源とその活用の実際（高齢者対象の活動、小児対象の活動、障害者対象の活動、複合的な活動、健康増進・疾病予防的な活動など）を調べ、学びをグループごとにプレゼンテーションを行いディスカッションし共有学習する。	GW・プレゼンテーション	
評価方法	出席状況・小テスト・テスト・終講試験（終講試験）			

教科書・参考書等
ナーシング・グラフィカ　地域療養を支えるケア　在宅看護論①　メディカ出版

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">地域連携論Ⅱ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>井料田　豊子</td><td>実務経験</td><td>看護師</td><td>授業形態</td><td colspan="3">講義</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">２年前期</td><td>単位数</td><td>１</td><td>時間数</td><td>１５</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">基礎看護学実習Ⅱでの学びを振り返り、病院における専門職種チームおよび入退院に伴う地域連携における看護師の役割について理解を深める。看護職は職種間の連携においても中心的な役割を担うとともに、多様な部署や機関に属する看護師同士の連携、他職種との連携を取り持つ橋渡し役となることを理解する。さらに地域で生活や健康を支える地域組織活動、自主グループや団体の活動に参加しフィールドワークを通して学ぶことで看護職はケアの提供だけでなく予防活動や、自助や互助を高めるような取り組みをする役割を求められていることを理解する。</td></tr>
<tr><td>講義回数</td><td>単元</td><td colspan="4">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>1-3
(1-6)</td><td>１．院内のチーム医療とそのメンバーと入退院時の連携協働</td><td colspan="4">基礎看護学実習Ⅱでの実習を通し以下についてグループでディスカッションし振り返りし各病院の特徴や他職種連携の実際を理解する。
1.　院内のチーム医療の現状
2.　院内における様々な職種との連携
3.　院内における看護師の役割
4.　チームメンバーとの協力関係の構築
5.　医療機関における入退院時の連携
6.　医療施設や介護施設との連携</td><td>WG</td><td>井料田</td></tr>
<tr><td>4-8
(7-16)</td><td>２．居住地域における多機関・多職種と連携、地域での生活を支えるために必要な保健・医療・福祉サービスの活用の実際</td><td colspan="4">地域で生活するにあたり地域での生活を支える地域組織活動、自主グループや団体の活動に参加することでフィールドワークを通して学びを深める。学びをグループごとにプレゼンテーションを行いディスカッションし共有学習する。
・社会福祉協議会
・NPO 法人
・地域に開かれたイベント、教室、健康教育
・老人クラブや高齢者の集い
・ボランティア　など</td><td>演習
ＦＷ</td><td></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">グループワークやプレゼンテーションを取り入れた参加型の授業への参加態度を重視し、出席状況と合わせて総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="8">教科書・参考書等</td></tr>
</table>

授業科目	地域連携論Ⅲ			科目分類	専門分野		
責任教員	井料田　豊子	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	３年後期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	すべての実習での学びを踏まえ地域包括ケアシステムの中で対象の生活を支える地域組織活動、自主グループなどの社会資源とその活用と地域での連携・協働の実際をグループでディスカッションながら学びを深め、健康を保持増進し疾病を予防するために不足している、あるいは充実すべきケア資源やシステムを構築することを試みる。地域包括ケアシステムの中で看護師には予防から医療ケア、地域で支えあう仕組みづくりなど多岐にわたり、ケアチームの一員としての役割を担いうことはもちろん地域包括ケアシステム全体を見渡し、コーディネイト、マネジメントする役割や能力が求められることを理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-8 (1-16)	１．地域で包括的にケアを提供する際の資源の活用と地域連携 ２．看護師に求められる予防から医療ケア、地域で支えあう仕組みづくりの視点 ３．看護師に必要な地域包括ケアシステム全体を見渡し、コーディネイト、マネジメントする役割や能力	１．実習での受け持ちの対象を選定し、地域包括ケアシステムの中で地域で生活し健康の維持増進、QOL の向上に向けて地域での連携・協働を考慮しグループディスカッションを通してまとめる。 １）地域で包括的にケアを提供する際の資源の現状とその活用 ２）地域で包括的にケアを提供する際の看護過程上での他職種連携の実際 ３）対象の健康を保持増進し疾病を予防するために不足している、あるいは充実すべきケア資源やシステムの構築を試みる。 ２．学びをプレゼンテーションし地域で包括的にケアを提供する際の資源の活用と地域連携について共有学習する。	ＧＷ 演習	井料田
評価方法	グループワークやプレゼンテーションを取り入れた参加型の授業への参加態度を重視し、出席状況と合わせて総合的に評価する。			

教科書・参考書等

授業科目	成人看護学Ⅰ			科目分類	専門分野		
責任教員	中村　明子	実務経験	看護師	授業形態	講義		
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	成人期にある人の生活と健康の動向を理解し、健康な生活を保持・増進するために必要な看護の知識や技術、役割を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．成人の生活と健康	１）成人と生活 ２）生活と健康 （１）大人の生活からとらえる健康 ①大人の生活状況の特徴 （人口・経済・日常生活の状況） ②大人の健康の状況 （生と死の動向・受療状況・職業性疾病・他） （２）生活と健康をまもりはぐくむシステム ①保健医療福祉にかかわる施策の概要	講義	中村
2 (3-4)	２．成人への看護アプローチの基本	１）成人への看護アプローチの基本 （１）生活のなかで健康行動を生みはぐくむ援助 ①大人の健康行動の捉え方（大人の学習） ②大人の健康行動を促進するアプローチ （２）人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ （３）意思決定支援 （４）家族支援		
3 (5-6)	３．成人の健康レベルに対応した看護	１）健康生活をはぐくむ看護 （１）地域社会 （２）職場 ２）生活ストレスと看護 （１）健康バランスに影響を及ぼす要因 （２）生活行動がもたらす健康問題とその予防		
4-6 (7-12)		３）健康障害のレベルとしての「経過」とは ４）健康生活の急激な破綻から回復を促す援助 （急性期・回復期を経験している患者の看護） ５）健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護 （慢性期を経験している患者の看護） ６）障害を持ちながらの生活とリハビリテーション （リハビリテーションと看護） ７）人生の最後のときを支える看護 （終末期を経験している患者の看護）		
7-8 (13-16)	５．成人の健康生活を促すための看護技術	１）相談・指導技術 （１）生活行動変更への支援としての相談・指導技術	講義 演習	中村
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論　医学書院
国民衛生の動向

授業科目	成人看護学Ⅱ			科目分類	専門分野		
責任教員	住山　典子	実務経験	看護師	授業形態	講義・		
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	１．機能障害のある成人の特性を理解する。 ２．機能障害のある成人の看護を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-7 (1-14)	１．呼吸機能障害をもつ患者の看護	１．呼吸器系の構造と機能 ２．症状とその病態生理 ３．検査時の看護 　１）内視鏡検査 　２）肺組織の生検 ４．治療・処置時の看護 　１）吸入療法 　２）酸素療法 　３）人工呼吸器 　４）呼吸理学療法 　５）気管切開 　６）胸腔ドレナージ 　７）手術を受ける患者の看護 ５．疾患をもつ患者の看護 　１）肺炎、気管支喘息 　２）慢性閉塞性肺疾患 　３）肺血栓塞栓症 　４）肺癌 　５）自然気胸	講義	住山
8－15 (15-30)	２．消化吸収機能障害をもつ患者の看護	１．消化吸収機能障害をもつ患者の看護の特徴 ２．疾患別看護 　１）食道癌患者の看護 　２）胃潰瘍患者の看護 　　・吐血・下血 　　・上部消化管内視鏡検査 　　・胃・十二指腸造影検査 　３）胃切除術後患者の看護 　４）総胆管結石患者の看護 　　・黄疸 　　・PTCD チューブ 　５）急性膵炎患者の看護 　６）肝細胞癌患者の看護 　７）潰瘍性大腸炎患者の看護 　　・下痢 　　・大腸内視鏡検査，注腸造影検査 　８）イレウス患者の看護 　　・嘔気，嘔吐 　　・イレウスチューブ 　９）大腸癌患者の看護 　　・人工肛門造設		

評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等

系統看護講座：専門分野〔２〕呼吸器　　医学書院
系統看護講座：専門分野〔５〕消化器　　医学書院
系統看護講座：基礎看護技術Ⅱ　　医学書院
写真でわかる　臨床看護技術２　アドバンス　インターメディカ

授業科目	成人看護学Ⅲ			科目分類	専門分野		
責任教員	住山　典子	実務経験	看護師	授業形態	講義		
	田中　とも子		看護師				
	後藤　美樹		看護師・保健師				
開講年次	２年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．機能障害のある成人の特性を理解する。 ２．機能障害のある成人の看護を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-5 (1-10)	１．内分泌・代謝機能障害をもつ患者の看護	１．疾患別看護 １）クッシング症候群患者の看護 尿酸代謝異常患者の看護 脂質異常症患者の看護 ２）甲状腺疾患患者の看護 バセドウ病患者の看護 甲状腺機能低下症の看護 甲状腺腫瘍の看護 ３）甲状腺切除術を受ける患者の看護 甲状腺クリーゼの看護 ４）糖尿病患者の看護 ５）糖尿病患者の看護　　血糖測定演習	講義 演習	住山
6-10 (11-20)	２．循環機能障害をもつ患者の看護	１．疾患別看護 １）本態性高血圧症患者の看護 ２）閉塞性動脈硬化症患者の看護 ・血行再建術 ・血栓除去術 ３）心筋梗塞患者の看護 ・ＰＣＩ ・心臓リハビリテーション ４）心不全患者の看護 ・動悸、呼吸困難、浮腫 ・循環器系のフィジカルアセスメント ５）房室ブロックによりペースメーカー挿入患者の看護 ・心電図検査　　・ペースメーカー挿入 ６）大動脈弁置換術患者の看護 ７）胸部大動脈瘤患者の看護 ・血管再建術	講義	田中
11-15 (21-30)	３．排泄機能障害をもつ患者の看護	１．検査時の看護 ２．治療・処置時の看護 １）薬物療法・食事療法　　３）血液透析 ４）腹膜透析　　５）腎移植 ３．疾患別看護 １）急性腎不全 ２）慢性腎不全（CRF）・慢性腎臓病（CKD） ３）糸球体腎炎	講義	後藤

教科書・参考書等

教科書：系統看護学講座：専門分野Ⅱ〔３〕循環器（田中）　医学書院
系統看護学講座：専門分野Ⅰ　基礎看護学〔２〕基礎看護技術Ⅰ（田中）　医学書院
系統看護学講座：専門分野Ⅰ　基礎看護学〔４〕臨床看護総論（田中）　医学書院
系統看護学講座：専門分野Ⅱ〔６〕内分泌・代謝（住山）　医学書院
系統看護学講座：専門分野Ⅱ〔８〕腎・泌尿器（村岡）　医学書院

授業科目	成人看護学Ⅳ			科目分類	専門分野Ⅱ		
責任教員	和田　亜矢	実務経験	看護師	授業形態	講義		
	加藤　小百合	実務経験	看護師				
開講年次	２年後期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．機能障害のある成人の特性を理解する。 ２．機能障害のある成人の看護を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-7 (1-14)	１．脳・神経機能障害をもつ患者の看護	１．症状および障害別看護 １）意識障害 ２）言語障害 ３）運動麻痺 ２．主要疾患とその看護 １）パーキンソン病 ２）脳梗塞 ３）脳腫瘍 ４）クモ膜下出血 ５）下垂体腺腫 ６）てんかん ３．開頭術を受ける患者の看護	講義	和田 加藤
8-11 (15-22)	２．生体防御機能障害をもつ患者の看護	１．自己免疫疾患とその機序 １）アレルギー反応の分類 ２）アトピー性皮膚炎 ２．膠原病患者の看護 １）全身性エリテマトーデス ２）シェーグレン症候群 ３）ベーチェット病		
12-15 (23-30)	３．血液・造血機能障害をもつ患者の看護	１．主要な疾患、治療とその看護 １）白血病、貧血、悪性リンパ腫 ２）化学療法、放射線療法 ３）造血幹細胞移植 ２．主要症状とその看護 １）貧血 ２）出血傾向 ３）白血球減少(易感染状態)		

評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等

教科書：系統看護学講座：専門分野Ⅱ〔７〕脳・神経　医学書院
系統看護学講座：専門分野Ⅱ〔11〕アレルギー　膠原病　感染症　医学書院
系統看護学講座：専門分野Ⅱ〔４〕血液・造血器　医学書院

授業科目	成人看護学Ⅴ			科目分類	専門分野		
責任教員	住山　典子	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
	田中　とも子		看護師				
開講年次	２年前期			単 位 数	１	時間数	３０
科目目標	１．周術期にある成人の特性及びその看護を理解する。 ２．運動機能障害をもつ成人の特性及びその看護を理解する。 　１）疾患の治療別看護の特徴を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-8 (1-16)	１．　周手術期の看護	１．外科看護の特徴と課題 　１）外科看護とは 　２）外科看護の役割と課題 　３）外科看護の流れと看護の要点 ２．外科医療の基礎 　１）手術侵襲と生体の反応 　２）創傷治癒 　　（１）創傷治癒過程 　　（２）創傷治癒に影響する因子 　　（３）創傷管理法 　　（４）創傷治癒の促進 ３．外科的治療を支える分野 　１）麻酔法 　２）術中管理 　３）術後管理 ４．周術期看護の概要 ５．手術前患者の看護 ６．手術中患者の看護 ７．手術後患者の看護	講義 演習	田中
9-15 (17-30)	２．運動機能障害をもつ患者の看護	１．疾患をもつ患者の看護 　１）骨肉種の患者の看護 　　・手術療法、化学療法の看護 　２）腰椎椎間板ヘルニアの患者の看護 　３）脊髄損傷の患者の看護 　４）大腿骨頸部・骨幹部骨折の患者の看護 　　・牽引時の看護 　　・手術時の看護 　５）関節リウマチの患者の看護	講義	住山

評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等

教科書：系統看護学講座：別　　巻〔１〕　臨床外科総論　医学書院（田中）

　　系統看護学講座：専門分野〔10〕　運動器　医学書院（住山　田中）

　　系統看護学講座：専門分野〔５〕　消化器　医学書院（田中）

参考資料：写真でわかる臨床看護技術アドバンス　２　　インターメディカ（田中）

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">成人看護学Ⅵ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td rowspan="2">責任教員</td><td>川島　香理</td><td rowspan="2">実務経験</td><td>看護師・保健師</td><td rowspan="2">授業形態</td><td colspan="3" rowspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>田中　とも子</td><td>看護師</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">３年前期</td><td>単 位 数</td><td>１</td><td>時間数</td><td>３０</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="7">１．成人看護の特徴や患者の状態にあった看護技術の必要性を理解でき、実習への移行を円滑にする。
１）成人看護における経過に応じた看護が理解できる。
（１）急性期の看護（外科看護）がわかる。
①外科看護に必要な情報とその根拠がわかる。
②術前・術中・術後の経過から身体の変化を関連付けることができる。
③術前・術中・術後の実際の看護がわかる。
（２）がん看護・緩和ケアの看護が理解できる。
①がん看護や緩和ケアを必要とする患者と家族の特徴を理解し、必要な看護を展開する基礎的な知識・技術を習得することができる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>講義回数</td><td>単元</td><td>学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>1-7
(1-14)</td><td>１．周手術期における看護の実際</td><td>１）手術や麻酔の方法と関連づけた術前・中・後の経過に沿った実際の看護
（１）術前患者の看護
（２）術中患者の看護
（３）術後患者の看護</td><td>講義</td><td>田中</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8-15
(16-30)</td><td>１．がん患者と家族への看護</td><td>１）がん医療の現在
２）がんの病態と臨床経過
３）がん患者と家族への看護</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="2">川島</td></tr>
<tr><td>２．終末期にある患者、および緩和ケアを必要とする患者と家族への看護</td><td>１）緩和ケアを必要とする患者と家族への看護
２）エンド・オブ・ライフ・ケア
３）臨死期の看護</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）</td></tr>
</table>

教科書・参考書等

教科書：系統看護講座：別　　巻［２］臨床外科総論　医学書院　（田中とも子）
系統看護講座：専門分野［５］消化器　医学書院　（田中とも子）
系統看護講座：別　　巻　　がん看護　医学書院　（神田）
系統看護講座：別　　巻　　緩和ケア　医学書　（神田）

参考書：写真でわかる臨床看護技術アドバンス　２　　インターメディカ　（田中とも子）

授業科目	老年看護学Ⅰ			科目分類	専門分野		
責任教員	井料田　豊子	実務経験	看護師	授業形態	講義		
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	高齢者の特徴（身体的・精神的・社会的）と社会の動向を理解し、健康生活の保持増進のあり方を学ぶとともに看護師の役割について考えることができる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-4 (1-8)	１．高齢者とは	１）ライフサイクルからみた高齢者の理解 ２）加齢と老化 ３）人口の高齢化 ４）健康指標からみた高齢者の理解 ５）生活視点からみた高齢者の理解	講義	井料田
	２．高齢者の特徴と理解	１）老年期の特徴 ２）高齢者の理解		
	３．高齢者にとっての健康	１）高齢者にとっての健康維持・増進の意義 ２）老年期の健康とは ３）高齢者の健康の目標 ４）高齢者の健康状態のアセスメント ５）高齢者の自立を妨げる原因 ６）介護予防への対応		
	４．高齢者と QOL	１）高齢者にとっての QOL ２）高齢者の QOL に影響を与えるもの ３）高齢者の QOL 評価の視点 ４）高齢者の看護場面における QOL		
	５．加齢に伴う変化	１）身体機能の生理的変化 ２）心理・精神機能の変化 ３）社会的機能の変化		
	６．高齢者の理解とコミュニケーション	１）コミュニケーションの種類 ２）看護におけるコミュニケーショの重要性 ３）高齢者とのコミュニケーション		
5-8 (9-16)	７．高齢者の生活と家族	１）高齢者と家族のライフサイクル ２）高齢者がいる家族 ３）高齢者と家族の関係 ４）要介護高齢者と家族介護者		
	８．高齢者が生活する場	１）ライフサイクルに応じた生活の場 ２）病気の治癒と介護に伴う生活の場 ３）継続看護の必要性		
	９．高齢者を支える社会資源	１）介護保険によるサービス ２）地域や個人のつながり ３）地域におけるネットワークの形成・維持		
	10．高齢者看護の基本	１）高齢者看護の特性 ２）高齢者看護に関わる諸理論 ３）高齢者看護における倫理		
	11．高齢者のヘルスプロモーション	１）高齢者の健康づくり ２）生活習慣病予防 ３）転倒防止・運動器の機能向上 ４）認知症予防		

評価方法	テスト（小テスト含む）、課題レポート、筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版
専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院

授業科目	老年看護学Ⅱ			科目分類	専門分野		
責任教員	井料田　豊子	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	２年前期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	・加齢に伴う心身機能の変化、老年期に特徴的な疾病や病態を説明できる。 ・健康障害の状態にある高齢者へのアセスメント方法、看護技術を理解する。 ・高齢者の持てる力（強み）にも着眼し、「慢性疾患、健康障害、加齢に伴う機能低下を持ちながら、その人らしく生活する」ことを支える看護を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	1．高齢者の生活をささえる看護	1）コミュニケーション 2）食生活 3）セクシャリティ 4）住まい 5）経済状態 6）社会参加	講義	井料田
2-8 (3-16)	2．食生活を支える看護	1）食事 2）脱水 3）低栄養		
	3．排泄を支える看護	1）排泄 2）尿失禁 3）便秘・下痢		
	4．清潔・衣生活を支える看護	1）清潔・衣生活（足浴） 2）掻痒（かゆみ） 3）痛み・しびれ	講義 演習	
	5．活動と休息を支える看護	1）活動と休息 2）視覚・聴覚障害 3）めまい 4）低体温・熱中症 5）睡眠 6）睡眠障害	講義	
	6．歩行・移動を支える看護	1）歩行・移動 高齢者体験 2）廃用症候群（沈下性肺炎） 3）骨粗鬆症 4）骨折	講義 演習	
	7．高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護	1）浮腫 2）電解質代謝異常	講義	

評価方法	講義、演習、グループワーク、筆記試験（終講試験）、出席状況、課題レポートなど

教科書・参考書等

ナーシンググラフィカ老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版
ナーシンググラフィカ老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版
ジーサプリ　理論・実践統合学習　場面で学ぶ老年看護学　メディカ出版
根拠がわかる　老年看護技術　メヂカルフレンド社

授業科目	老年看護学Ⅲ			科目分類	専門分野		
責任教員	井料田　豊子	実務経験	看護師	授業形態	講義		
開講年次	２年後期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	高齢者の健康障害の特徴を理解し、老年看護が実践できる基礎的能力を養う。 高齢者の介護老人保険制度に基づく暮らしの場、看護の役割を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-8 (1-16)	１．歩行・移動を支える看護	１）歩行・移動 ２）廃用症候群 ３）骨粗鬆症 ４）骨　折 ５）褥　瘡	講義	井料田
	２．呼吸・循環機能障害を支える看護	１）肺　炎 ２）慢性閉塞性肺疾患（COPD） ３）高血圧 ４）脳卒中 ５）不整脈 ６）心不全 ７）その他高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護 (1) 貧血　(2) 浮腫　(3) 電解質代謝異常 (4) パーキンソン病　(5) がん		
9-10 (17-20)	３．治療を受ける高齢者の看護	１）薬物療法 (1)加齢による生理学的変化（薬物動態、薬力学） (2)薬物療法による有害反応 (3)服薬行動・服薬管理 ２）手術療法		
11-12 (21-24)	４．リハビリテーション	１）リハビリテーションの対象とは ２）加齢とリハビリテーション ３）リハビリテーション開始前の注意 ４）経過別リハビリテーションの特徴 ５）身体と心の休息の効果 ６）リハビリテーションのまとめ		
13 (25-26)	５．診察・検査 入院	１）診察・検査 ２）入院		
14-15 (27-30)	６．行動制限	１）行動制限とは ２）行動制限が必要な場合 ３）認知症高齢者の行動制限 ４）行動制限をしないために		

評価方法	講義、演習、グループワーク、筆記試験（終講試験）、出席状況、課題レポートなど

教科書・参考書等

ナーシンググラフィカ老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版
ナーシンググラフィカ老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版
ジーサプリ　理論・実践統合学習　場面で学ぶ老年看護学　メディカ出版
根拠がわかる　老年看護技術　メヂカルフレンド社

授業科目	老年看護学Ⅳ			科目分類	専門分野		
責任教員	中川　綾香	実務経験	看護師	授業形態	講義		
開講年次	２年後期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	老いと認知症を理解し、その人らしい生活を営めるための看護の役割を理解できる。 高齢者を介護する家族への看護について理解できる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-4 (1-8)	１．認知症・うつ病・せん妄の看護	１．認知症 １）認知症の病態と要因 ２）認知症の症状の理解とケア ３）認知機能の評価方法 ４）認知症の予防と治療 ５）認知症高齢者とのコミュニケーションの基本 ６）認知症の療法的アプローチ ７）認知症高齢者の家族への支援とサポート ８）認知症高齢者の人権と権利擁護、社会的支援	講義	中川
		２．うつ病 １）高齢者のうつ病の背景と特徴 ２）高齢者のうつ病の看護とポイント		
		３．せん妄 １）高齢者のせん妄 ２）せん妄を引き起こす要因とアセスメント ３）せん妄の予防 ４）せん妄を発症した高齢者への援助		
5-6 (9-12)	２．終末期の看護	１．終末期看護の実際 １）身体的アセスメントと看護 ２）精神的苦痛や不安・混乱に対する看護		
		２．認知症高齢者の終末期ケア １）施設における認知症高齢者の終末期ケアの現状 ２）終末期医療における認知症高齢者の自己決定支援 ３）認知症高齢者の代理決定をする家族への援助		
		３．看取りを終えた家族への看護 １）家族の心理と看護 ２）看取りを終えた家族へのグリーフケア ３）家族の再出発を支える		
7-9 (14-18)	３．家族への看護	１．高齢者を介護する家族の生活と健康 ２．高齢者を介護する家族への看護過程 ３．家族介護の課題		
10-11 (19-22)	４．老年看護学のアセスメント	１．高齢者護の看護過程のポイント ※高齢者看護実習における情報収集や関連図の書き方、看護上の情報整理と課題の抽出、看護目標と看護計画、学んでほしいポイント		
12-15 (23-30)	５．高齢者の援助	１．事例をもとにした生活援助 １）展開した事例に基づいて移動、排泄、環境整備などについての実践	グループ学習	
評価方法	筆記試験（終講試験）、グループ学習、提出物			

教科書・参考書等

ナーシンググラフィカ老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版

ナーシンググラフィカ老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版

根拠がわかる　老年看護技術　メヂカルフレンド社

※講義の内容については、一部変更する可能性があります。

授業科目	小児看護学Ⅰ			科目分類	専門分野		
責任教員	加藤　小百合	実務経験	看護師	授業形態	講義		
開講年次	２年前期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	小児看護の理念を知り、小児の健康を保持増進するための看護の役割を知る。 １）小児看護の特徴と理念を理解する。 ２）小児と家族を取り巻く社会、環境が子どもに及ぼす影響を理解する。 ３）小児各期の成長・発達について理解する。 ４）小児看護における家族の機能や特徴を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．小児看護の特徴と理念	１．小児看護の目ざすところ １）小児看護の対象 （１）子どもの特徴 ２）小児看護の目標と役割 （１）小児看護の目標 （２）小児看護の役割 ２．小児医療の変遷 ３．現代の小児看護、小児看護の課題 ４．小児看護における倫理 １）こどもの権利	講義 レポート	加藤
2 (3-4)	２．小児と家族を取り巻く社会	１．小児をめぐる法律と政策 １）小児の保健・福祉行政の推移 ２）母子保健 ２．学校保健 １）学校保健の意義と行政 ２）学校保健の実際 ３．予防接種 １）予防接種の概要 ①予防接種と法律 ②ワクチンの種類と接種法		
3 (5-6)	３．小児各期の成長・発達について理解する	新生児期 １．新生児の形態的特徴 ２．身体生理の特徴 ３．各機能の発達		
4 (7-8)		乳児期 １．形態的特徴、身体生理の特徴 ２．運動機能・感覚機能・知的機能 ３．コミュニケーション機能 ４．情緒・社会的機能 ５．乳児の養育および看護		
5 (9-10)	３．小児各期の成長・発達について理解する	幼児期 １．形態的特徴、身体生理の特徴 ２．運動機能・感覚機能・知的機能 ３．コミュニケーション機能 ４．情緒・社会的機能 ５．基本的生活習慣の獲得 ６．幼児の養育および看護	講義 レポート	加藤
6 (11-12)		学童期 １．形態的特徴、身体生理の発達 ２．感覚・運動機能、知的・情緒機能 ３．日常生活・社会的機能 ４．学童の養育および看護		

7 (13-14)		思春期・青年期 １．形態的特徴・生理的特徴 ２．知的・情緒的・社会的機能 ３．生活の特徴 ４．思春期の看護	講義 レポート	加藤
8 (15-16)	４．小児看護における家族の機能や特徴を理解する	１．子供にとっての家族とは ２．家族のアセスメント		
評価方法	筆記試験（終講試験）・課題提出状況・授業態度を含め総合評価とする。			
教科書・参考書等 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学[１]小児看護学概論/　小児臨床看護総論：医学書院				

授業科目	小児看護学Ⅱ－１			科目分類	専門分野		
責任教員	園田　徹	実務経験	医師	授業形態	講義		
開講年次	２年前期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	成長発達及び健康障害を持つ小児と家族におこる健康問題を理解し、看護の知識・援助方法を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．健康問題・障害とその治療	１）染色体異常・先天異常 ２）低出生体重児の疾患 （１）低出生体重児の分類 （２）成熟異常 １）代謝性疾患 （１）新生児マスースクリーニング （２）糖尿病 （３）周期性嘔吐症	講義	園田
2-3 (3-6)	２．健康問題・障害とその治療	１）免疫・アレルギー性疾患 （１）免疫（生体防御）機構 （２）アレルギーの発生機構 （３）アレルギー性疾患 （４）膠原病　若年性関節リウマチ		
4 (7-8)	３．健康問題・障害とその治療	１）呼吸器疾患 （１）小児の呼吸器の特徴 （２）主な疾患 上気道炎症 気管支・肺疾患		
5-6 (9-12)	４．健康問題・障害とその治療	１）循環器疾患 （１）小児循環器の特徴 （２）ファロー四徴症 （３）川崎病		
7 (13-14)	５．健康問題・障害とその治療	１）感染症 （１）ウイルス感染症 （２）細菌感染症 ２）腎・泌尿器疾患 （１）ネフローゼ症候群 （２）急性糸球体腎炎		
8 (15-16)	６．健康問題・障害とその治療	１）悪性新生物 （１）急性リンパ性白血病 （２）ウィルムス腫瘍 （３）神経芽腫 ２）消化器疾患 （１）乳幼児下痢症、急性胃腸炎 （２）鎖肛 （３）ヒルシュスプルング病		

評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論　小児看護学①
小児臨床看護各論　小児看護学②　　：医学書院

授業科目	小児看護学Ⅱ－２			科目分類	専門分野		
責任教員	加藤　小百合	実務経験	看護師	授業形態	講義		
開講年次	２年前期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	小児期の健康問題が子どもとその家族に及ぼす影響や問題について、患児の成長・発達段階の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を理解する。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	１．病気・障害をもつ子どもと家族への看護	１）病気・障害が子どもと家族に与える影響 ２）子どもの健康問題と家族の看護	講義 ＧＷ メディア	加藤
	２．障害のある子どもと家族への看護	１）障害のとらえ方 ２）障害がある子どもと家族の特徴と社会的支援 ３）心身障害のある子どもと家族の看護 （１）心身障害児の定義と種類		
2-4 (5-8)	３．子どもにおける疾病の経過と看護	１）急性期にある子どもと家族の看護 （１）発熱・けいれん・呼吸困難 （２）嘔吐・下痢・脱水・アレルギー （３）救命救急が必要な子どもと家族の看護 （４）熱傷・骨折 ２）慢性期にある子どもと家族の看護 （１）糖尿病・白血病・ネフローゼ症候群の看護		
		３）ハイリスク新生児の特徴と看護 ４）周手術期の小児と家族の看護 （１）肥厚性幽門狭窄賞症・鎖肛 （２）ヒリュシュプリング病 （３）食道閉鎖症・腸重積 （４）心室中隔血栓症・ファロー四徴症・川崎病		
		５）終末期の子どもと家族の看護 （１）ウイルムス腫瘍・神経芽腫・脳腫瘍・骨肉腫 ６）感染症罹患の子供と家族の看護 （１）隔離の考え方 （２）麻疹・風疹・インフルエンザ・水痘		
5-6 (9-12)	４．症状を示す子どもの看護	１）不機嫌・啼泣 ２）発熱・痛み・便秘・下痢・発疹 ３）嘔吐・喘鳴・出血・貧血・掻痒		
7-8 (13－16)	５．検査・処置を受ける子どもの看護	１）検査・処置総論（プレパレーション） 人形を作ろう 事例による実際		
9-10 (17－20)		２）治療・処置各論 （１）与薬（経口・吸入・座薬） （２）輸液管理・注射・浣腸 （３）検体採取（採血・採尿・腰椎穿刺・骨髄穿刺） （４）抑制・行動、活動制限		
11-12 (21-24)	６．子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	１）入院中の子どもと家族の看護 （１）入院環境と看護の役割 （２）入院中の子どもと家族の特徴と看護 発達段階に応じたおもちゃを作ろう ２）在宅療養中（医療的ケアを必要とする）の子どもと家族の看護 （１）経管栄養・吸引・在宅酸素療法・訪問看護師		

12-13 (25-28)	６．子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	３）外来における子どもと家族の看護 （１）子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 （２）外来の環境 （３）外来を受診する子どもと家族の特徴と看護 ４）災害時の小児と家族の看護	講義 GW メディア	加藤
14-15 (28-30)	7. 家族の特徴とアセスメント 8.子供の虐待と看護	１）子どもにとっての家族とは 事前課題を読んでレポート （１）家族の機能 ２）家族アセスメント （１）子どもを持つ家族のアセスメント （２）構造的側面、機能的側面、発達段階 （３）家族の役割 １）子どもの虐待の現状と対策 ２）リスク要因、求められるケア	レポート	
評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）・課題提出状況・授業態度を総合的に評価			
教科書・参考書等 系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学〔１〕小児看護学概論　小児臨床看護総論：医学書院				

授業科目	小児看護学Ⅲ			科目分類	専門分野		
責任教員	加藤　小百合	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	２年前期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	１．健康障害のある小児に対する事故防止対策を考えることで、小児各期の発達段階の特徴や入院による児への影響を理解し、臨地実習において小児各期に応じた事故防止対策を考え実施できる。 ２．健康障害をきたした児のフィジカルアセスメント技術について理解し、バイタルサイン測定を実施できる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-12 (1-24)	１．小児各期の事故防止対策を考える	１）小児各期の発達段階の特徴をふまえ、こどもの理解を促すような事故防止のための指導 ２）救命救急処置が必要な子どもと家族の看護 （１）誤飲時の対応、熱傷、中毒、溺水時の看護 ３）チャイルドビジョンを使用し幼児の見え方体験（実習室・在宅室・校内）を行い小児における事故発生の要因を理解する。 ４）在宅、入院環境での事故因子と、それぞれの事故防止対策をグループワークで話し合い発表	演習 ＧＷ 発表	加藤
	２．子どものアセスメント	１）アセスメントに必要な技術 （１）コミュニケーション （２）バイタルサイン （３）身体測定 （４）身体的アセスメント ①一般状態（一般的外観） ①呼吸（呼吸の診察） ②心臓・血管系（心音の聴取） ③腹部	講義 メディア 使用	
		２）フィジカルアセスメント （バイタルサイン測定演習） 呼吸・脈拍（心拍）・体温・血圧 ３）小児用備品の取り扱い	演習	
13-15 (26-30)	４，看護を考える	1)　事例展開	演習	

評価方法	出席状況・筆記試験（終講試験）・演習態度・課題提出状況を含めて総合判断とする。

教科書・参考書等

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学（１）小児看護学概論/小児臨床看護総論：医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学（２）小児臨床看護各論：医学書院

※フィジカルアセスメント（バイタルサイン測定演習）はＡクラスとＢクラスに分かれて実施する

授業科目	母性看護学Ⅰ			科目分類	専門分野		
責任教員	田中　美帆	実務経験	看護師・助産師	授業形態	講義		
	白池　晶		看護師・助産師				
開講年次	２年前期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	母性の概念、母性性の発達、社会構造と母性性の変化、母性看護の対象などを理解することができる。また、生殖時代や社会構造、地域性を視野におく母性看護の役割・機能およびその将来展望について考えることができる。 １）リプロダクティブヘルツ/ライツを理解し、男女の性の特徴と性役割が説明できる。 ２）思春期から老年期に至る女性の発達段階を含めた特徴と看護が理解できる。 ３）母性の概念およびライフサイクルに応じた機能が理解できる。 ４）女性の健康に影響を与える社会・物理的要因が理解できる。 ５）母性の健康指標とその変遷からわが国における母性の健康状態が理解できる						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	第１部 母性看護学で用いられる概念と理論	１．母性とは １）親になることと母性 ２）母性看護における母性 ３）親になる過程における問題 ２．母性看護実践を支える概念 １）母性看護のあり方 ２）リプロダクティブヘルス/ライツ ３）ヘルスプロモーション ４）女性を中心としたケア（women-centered care） ３．愛着・母子相互作用と母子関係形成 １）愛着行動 ２）母親役割獲得と母親になること ３）母子相互作用 ４）絆（ボンディング）理論	講義 演習	田中
3 (5-6)	第２部 リプロダクティブに関する動向	１．出生に関する統計 １）出生率、合計特殊出生率 ２．死亡に関する統計 １）死産率、周産期死亡 ３．家族形成に関する統計 ４．母子保健統計		
4 (7-8)	第３部 リプロダクティブヘルスに関する概念	1．リプロダクティブヘルス/ライツ １）女性とリプロダクティブヘルス/ライツの課題 ２）女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルス/ライツ ２．セクシュアリティに関する概念とジェンダー ３．性的マイノリティ		
5 (9-10)	第４部 リプロダクティブに関する倫理	１．母性看護職者の法的責任と倫理 １）人工妊娠中絶に関する現状、倫理的・法的・社会的課題 ２）出生前診断に関する現状、倫理的・法的・社会的課題 ３）生殖補助医療に関する現状、倫理的・法的・社会的課題 ４）倫理的配慮については事例をもとにグループワークを通して母性看護における看護師の援助をまとめる		
6 (11-12)	母性看護における看護者の倫理的配慮 グループ発表	１．２事例をグループごとに話し合いまとめた内容を発表する		

7 (13-14)	第５部 リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援	１．子どもと女性の保護に関する法律 ２．女性の就労に関する法律 ３．子育て支援に関する制度・施策 ４．周産期医療システム	講義 演習	田中
8 (15-16)	第６部 リプロダクティブ・ヘルスにおける看護実践	１．メンタルヘルスに問題をかかえる女性とその家族への支援 ２．在日外国人の母子保健		
9-13 (17-26)	第７部 ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護	１-１．思春期女性の理解と看護 １）思春期女性の特徴 ２）思春期女性の健康課題 （月経異常と月経随伴症状思春期やせ症） ３）それらの健康課題への看護 ※自分の健康課題として捉えられるように	講義	白池
		１-２．思春期女性の理解と看護 １）思春期女性の健康課題 （性感染症　思いがけない妊娠　デートＤＶ） ２）それらの健康課題への看護 （健康教育について） ３）若年妊娠・出産の看護		
		２-１．成熟期女性の理解と看護 １）成熟期女性の特徴 ２）不妊カップルの理解と看護		
		２-２．成熟期女性の理解と看護 １）性暴力・ＤＶを受けた女性の理解と看護		
		３．更年期・老年期女性の理解と看護 １）更年期女性の特徴 ２）健康問題と看護 （健康教育について） ３）老年期女性の特徴とその性について		
13-15 (27-30)	第８部 生殖をめぐる女性と子どもの健康障害	１．障害を持つ子どもの理解と看護 ２．周産期の死を体験した家族の理解と看護 ３．虐待を受けた子どもの理解と看護		
評価方法	筆記試験（終講試験）・出席状況・グループ発表・レポートなど			

教科書・参考書等

教科書

ナーシンググラフィカ　母性看護学②　母性看護実践の基本　メディカ出版（田中・白池）

厚生の指標　増刊　国民衛生の動向　vol.65 No.9　2021/2022　　（田中）

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論　　医学書院　（田中）

参考書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　　母性看護学〔１〕母性看護学概論　　医学書院

ナーシンググラフィカ　母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版

授業科目	母性看護学Ⅱ－１			科目分類	専門分野		
責任教員	田中　美帆	実務経験	看護師・助産師	授業形態	講義・演習		
開講年次	２年前期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	１．正常な妊娠、分娩、産褥期の身体的・心理的・社会的特徴を学ぶことができる。 ２．正常な新生児の生理と機能を学ぶことができる ３．正常経過にある妊産褥婦と新生児の看護について学ぶことができる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．妊娠期の身体的特性	１．妊娠の生理 ２．胎児の発育とその生理 ３．母体の生理的変化	講義	田中
2 (3-4)	２．妊婦と胎児のアセスメント	１．妊娠経過の診断 ２．胎児の発育状態と健康状態の診断 ３．妊婦の心理 ４．マイナートラブル		
3 (5-6)	３．妊娠期の経過と看護（１）	１．母体の妊娠初期の経過 ２．胎児の発育状態 ３．保健指導		
4 (7-8)	３．妊娠期の経過と看護（２）	１．母体の妊娠中期の経過 ２．胎児の発育状態 ３．保健指導 ４．出産と育児の準備（１） ５．親役割の準備		
5 (9-10)	３．妊娠期の経過と看護（３）	１．母体の妊娠後期の経過 ２．胎児の発育状態 ３．保健指導 ４．出産と育児の準備（２）		
6-7 (11-14)	３．妊娠期の経過と看護（４）	１．妊婦体験 ２．妊婦健康診査に必要な技術 １）子宮底・腹囲測定 ２）レオポルド触診法 ３）NST モニター装着	講義 演習	
8 (15-16)	４．分娩期の看護（１）	１．分娩の要素 ２．分娩の経過 ３．分娩期の呼吸法・産痛緩和 ４．分娩リハーサル	講義 演習	
9-10 (17-20)	４．分娩期の看護（２）	１．産婦・胎児、家族のアセスメント ２．産婦と家族の看護 ３．産婦の心理・社会的変化 ４．分娩第１期～分娩第４期の看護	講義	
11-13 (21-26)	５．産褥期の経過と看護（１）	１．産褥期の身体的・心理的・社会的変化 ２．褥婦のアセスメント ３．褥婦と家族の看護 ４．施設退院後の看護		
14-15 (27-30)	６．新生児の看護（１）	１．新生児の生理と機能 ２．新生児のアセスメント ３．新生児の看護 ４．親子関係 ５．育児技術 １）抱っこ ２）授乳援助 ３）おむつ交換 ４）更衣	講義 演習	

評価方法	筆記試験（終講試験）、課題レポート、出席状況など

教科書・参考書等

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論　　医学書院

ナーシンググラフィカ 30　母性看護学②　母性看護実践の基本　　メディカ出版

看護実践のための根拠がわかる　母性看護技術　メヂカルフレンド社

授業科目	母性看護学Ⅱ－２			科目分類	専門分野		
責任教員	金子　政時	実務経験	医師	授業形態	講義		
	楠元　和美	実務経験	医師				
	住山　典子	実務経験	看護師				
開講年次	２年後期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	妊娠・分娩・産褥期及び新生児における異常について理解する。また、婦人科に特有な疾患をもつ人に対する看護を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	第６章 妊娠・分娩・新生児 産褥の異常	１．妊娠の異常 １）ハイリスク妊娠 ２）妊娠期の感染症 ３）妊娠疾患 （妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、血液型不適合） ４）多胎妊娠 ５）異所性妊娠 ６）切迫流産・早産 ７）妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠	講義	金子
3 (5-6)		２．分娩の異常 １）分娩時損傷 ２）分娩直時の異常出血 ３）胎児機能不全 ４）帝王切開		金子 楠元
4 (7-8)		３．新生児の異常 １）新生児仮・分娩外傷 ２）低出生体重児 ３）高ビリルビン血症 ４．産褥の異常 １）子宮復古不全 ２）産褥期の発熱		金子
5-8 (9-16)	女性生殖器の看護	婦人科疾患をもつ人の看護 １．外陰炎・トリコモナス膣炎・真菌性膣炎 ２．子宮筋腫・子宮癌 ３．子宮内膜症 ４．卵巣腫瘍・乳癌・乳腺症 ５．クラミジア感染症	講義	住山
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（2）母性看護学各論　　医学書院

ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ EX　疾患と看護（　9　）女性生殖器　メディカ出版

授業科目	母性看護学Ⅲ			科目分類	専門分野		
責任教員	田中　美帆	実務経験	看護師・助産師	授業形態	講義・演習		
	白池　晶		看護師・助産師				
開講年次	２年後期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	１．正常妊娠、分娩、産褥期と新生児を理解し、母児の看護過程が展開できる ２．母性看護学に必要なフィジカルアセスメントの理解が出来る。 ３．母性看護学に必要な看護技術の理解ができる ４．妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護を理解することができる						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	母性における看護過程の展開	１．母性看護の特徴 ２．母性看護の対象 ３．ウェルネス看護診断の意義 ４．ウェルネス看護診断の構成 ５．母性看護におけるアセスメント	講義	田中
2-3 (3-6)	妊娠期の事例展開 産褥期の事例展開	１．妊娠期の事例 ２．産褥期の事例 グループワーク	講義 演習	
4 (7-8)	事例発表	１．グループ毎に事例の看護過程を発表する	発表	
5-6 (9-12)	新生児期の看護技術	１．新生児のフィジカルアセスメント ２．沐浴の演習 新生児の計測	演習	
7-8 (13-16)	妊娠の異常と看護	１．ハイリスク妊娠とは ２．高年・若年妊婦の看護 ３．DM 妊婦の看護 ４．妊娠性高血圧症候群妊婦の看護 ５．前置胎盤・常位胎盤早期剥離時の看護 ６．切迫流産・早産妊婦の看護 ７．多胎妊娠の看護	講義	
9-10 (17-20)	分娩の異常と看護	１．破水時の看護 ２．分娩遷延時の看護 ３．異常分娩時の産婦の看護 １）帝王切開　　２）吸引分娩 ３）分娩時異常出血のある産婦		
11-13 (21-26)	産褥の異常と看護	１．子宮復古不全 ２．産褥熱 ３．マタニティーブルーズ ４．産後うつ ５．帝王切開術後の看護 ６．乳腺炎のある褥婦への看護 ７．死産・障害をもつ新生児を出産した親への看護	講義	白池
14-15 (27-30)	新生児の異常と看護	１．新生児の健康逸脱 ２．新生児仮死 ３．高ビリルビン血症児の看護 ４．早産児・低出生体重児の看護		田中
評価方法	筆記試験（終講試験）、課題レポート、出席状況など			

教科書・参考書等
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）母性看護学各論　　医学書院　（田中・白池）
ナーシンググラフィカ 30　母性看護学②　　母性看護実践の基本　　メディカ出版（田中・白池）
看護実践のための根拠がわかる　母性看護技術　メヂカルフレンド社　（田中）
参考書：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程　医歯薬出版

授業科目	精神看護学Ⅰ			科目分類	専門分野		
責任教員	川島　香理	実務経験	看護師･保健師	授業形態	講義		
開講年次	１年後期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	１．精神看護の基本的な考え方について理解できる。 ２．精神（心）の捉え方や発達理論について理解できる。 ３．精神（心）の健康や危機的状況、精神保健について理解できる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-4 (1-8)	１．精神看護学の考え方	１）精神保健で扱われる現象 ２）精神保健の考え方 ３）精神看護の役割と専門性について	講義	川島
	２．精神（心）の捉え方	１）脳の構造と認知機能 ２）精神（心）の構造とはたらき (1)フロイト (2)防衛機制		
	３．精神（心）の発達に関する主要な考え方	１）エリクソンの漸成的発達理論 ２）ボウルビィの愛着理論 ３）その他の乳幼児期の発達理論 ４）マズローの欲求５段階説 ５）ピアジェの認知発達理論		
	４．環境と精神（心）の健康	１）家族と精神（心）の健康 ２）暮らしの場と精神（心）の健康 (1)学校 (2)職場・仕事 (3)地域		
5-8 (9-16)	６．精神の危機状況と精神保健	１）危機状況とは (1)危機理論・危機モデル ２）ストレスとコーピング ３）適応と不適応 ４）セルフマネジメント ５）現代社会と精神（心）の健康		
	７．精神保健医療福祉の歴史と現在の姿	１）精神障害者及び家族の理解 ２）精神保健医療福祉の歴史と現在の姿		
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等
新体系看護学　精神看護学１　精神看護概論・精神保健：　メヂカルフレンド社
新体系看護学　精神看護学２　精神障害を持つ人の看護：　メヂカルフレンド社

授業科目	精神看護学Ⅱ－１			科目分類	専門分野		
責任教員	石田　康	実務経験	医師	授業形態	講義		
	中村　明子		看護師				
開講年次	２年前期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	１．精神科医療の特徴について理解できる。 ２．精神障害の特徴と治療・検査について理解できる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．精神医療の理解	１）精神科医療の歴史と現状 ２）精神疾患の理解 (1)精神疾患の捉え方 (2)精神障害の原因・分類・精神症状	講義	石田
2-3 (3-6)	２．精神障害の主な検査と治療法	１）診断の基礎と要点 (1)視診・問診・既往歴・生活歴・家族歴 ２）検査の種類 (1)神経学的検査 (2)神経学的補助診断法 ・X 線および磁気による頭部検査 (3)心理検査 (4)各種治療法 ・薬物療法 ・電気痙攣療法 ・社会復帰療法 ・精神療法	講義	
4 (7-8)	３．主な精神障害の診療	１）統合失調症	講義	
5 (9-10)		２）双極性障害（躁うつ病） ３）神経症と心因性精神病（心因反応） (1)神経症 (2)心因性精神病 (3)外傷後ストレス障害 (4)心身症	講義	
6 (11-12)		４）人格障害 ５）器質性精神障害 ６）アルコール依存と薬物依存	講義	
7 (13-14)		７）児童・思春期の主な精神障害 (1)発達障害 (2)神経症性障害 (3)精神病性障害	講義	
8 (15-16)	４．評価	筆記試験(終講試験)		中村

評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）

教科書・参考書等

１）新体系看護学全書　精神看護学１　精神看護概論・精神保健：メヂカルフレンド社

２）新体系看護学全書　精神看護学２　精神障害を持つ人の看護：メヂカルフレンド社

授業科目	精神看護学Ⅱ－２			科目分類	専門分野		
責任教員	川島　香理	実務経験	看護師	授業形態	講義		
	安藤　直弥	実務経験	看護師				
開講年次	２年前期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	１．精神に障害をもつ人と家族の看護を理解できる。 ２．地域における精神保健福祉活動について理解できる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．精神看護の基本	１）精神障害者の理解と考え方 ２）精神障害者とのかかわり方 ３）患者－看護師関係の理解 ４）精神障害者のセルフケアの援助 ５）観察と記録 ６）病室環境の調整 ７）入院生活上の問題とケアの視点 (1)入院形態・処遇	講義	川島
2 (3-4)	２．患者家族の理解とその援助	１）患者家族の心理 ２）家族の負担 ３）家族が危機を乗り越えるための援助		
3 (5-6)	３．主な症状に対する看護	１）精神症状・状態像と看護 (1)意識障害 (2)知覚の障害 (3)思考の障害 (4)感情の障害 (5)意欲・行動の障害 (6)自我意識の障害 (7)記憶の障害．他		
4 (7-8)	４．診療・検査及び治療に伴う看護	１）診療・検査に伴う看護 ２）薬物療法に伴う看護 ３）痙攣療法を受ける患者の看護 ４）精神療法を受ける患者の看護 ５）社会療法を受ける患者の看護 ６）隔離・拘束時の看護		
5-8 (9-16)	８．精神看護の実際	１）精神看護の実際 ２）地域におけるリハビリテーション・サービスの実際 (1)精神科訪問看護 (2)精神科デイケア・ナイトケア (3)障害者自立支援法に基づくサービスの実際 ①自立訓練 ②共同生活援助（グループホーム） ③就労支援	講義	安藤
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

１）新体系看護学全書 専門分野Ⅱ 精神看護学１ 精神看護概論・精神保健：メヂカルフレンド社

２）新体系看護学全書 専門分野Ⅱ 精神看護学２ 精神障害を持つ人の看護：メヂカルフレンド社

授業科目	精神看護学Ⅲ			科目分類	専門分野		
責任教員	川島　香理	実務経験	看護師･保健師	授業形態	講義		
開講年次	２年後期			単位数	１	時間数	３０
科目目標	１．患者−看護師関係におけるコミュニケーション方法について理解できる。 ２．プロセスレコードを通して援助の場面を振り返り、自己の傾向を知り患者に対する思いを明らかにする。 ３．精神看護における看護過程の展開を理解できる。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-3 (1-6)	１．精神障害をもつ人と「患者-看護師」関係の構築	１）精神障害をもつ人とのかかわりかた ⑴「患者-看護師」関係の目指すこと ⑵「患者-看護師」関係を理解するための手がかり ⑶関係構築にあたっての基本的な態度 ⑷患者とのかかわりで起こりうることと対処 ２）精神障害をもつ人とのコミュニケーション ⑴コミュニケーションとは ⑵精神障害をもつ人とのコミュニケーションの特徴 ⑶コミュニケーション技法	講義	川島
4-6 (5-12)	２．精神科におけるプロセスレコードの意義と実際	３）精神障害をもつ人との関係の振り返り ⑴振り返ることの意味 ⑵プロセスレコードの意義・目的 ⑶プロセスレコードの実際		
7-8 (13-16)	３．精神障害をもつ人への看護援助の展開	１）看護援助の基本構造 ⑴精神科における看護理論 オレム・アンダーウッド	講義	川島
9-14 (17-28)	４．看護過程の実際	１）情報収集・アセスメント ２）看護問題の抽出 ３）計画立案 ４）実施・評価の視点	講義 演習	
15 (29-30)	５．精神看護学実習に向けて	１）精神看護学実習への心構え ２）精神看護学実習の実際	講義	川島
評価方法	課題レポート・筆記試験（終講試験）			

教科書・参考書等

１）新体系看護学全書 34 専門分野Ⅱ 精神看護学１ 精神看護概論・精神保健：メジカルフレンド社

２）新体系看護学全書 35 専門分野Ⅱ 精神看護学２ 精神障害を持つ人の看護：メジカルフレンド社

授業科目	看護統合実践Ⅰ			科目分類	専門分野		
責任教員	後藤　美樹	実務経験	看護師・保健師	授業形態	講義		
	中村　明子	実務経験	看護師				
開講年次	２年後期			単位数	１	時間数	３０

科目目標	国際看護 １．国際的にどのような健康問題が課題になっているのかを理解する。 ２．看護の国際協力にはどのような組織、しくみが関わっているのかを理解する。 ３．国際看護の基本理念を理解し、その方法を考察する。 ４．異なる国の政治、社会、経済、教育、文化、保健医療システム、疾病構造など看護に影響を与えるあらゆるものについて考察し、日本や諸外国における健康問題の現状と国を超えたグローバルな視点から人々の健康増進の関与する看護の特性を考える。 看護実践能力の強化 １．既習の知識・技術・態度を統合させ、安全・安楽に応じた看護を実践しながら、日常生活内容に応じた判断・対応ができるために必要な看護実践能力を養う。 １）KYT の意味を理解し、KYT をとおして様々な看護場面に潜むリスクについて根拠をもって考えることができる。 ２）ヒヤリハット事例に基づいて、看護場面の事故を防ぐための考え方や具体的な方法について考えることができる。

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-10 (1-20)	国際看護学に求められる視点を学ぶ	・国際保健医療社会の現状 ・グローバルな視点を持った看護が求められている現状の理解 ・グローバルヘルスと我が国の国際保健医療協力	講義	後藤
	国際社会の現状と国際看護活動の課題	・第２次世界大戦後の国際社会 ・共存に向けた国際協力		
	国際看護活動の支援を必要とする対象	・国際看護活動が扱う範囲 ・海外における看護活動 ・在日外国人への看護活動		
	国際看護活動を推進する人や機関	・保健医療分野における国際機関 ・国としての国際協力活動 ・国内外のＮＧＯによる国際協力活動		
	異文化理解と国際看護活動	・文化が異なる患者看護師間での文化を考慮した看護 ・外国人患者を看護する際の留意点 ・ケアにおける「言葉」のツールの重要性を理解する ・国際看護活動に必要な能力果たすべき役割 ・国際看護を実践するうえで必須である原理・原則・倫理感を理解する		
	国際看護活動の実際	・国際看護活動の３側面 ・国際協力活動の実際、活動事例		
11-15 (12-30)	KYT の意味	・KYT とは	講義	中村
	KYT の実際	・KYT の考え方、方法 ・DVD 事例を通しての KYT の実際		
	医療事故を防ぐための考え方	・ヒヤリハット事例をとおした事故を防ぐための知識や方法		

評価方法	課題レポート・筆記試験（終講試験）・出席状況・授業態度など

教科書・参考書等

国際看護 言葉・文化を越えた看護の本質を体現する　　学研

授業科目	看護統合実践Ⅱ－１			科目分類	統合分野		
責任教員	重永　康子	実務経験	看護師	授業形態	講義		
開講年次	３年前期			単位数	１	時間数	１５
科目目標	災害看護 １．災害という特殊な状況の中で人々の生命や健康生活を支えるために、大規模災害等の実体験から災害看護の役割を学ぶ。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	１．災害看護とは	１．災害看護の定義 ２．災害と倫理	講義	重永
2 (3-4)	２．災害時の種類と災害サイクル	１．災害の種類と被害・疾病の特徴 ２．災害関連死 ３．災害サイクル		
3 (5-6)	３．災害医療に関する国の政策と法律	１．災害医療に関する国の政策 ２．災害医療に関する法律		
4 (7-8)	４．危機管理：減災・防災マネジメント	１．防災・減災・レジリエンス ２．災害時の組織体制 ３．災害時の情報収集と伝達 ４．災害時における連携と協働 ５．健康機器管理：感染症対策		
5 (9-10)	５．配慮を必要とする人への支援と看護	１．支援を必要とする要配慮者 ２．乳幼児支援者の心理状態とその特徴 ３．妊産褥婦に必要な支援と看護 ４．高齢者に必要な支援と看護 ５．障害者に必要な支援と看護 ６．継続的な治療が必要な人への支援と看護 ７．外国人に必要な支援と看護 ８．遺族に必要な支援と看護		
6 (11-12)	６．災害初期から中長期における看護活動	１．初動時（超急性期・急性期）における看護活動 ２．医療救護所での看護活動 ３．避難所・応急仮設住宅での看護活動 ４．自宅避難者に対する看護活動 ５．復興期の看護活動		
7 (13-14)	７．災害時に必要な医療・看護技術	１．体系的対応の基本原則 ２．災害時のトリアージ【T:Triage】 ３．応急処置・治療：:Treatment ４．移送・搬送：Transport		
8 (15-16)	８．被災者と支援者の心理の理解と援助 ９．災害看護と国際看護	１．被災者の心理の理解と援助 ２．支援者の心理の理解と援助 １．国際看護とは ２．日本における国際看護 ３．海外における災害看護と国際看護活動		

評価方法	出席状況・授業態度・筆記試験(終講試験)

教科書・参考書等
ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践③　災害看護　メディカ出版

授業科目	看護統合実践Ⅱ－２			科目分類	専門分野		
責任教員	重永　康子	実務経験	看護師	授業形態	講義		
開講年次	３年後期			単 位 数	１	時間数	１５

科目目標	医療安全 １．看護業務と医療事故の構造を理解した上で、医療事故が起こる過程とそれを防止するための対策について理解できる ２．臨床実践に不可欠な基礎知識を学び、実践に活かすことができる。 看護マネジメント １．看護専門職として管理に関する基礎的知識や技術を修得し、看護管理上の問題を解決する方策について学ぶ。 １）看護管理とは何か、看護サービスを提供するための仕組みを理解する。 ２）看護サービスのマネジメントに必要な知識・技術を学ぶ。 ３）チーム医療・看護ケアにおける看護師としてのリーダーシップを養う。

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1 (1-2)	1　医療安全と看護の理念	１．医療安全の意味とその重要性 ２．看護職の法的規定と医療安全	講義	重永
	2　医療安全への取り組みと医療の質の評価	１．国の医療安全への取り組み ２．看護職能団体の取り組み ３．国および医療関係団体の示す医療事故の定義と分類 ４．医療事故の報告制度 ５．医療の質の評価		
2 (3-4)	3　事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	１．事故発生のメカニズム ２．事故分析 ３．事故対策		
	4　患者・家族との協同と安全文化の醸成	１．患者・家族との協同 ２．医療安全管理者―医療安全を担う新たな役割 ３．全員参加の医療安全：安全文化の醸成		
3 (5-6)	5　看護における医療事故と安全対策	１．看護業務と事故発生要因 ２．医療事故の種類：その分析と対策		
	6　在宅看護における医療事故と安全対策	１．在宅看護の現状 ２．在宅看護における医療事故とその対応 ３．在宅看護におけるリスク管理の現状と課題		
4-5 (7-10)	7　医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	１．感染の危険を伴う病原体への暴露 ２．感染に対する標準予防策と感染経路別予防策 ３．医療機器の使用に関わるもの ４．医療品への暴露 ５．労働形態、作業に伴うもの ６．患者、同僚および第三者による暴力		
	8　医療事故後の対応	１．医療事故発生時の初期対応の考え方と方法 ２．紛争化の防止対策 ３．患者の安全確保と医療者の安心確保のために		
	9　看護学生の実習と安全	１．実習における事故の法的責任と補償 ２．実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応 ３．習得すべき看護技術のリスクと安全 ４．実習における安全についての指導者の役割：予防と事故発生時の対応		
	10　人々の生活と看護のかかわり	１．人々の生活と看護のかかわり ２．看護職の活動の変遷		

6 (11-12)	11　人々の生活と看護のかかわり	1．人々の生活と看護のかかわり 2．看護職の活動の変遷	講義	重永
	12　看護管理の基本となるもの	1．看護管理とは 1．看護管理の基盤となる知識 2．看護管理のプロセス 3．専門職とは 4．市民・多職種との連携・協働		
7 (13-14)	13　看護師の仕事とその管理	1．何のために管理をするのか―「効果的に仕事をする」とは 2．看護管理で重要なこと 3．人を育て生かす		
		1．モノの管理 2．情報の管理 3．コストの管理 4．看護提供システム		
	14　看護の質向上 看護管理に求められる能力	1．看護管理と倫理 2．医療・看護の質と評価 3．セルフマネジメントのスキル		
8 (15-16)	15　看護管理に求められる能力	1．人とかかわるためのスキル 2．集団に働きかけるスキル 3．看護管理能力の基盤となる理論		
	看護職とキャリア	1．社会人になる 2．看護の教育体系 3．看護職としてのキャリア		
	16　看護と経営	1．医療と経済 2．看護にかかわる医療・介護制度 3．病院経営と看護管理		
	看護活動を取りまく法律・制度	1．看護管理に関連する法律 2．保健医療福祉政策と最近の動向 3．看護と専門機関・職能団体		
評価方法	出席状況、授業態度・筆記試験(終講試験)			

教科書・参考書等
ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践②　医療安全　メディカ出版
ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践①　看護管理　メディカ出版

授業科目	看護統合実践Ⅲ			科目分類	専門分野		
責任教員	中村　明子	実務経験	看護師	授業形態	講義・演習		
開講年次	３年前期			単 位 数	１	時間数	１５
科目目標	１．既習の知識・技術・態度を統合させ、臨床に近い状況下で複数患者に安全・安楽・自立度に応じた看護を実践しながら、ケアの優先順位を踏まえた総合的な判断・対応ができるために必要な看護実践能力を養う。 １)、優先順位を考えた行動計画(業務遂行計画)が立案できる。 ２）計画に沿った看護実践中（業務遂行中）に起こる割り込み状況に対し、自己の対応能力を認識した上で対処方法が判断できる。 ３）自己の看護実践力に応じ、チームメンバーと連携（連絡・報告・相談・協力依頼しながら、状況に応じた看護ケアの実践（業務遂行）を試みる。 ４）看護実践を振り返り、割り込み状況への対処を含め、どうすればよかったのか考察する。 ５）患者、看護業務、自己の臨床実践力の視点から分析的に考察でき、対象に応じたケアが実践できる経験をする。						

講義回数	単元	学習内容並びに方法	担当教員	
1-2 (1-4)	１．ヒヤリ・ハット予防行動を身につける。 ２．多重な業務をすべて安全・安楽に遂行できる。	１）看護師の果たす機能や役割が理解できる。 （１）看護師は患者のもっとも身近で、患者ともっとも長い時間、幅広い年齢層で多様な状態の患者・家族に対し接する立場にいることに気づける。 （２）医療過誤、医療事故と常に隣り合わせである。 （３）看護者は個人の責任において看護行為が医療ミスにつながらないように考え、患者の反応には最善の注意を払わなければならないことに気づける。 （４）ミス防止に着目するだけでなく、看護の質向上のために、考える看護の基本的姿勢を忘れてはならないことが事例から理解できる。 （５）連続した看護場面において、つい見過ごしてしまいがちなことに疑問をもち、その疑問に対して、「立ち戻り」「考え」そして「行動する」という習慣をＤＶＤやペーパーシュミレーションを使ってトレーニングすることで身につける。 (5)-a ヒヤリ・ハット予防行動を各グループ間で身につける。(具体的方法) ＊一つ目はヒヤリ・ハット６事例の中から１事例を選択しヒヤリ・ハットを予防するためのトレーニングを各グループ（5～6名）にて行う。 ＊二つ目はヒヤリ・ハット 12 事例の中から１事例を使ってペーパーシュミレーションを各グループ（5～6 名）にて行う。 (5)-b 看護技術を実施する際、手順書やマニュアルにも書かれていない基本的な細かい注意点や配慮の欠如に気づくことができる。 (5)-c ヒヤリ・ハットの主たる原因などのミスにつながりやすい共通要因に気づける。	講義 演習	中村

3-5 (5-10)	１．事例を通じて、医療現場に潜む危険に気づける。 ２．多重課題に対応できる基礎的能力を養う。	１）常に変化する環境下での活動の場である医療現場の中に潜むリスクに気づく力を養うことができる。 ２）多重課題の教材媒体を活用して危険への察知力を高めていくことで、危険回避の原動力となり、予防策を立て、臨地の場において対応できる。 ３）多重課題への対応方法について、演習をとおして考えることができる。 多重課題トレーニングＤＶＤを使用。	講義 演習	中村
6-8 (11-16)	１．客観的臨床能力試験 OSCE 問題状況を含む臨場感のある事例を教材とし、看護を考える ２．実習で学んだ知識・技術を統合し、対象の状況に応じた看護を実践する能力を養う。	目的：これまでの学内での学習を活かし、自己の看護実践能力を適切に評価し、今後の自己課題を明確にする。 目標：１）対象の状況に応じた看護を実践することができる。 ２）客観的臨床能力試験 OSCE を通して、自己の課題を明確にすることができる。 ・シナリオの病気の理解と学習計画を立てる ・シナリオの看護を考える ・自己の課題をみつけ、整理する。 ・知識・技術について自己の課題を見い出すことができる。 ・態度（人間関係の構築・倫理的態度・専門職としての姿勢）について自己の課題を見い出すことができる。 ・卒業に向けて課題を整理する。	講義 演習	中村 その他
評価方法	出席状況・課題レポート・筆記試験(終講試験)・総合技術試験			

教科書・参考書等
※講義の時、資料配布
※内容変更の可能性あり

授業科目	基礎看護学実習Ⅰ			科目分類	専門分野		
責任教員	和田　亜矢　他	実務経験	看護師	授業形態	実習		
開講年次	１年後期			単位数	２	時間数	９０
目的	１．病院における看護援助場面の見学や体験を通して、看護の機能や役割がわかる。 ２．病院に入院している患者の日常生活や環境が分かる。 ３．看護場面の見学を通し、看護の魅力を知ることができる。						
目標	臨床実習（基礎看護学実習Ⅰ） １．病院における看護活動の実際を知る。 ２．受持ち患者をとりまく生活環境や療養生活を知ることができる。 ３．受持ち患者に応じた看護技術の必要性を理解することができる。 ４．基本的なコミュニケーション技術を実施し、受け持ち患者と良好な関係を構築できる。 ５．看護の場面や看護師との関わりの中で、看護の魅力や自分の目指す看護師像について考えることができる。 ６．看護学生として、基本的な実習態度を身に付けることができる。						

	学習内容並びに方法	担当教員
実習内容	１．看護師の役割、機能について理解する。 　１）看護師の具体的な活動内容 　２）看護部と他の医療部門との連携 　　（１）看護体制 　　（２）看護師間の連携 　　（３）多職種との連携 ２．病院の療養生活 　１）病院の日課・週間予定 　２）病床環境 　３）検査や治療、処置の実際 ３．受け持ち患者とのコミュ二ケーション ４．対象の日常生活行動の援助の見学、実施 　１）衣生活・食生活・生活環境を整える援助など	和田　他 （専任教員及び実習指導教員）
実習方法	１．病院・病棟オリエンテーションを受け、看護活動の場である病院の特徴や構造を理解する ２．学生が病棟看護師に同行し、見学を通して看護活動の実際を理解する。 ３．受け持ち患者の生活を観察し、コミュニケーションをとることで、疾患や障害によってどのように影響を受けているかについて考える。 ４．患者に行われている援助の見学や実施を通して、患者の状態に応じた援助の必要性を理解する。 ５．既習学習で学んだ基本的なコミュニケーション技術を用いて、患者の状態に応じたコミュニケーションを考えることができる。 ６．学内での実習にて、疾患学習、症状別看護などについて理解を深め、受け持ち患者の生活への影響について理解を深める。 臨地実習：63 時間、 オリエンテーション：7 時間、学内実習：20 時間（発表会を含む）	

実習場所	・宮崎県立宮崎病院 ・宮崎大学医学部附属病院 ・潤和会記念病院 ・宮崎江南病院 ・善仁会病院 ・海老原総合病院 ・野崎東病院
評価方法	実習評価表に準ずる。

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">基礎看護学実習Ⅱ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>和田　亜矢　他</td><td>実務経験</td><td>看護師</td><td>授業形態</td><td colspan="3">実習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">２年前期</td><td>単 位 数</td><td>２</td><td>時間数</td><td>９０</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="7">学内で学習した基礎看護学とその関連科目の知識や技術を実習の展開毎に活用・統合し、個人の健康上の問題解決への援助について基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="7">１．受持ち患者とよい関係を成立するため、患者および患者をとりまく人々と効果的なコミュニケーションが図れる。
２．受持ち患者の日常生活行動に関する情報収集ができ、援助の必要性がわかる。
３．受持ち患者の日常生活における問題を理解し、患者に適した援助ができる。
４．行った援助の評価、修正ができる。
５．記録・報告が正しく行える。
６．看護学生として責任ある行動がとれる。</td></tr>
<tr><td colspan="6">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>実習内容

実習方法</td><td colspan="6">１．患者および患者をとりまく人々と意図的なコミュニケーション。
２．ヘンダーソンの 14 項目をもとにした情報収集および整理。
３．対象の日常生活を捉え、対象(立場の変換)に必要な援助の判断と計画立案。
４．対象にとって安全・安楽で快適な援助の実施と評価。
５．対象の持てる力を最大限に生かした行動が取れているか、自己の実習行動の振り返り。
６．対象を取り巻く保健、医療チームメンバーの役割と他の部門との連携。

１．回復期・慢性期にある患者を１名受け持ち、日常生活行動における看護問題を導き看護目標・援助計画を立案する。
２．看護計画に沿った援助を指導者と実践し、患者の反応を確認しながら実施した援助を振り返り修正する。
３．受け持ち患者の看護計画は発表し、実習指導者からアドバイスを受ける。</td><td>和田　他
（専任教員及び実習指導教員）</td></tr>
<tr><td>実習場所</td><td colspan="7">・宮崎県立宮崎病院
・宮崎江南病院
・国立病院機構宮崎東病院
・宮崎善仁会病院
・野崎東病院
・海老原総合病院</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">実習評価表に準ずる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">成人看護学実習Ａ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>田中　とも子　他</td><td>実務経験</td><td>看護師</td><td>授業形態</td><td colspan="3">実習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">３年通年</td><td>単 位 数</td><td>２</td><td>時間数</td><td>９０</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="7">成人期にある患者を総合的に理解し、急激な身体侵襲による危機状態から回復に向かう患者に応じた看護を実践するために必要な知識、技術、態度を身につける。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="7">１．周手術期にある患者の状態や手術が身体に及ぼす影響，術前の看護について理解し、必要な援助を行うことができる。
２．手術中の患者の状態を理解し、手術後の合併症予防や早期回復への援助を行うことができる。
３．手術後の回復過程を理解し、回復や日常生活の自立を促進するための援助を行うことができる。
４．社会資源の活用や継続看護の必要性について理解できる。</td></tr>
<tr><td colspan="6">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>実習内容

実習方法</td><td colspan="5">手術を受ける患者を受け持ち、手術による急激な身体侵襲により急性期から回復に向かう患者の看護過程を展開することによって、手術が身体に及ぼす影響を理解し、手術後の合併予防や早期回復への援助を実践するための知識、技術、態度を身につける。また、手術後退院する患者に対して病棟で行われている退院指導を見学、一部実施することで、医療チームによる退院指導の必要性やチームアプローチにおける看護師の役割と機能について学ぶ。

１．手術を受ける患者を受持ち、看護過程を展開する。
２．中間カンファレンスにおいて看護計画を発表し、臨地実習指導より指導・助言を受ける。
３．立案した看護計画に基づき、目的・根拠を持って患者・家族への援助を実施する。
４．日々の援助を振り返り、より個別性のある看護計画となるよう追加・修正を行う
５．実習最終日に最終カンファレンスを実施し、手術を受ける患者への看護を実践するための知識、技術、態度についての学びを深め、今後の自己の課題を明確にする。
６．手術による機能障害の退院ある患者の退院に向けたチームアプローチの実際を知り、その必要性やチームにおける看護師の役割や責任について学ぶ。</td><td colspan="2">田中　他
（専任教員及び実習指導教員）</td></tr>
<tr><td>実習場所</td><td colspan="7">宮崎大学医学部附属病院、潤和会記念病院、宮崎善仁会病院、野崎東病院、国立病院機構宮崎病院、海老原総合病院</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">実習評価表に準ずる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">成人看護学実習Ｂ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>中村　明子　他</td><td>実務経験</td><td>看護師</td><td>授業形態</td><td colspan="3">実習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">３年通年</td><td>単 位 数</td><td>２</td><td>時間数</td><td>９０</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="7">成人期にある患者を全人的に理解し、緩和ケアやターミナルケアを必要とする患者及び家族が望む生き方を支援するための全人的苦痛の捉え方や知識、技術、態度を身につける。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="7">１．患者の全人的苦痛を考えながら日常生活援助が実施できる。
２．患者及び家族の望む生き方について考えることができる。
３．患者・家族をとりまくチームの役割を知り、チームアプローチの必要性について理解できる。
４．緩和ケア・ターミナルケアにおける看護師の役割と機能について理解できる。
５．生命の尊厳や自己の死生観について考えることができる。</td></tr>
<tr><td colspan="6">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="6">緩和ケアやターミナルケアを必要とする患者を受持ち、看護過程を展開することによって、対象の全人的苦痛を理解し、患者の及び家族がその人らしく過ごせるために必要な援助を実践するための知識、技術、態度を身につける。また、病棟で行われているチームカンファレンスやその他の活動を通して、チームアプローチの実際を知り、緩和ケア・ターミナルケアにおける看護師の役割と機能について学ぶ。</td><td rowspan="2">中村　他
（専任教員及び実習指導教員）</td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="6">１．緩和ケアやターミナルケアを必要とする患者を受持ち、看護過程を展開する。
２．中間カンファレンスにおいて看護計画を発表し、臨地実習指導より指導・助言を受ける。
３．立案した看護計画に基づき、目的・根拠を持って患者・家族への援助を実施する。
４．日々の援助を振り返り、より個別性のある看護計画となるよう追加・修正を行う
５．実習最終日に最終カンファレンスを実施し、緩和ケアやターミナルケアを必要とする患者への看護を実践するための知識、技術、態度についての学びを深め、今後の自己の課題を明確にする。
６．病棟で行われているチームカンファレンスや他職種との合同カンファレンス、茶話会などに積極的に参加し、緩和ケアやターミナルケアにおけるチームアプローチの実際を知り、その必要性やチームにおける看護師の役割や責任について学ぶ。
７．緩和ケアやターミナルケアを必要とする患者、家族への関わりを通して、生命の尊厳や自己の死生観についての考えを深める。</td></tr>
<tr><td>実習場所</td><td colspan="7">潤和会記念病院　Ｓ館６階病棟
宮崎江南病院　５階病棟
三州病院　緩和ケア病棟
宮崎市郡医師会病院　緩和ケア病棟</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">実習評価表に準ずる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">老年看護学実習Ａ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>井料田　豊子　他</td><td>実務経験</td><td>看護師</td><td>授業形態</td><td colspan="3">実習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">２年後期</td><td>単 位 数</td><td>２</td><td>時間数</td><td>９０</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="7">１．老年期の特徴を理解し、高齢社会の中で看護を展開するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="7">１．老年期の特徴を理解する。
２．患者の健康障害と個別性を踏まえ、その段階に応じた看護を実践する。
３．患者の生活史や価値観を理解し、加齢現象や健康障害が日常生活に及ぼす影響を理解する。
４．保健・医療・福祉チームにおける協力・連携の必要性を学び、高齢者のサポートシステムを理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>実習内容

実習方法</td><td colspan="6">整形外科や消化器外科及び脳神経外科など回復期リハビリ病棟において、治療を受けることを中心とした生活を送っている高齢者の入院から退院に至る流れの中で、様々な治療を受ける高齢者を理解し、円滑な治療・看護による健康回復や家庭への生活復帰に向けた看護の方法を学ぶ。

１．高齢者（75 歳以上）を１事例受け持ち、看護過程を展開する。
２．中間カンファレンスにおいて看護計画を発表し、実習指導者及び実習指導教員より指導・助言を受ける。
３．立案した看護計画に基づき、目的・根拠を持って個々に応じた援助を実施する。
４．高齢者にとっての家族の役割を知り、その対象にとってのサポートシステムを理解する。
５．日々の援助を振り返り、個々に応じた看護計画となるよう追加・修正を行う。
６．実習最終日に最終カンファレンスを実施し、対象への看護を実践するための知識、技術、態度についての学び、今後の自己の課題を明確にする。
７．病棟で行われているショートカンファレンス、チームカンファレンス、他職種及び家族を交えた合同カンファレンスなどに積極的に参加し、チームアプローチの実際を知り、その必要性やチームにおける看護師の役割や責任について学ぶ。</td><td colspan="2">井料田　他
（専任教員及び実習指導教員）</td></tr>
<tr><td>実習場所</td><td colspan="7">財団法人順和リハビリテーション振興財団　潤和会記念病院
国立病院機構宮崎病院
宮崎生協病院
宮崎市郡医師会病院
宮崎江南病院</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">実習評価表に準ずる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">老年看護学実習Ｂ</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>村岡　美穂　他</td><td>実務経験</td><td>看護師</td><td>授業形態</td><td colspan="3">実習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">３年通年</td><td>単 位 数</td><td>２</td><td>時間数</td><td>９０</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="7">１．施設に入所している対象の特徴と対象を取り巻く人々の担う役割を理解し、個々に応じた日常生活活動への援助を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="7">１．施設の概要が理解できる。
２．施設内の生活をとおして、対象者の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。
３．加齢現象や健康障害が日常生活に及ぼす影響を知り、安全性を配慮しながら、残存機能の活用と日常生活自立への援助を実施できる。
４．対象のこれまでの生活史や価値観を理解し、尊重した態度で接することができる。
５．対象及びその家族に対して必要な援助を考えることができる。
６．施設における看護の位置づけと役割を理解し、他職種との連携・調節の必要性にについて考えることができる。
７．高齢者の人権、倫理的問題を考え、QOL を考慮した援助が理解できる。</td></tr>
<tr><td colspan="6">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>実習内容

実習方法</td><td colspan="6">【介護老人保健施設】
・介護老人保健施設では治療が主ではなく、看護・リハビリテーションなどの医療的なケアと機能訓練や生活の援助を学ぶ。
・高齢者の生活を理解し、その高齢者とのかかわりを通して、家庭での生活を容易にするための訓練や日常生活の援助を学ぶ。

【高齢者の様々な生活の場の理解】
・各施設の特徴を知りその実際を学ぶ。（根拠法、入所基準、配置職種、配置基準など）
・入所している高齢者の特徴を学ぶ。

１．高齢者は多様な経験、価値観、生活行動を持っていることを理解する。
２．加齢に伴う心身の変化や疾病の影響に加え、長年の生活習慣からくる価値観や生き方を重視して何らかの健康課題を持ちながら施設内の生活をしている対象を大まかに捉える。
３．対象がその人らしく安全に生活できるような援助について考えることができる。
４．長年の生活習慣からの生活をイメージすることは難しいので、実習指導者及び実習指導教員の助言を受けながら捉えることができる。
５．疾病や病態生理からではなく、高齢者の日常生活がどのように行われているのか生活機能をみることで、高齢者の全体像を把握する。
６．複数の疾患と加齢が日常生活に及ぼす影響など多くの要因が絡み合うことが多いので、老年看護領域での看護過程は「高齢者の生活機能」に焦点をあてた看護過程が展開できる。
７．失われた機能を追いかけないで健康な力や残された力を活用し、対象のこれまでの生活史や価値観を大切にした生活を中心にした看護過程の展開ができる。
８．学生個々の事例を用いて、各生活機能のアセスメントから得られた情報を統合することで対象者の全体像を捉え、優先順位を決定し、「生活者であるその人全体を捉えた看護」が理解できる。
９．高齢者の様々な生活の場、各種施設の特徴を知る</td><td colspan="2">村岡　他
（専任教員及び実習指導教員）</td></tr>
<tr><td>実習場所</td><td colspan="7">介護老人保健施設 シルバーケア野崎、宮崎江南病院付属介護老人保健施設
介護老人保健施設 ひむか苑、特別養護老人ホーム皇寿園、介護医療院、
地域密着型施設（認知症グループホーム、看護小規模多機能型居宅介護など）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">実習評価表に準ずる。</td></tr>
</table>

授業科目	小児看護学実習			科目分類	専門分野		
責任教員	加藤　小百合　他	実務経験	看護師	授業形態	講義・実習		
開講年次	２年後期			単 位 数	２	時間数	９０
目的	成長発達段階にある小児の健康上の諸問題を総合的に理解し、看護を実践する能力を養う。						
目標	１．各成長発達段階にある小児を理解し、成長発達を促すための生活援助ができる。 ２．小児および家族の看護上の問題を明らかにし必要な援助を実践する。						

	学習内容並びに方法	担当教員
	＜　保育園実習　＞	加藤　他（専任教員及び実習指導教員）
目的	健康な乳幼児の成長発達段階の特性を理解し、成長、発達に応じた必要な援助を学ぶ。	
目標	１．小児の成長発達の特徴を理解する。 ２．発達段階に応じたコミュニケーション技術を使い、子どもとコミュニケーションを図ることができる。 ３．発達段階に応じた基本的生活習慣の獲得状況とその援助について理解できる。 ４．保育園における健康管理と安全管理、事故防止の実際を理解し、また実施できる。	
実習内容 実習方法	１．実習保育園のオリエンテーションを受けることで保育園の理念、園児の構成、安全管理について理解できる。 ２．担当保育士（指導者）の指導の下、日常生活援助を実施し、小児の自立度を把握するとともに適切な援助を行うことができる。 ３．担当保育士（指導者）と園児のコミュニケーション場面を見学することで小児の発達段階に応じたコミュニケーション技術の特徴を理解し、実施できる。 ４．担当保育士（指導者）とともに小児への日常生活援助を実施し、健康な小児について学習を深めることができる。 ５．毎日のカンファレンスを行うことで、園児とのかかわり方や適切な援助について行動を振り返ることができる。	
	＜　発達支援センター　＞	
目的	障害をもつ児に対する理解を深め、児の自立支援について理解する	
目標	１．障害をもつ児の特徴を理解する。 ２．地域で暮らす（在宅）障害をもつ児に対する支援について理解する。	
実習内容 実習方法	１．事前の施設オリエンテーションを受けることで施設の理念や職員体制について理解し、実習が円滑にできるようにする。 ２．指導者（担当指導員、看護師）の指導の下にケアを見学または実施する。 ３．指導員や看護師と児とのコミュニケーション場面を見て、障害の程度（発達段階）に応じたコミュニケーション技術の特徴を学び、コミュニケーションを図ることができる。 ４．実習期間中、毎日、カンファレンスを行い、意見交換することで学習共有できるようにする。	

目的 目標 実習内容 実習方法 目的 目標 実習内容 実習方法	＜　外来　＞ 小児外来の特徴や看護師の役割について学ぶ １．治療、検査処置などの見学を通し、診療を受ける小児及び家族に必要な看護について理解することができる。 ２．外来環境を理解し、感染、事故防止に配慮した行動をとることができる。 １．オリエンテーションを受けることで外来の特殊性（外来患者の特徴→多い疾患や特有の治療・検査・処置）について学ぶ ２．看護師と小児のコミュニケーションの様子を見学し、発達段階に応じたコミュニケーションを図ることができる。 ３．外来での感染防止と対策について理解する ４．外来で起こりやすい事故と事故防止対策について理解する ＜　学内実習　＞ 小児各期の特徴を理解し、健康障害をもつ小児及び家族への看護を実践するための基礎的知識・技術、態度を学ぶ １．小児の成長発達段階の特徴を理解する。 ２．発達段階に応じたコミュニケーションの特徴を理解する ３．疾病や入院が患児と家族に及ぼす影響を理解できる ４．小児の安全を守るための看護を理解し、実践できる。 １．視聴覚教材を使用して健康障害のある小児の入院生活の様子、検査、疾患が家族（同胞）に及ぼす影響、看護について考える。 ２．紙上の事例を検討することで小児に必要な看護を考える。 ３．観察項目、安全面を考えながらバイタルサイン測定を実施することができる。 ４．発達段階を考慮した遊びを実施することができる。	加藤　他（専任教員及び実習指導教員）
実習場所	（保育園） ・江平保育園・住吉中央保育園・橘保育園・こひつじ保育園 ・宮崎みなと保育園・広原保育園・住吉東保育園・霧島保育園 ・横町さくら保育園・天神の森きらら保育園・幼保連携型こども園大塚 ・宮崎至慶保育園 （発達支援センター） ・宮崎市総合発達支援センター肢体不自由児通園施設・指定知的障害児 ・通園施設：おおぞら ・児童発達支援センター：あはは （外来） ・生協病院　小児科外来、 ・済生会日向病院　小児科外来 ・宮崎大学医学部附属病院　小児科外来	
評価方法	実習評価表に準ずる。	

授業科目	母性看護学実習			科目分類	専門分野		
責任教員	田中　美帆　他	実務経験	看護師・助産師	授業形態	講義・実習		
開講年次	３年通年			単 位 数	２	時間数	９０
目的	１．妊婦・産婦・褥婦および新生児を身体的、精神的、社会的に統合された存在として把握し、対象および家族のもつニーズを理解し、それに応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。 ２．女性のライフサイクル各期における身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し、各期の看護問題および看護について理解を深める。						
目標	１．妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的変化を理解し、各期における観察と援助ができる。 ２．妊婦・産婦・褥婦およびその家族に対する保健指導の実際を学ぶ。 ３．妊婦・産婦・褥婦の看護を通して、生命の尊厳、自己の母性（父性）意識について考える。 ４．母性をとりまく地域の医療・保健・福祉の諸機関との関係について理解を深める。 ５．ライフサイクル各期の健康障害・生殖器疾患の特徴を知り、必要な看護や保健指導の実際を学ぶ。						

	学習内容並びに方法	担当教員
実習内容 実習方法	１．病院・施設実習 １）妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護を通し、バイタルサイン測定・沐浴見学・乳房ケア・保健指導を中心とした実習。 ２）分娩各期の援助・分娩見学を通し必要な看護を学ぶ。 ３）退院後の家庭生活における育児の自立を促すための保健指導や社会資源の活用について学ぶ。 ４）周手術期の婦人科疾患の援助を通して必要な看護や観察項目だけでなく、退院後の生活に向けた看護を学ぶ ５）助産院実習では施設退院後の褥婦・新生児・家族への地域や助産院が行っている子育て支援の実際を学ぶ ２．学内実習 １）妊娠期：①妊婦健康診査の演習を実施する。 ②健診結果から妊娠経過をアセスメントする。 自分の母子健康手帳と母親・家族からの情報を基に妊娠期の看護過程を展開し看護計画を立案する ２）分娩期：分娩経過に伴う援助を DVD を視聴して看護を学ぶ 産痛緩和の援助・声かけ・新生児の出生後の看護 ３）産褥期：授乳援助を演習を通して学ぶ 産褥経過によって乳房の状態が変化することを理解する ４）新生児期：新生児モデルでバイタルサイン測定や全身状態の観察、おむつ交換の方法を学ぶ。 ５）妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護の実際はイメージがつきにくい学生が多いので、DVD を視聴して看護の実際を学ぶことができるようにする。また、分娩の経験のある学生の体験を共有することで必要な看護を考えることができるようにする	田中　他 （専任教員及び実習指導教員）

実習場所	渡辺産婦人科 宮崎市郡医師会病院 宮崎善仁会病院　７階西病棟
評価方法	実習評価表に準ずる。

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">精神看護学実習</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>川島　香理　他</td><td>実務経験</td><td>看護師・保健師</td><td>授業形態</td><td colspan="3">講義・実習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">３年通年</td><td>単 位 数</td><td>２</td><td>時間数</td><td>９０</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="7">精神を病む人々を理解し、受容する態度を養うと共に、人間の精神の健康について理解を深め、看護専門職としての役割と実践の基礎を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="7">１．精神を病む人と関わりあう学びを通して、精神を病む人々と自分自身の理解を深め、受容的態度を養う。
２．精神を病む人の生活環境を考慮しながら、セルフケア能力の向上に向けた看護過程の実際を学ぶ。
３．精神を病む人に関わる保健・医療・福祉チームの役割を理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="5">精神症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、個別性に応じた援助を学ぶために、受け持ち患者に対する看護過程を展開する。また、作業療法やデイケア実習を通して、精神を病む人の生活を支えるために必要な医療・保健・福祉などの社会資源について学び、チームにおける看護師の役割について理解を深める。</td><td colspan="2" rowspan="2">川島　他
（専任教員及び実習指導教員）</td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="5">１．受け持ち患者１名を受け持ち、看護過程を展開する。
２．プロセスレコードを活用し、患者−看護師関係における自己の課題を明確にする。
３．受け持ち患者への援助やデイケア実習にて、精神を病む人に関わる保健・医療・福祉チームの活動の実際を知り、チームにおける看護師の役割について学ぶ。
４．中間カンファレンスにて、指導者より指導を受け看護の方向性を見出す。実習最終日には最終カンファレンスを実施し、実習での学びや今後の自己の課題を明確にする。
５．学内実習において精神看護についての理解をさらに深める。</td></tr>
<tr><td>実習場所</td><td colspan="7">髙宮病院（高宮病院又は若草病院のいずれか一箇所にてデイケア実習）
宮崎若久病院（デイケア実習含む）
学内</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">実習評価表に準ずる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">地域・在宅看護論実習</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>後藤　美樹　他</td><td>実務経験</td><td>看護師･保健師</td><td>授業形態</td><td colspan="3">実習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">３年通年</td><td>単 位 数</td><td>３</td><td>時間数</td><td>１３５</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="7">在宅療養者とその家族がもつ生活上および看護上の問題を把握し在宅看護実践の基礎的看護能力を養うとともに、地域で望む生活が継続できるような支援の在り方を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護の役割および関係機関・職種などとの協働活動、ケアマネジメントの実際について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="7">１．訪問看護ステーションでの実習をとおして、在宅療養者とその家族の健康状態と生活状況について総合的に理解する。
２．在宅療養者とその家族のもつ健康上・生活上の問題を把握し、看護過程を展開し、セルフケアの維持、向上を考慮した援助を指導者と共に提供し、評価・修正する。
３．在宅看護を行う上で、看護者に必要に基本的な態度を身につける。
４．地域での生活を支えるために必要な保健・医療・福祉サービスの活用法、地域包括ケアシステムおける看護の役割および関係機関・職種などとの協働活動について理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">学習内容並びに方法</td><td colspan="2">担当教員</td></tr>
<tr><td>実習内容

実習方法</td><td colspan="6">疾病や障害を持つ在宅療養者とその家族の療養生活の支援方法を理解するために、訪問看護ステーションでは在宅療養者宅に同行訪問し看護援助を実践する。居宅介護支援事業所では、ケアマネジャーから説明を受け同行訪問することでケアマネジメントの実際を学ぶ。サービス担当者会議、ケアカンファレンス、調整会議、通所施設などに参加することで地域包括ケアシステムおける看護の役割を理解し、在宅療養者とその家族の生活を支えるために必要な協働活動、社会資源などについて理解を深める。

１．訪問看護ステーション実習の中で原則として学生１名が１例を受け持ち、継続的に訪問に同行し、看護過程を展開する。
２．受け持ち療養者以外のお宅にも、可能な範囲で訪問看護に同行させていただき、複数事例の訪問看護を行う。その場合も、可能な限り、事前に情報収集をし、援助内容・見学する内容に関して指導者と打ち合わせをして、指導者の指導の下でケアを実施もしくは見学する。
※受け持ち療養者およびその他の訪問対象者は承諾していただいた方とする
３．居宅介護支援事業所において介護支援専門員とともに療養者宅に訪問あるいは関係機関との連絡調整に同行し、ケアマネジメントの展開および援助の実際、ケアマネジャーの役割、連携の必要性を学ぶ。
４．実習期間中、サービス担当者会議、ケアカンファレンス、調整会議、通所施設、多職種との訪問などの実習に同行・参加させていただき、保健・医療・福祉の連携、サービスの活用法について学ぶ。
５．実習の半ばに中間カンファレンスを設け、看護過程の指導をうける。
また、実習最終日は実習での学びを統合するカンファレンスを行う。
６．学内実習において地域包括ケアに関わる外部講師による演習、グループワークを行う
７．実習終了後、学内にてそれぞれの訪問看護ステーション別の学びをディスカッションしプレゼンテーションを行う</td><td colspan="2">後藤　他
（専任教員及び実習指導教員）</td></tr>
<tr><td>実習場所</td><td colspan="7">１．訪問看護ステーション敬寿　訪問看護ステーション希星（きらり）
訪問看護ステーションのびやか　訪問看護ステーションぱりおん
訪問看護ステーション一ッ葉　訪問看護ステーションやわらぎ
訪問看護ステーション湯癒亭　宮崎江南病院付属訪問看護ステーション
三股町訪問看護ステーションなごみ
２．居宅介護支援事業所</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">実習評価表に準ずる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="3">看護統合実習</td><td>科目分類</td><td colspan="3">専門分野</td></tr>
<tr><td>責任教員</td><td>興梠　ちひろ　他</td><td>実務経験</td><td>看護師</td><td>授業形態</td><td colspan="3">実習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td colspan="3">３年後期</td><td>単位数</td><td>２</td><td>時間数</td><td>９０</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="7">既習の学習内容を統合し、臨床現場に即したチーム医療、医療安全、看護管理などを踏まえた看護実践能力を養い、看護師としての自覚と責任を育成する。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="7">１．複数患者を受け持ち、患者の状態を把握し、優先順位を考え行動できる。
２．夜間における患者の状態や看護師の役割について理解できる。
３．チーム医療におけるマネジメントの実際を通して、その必要性が理解できる。
４．自己の看護観を深め、看護実践における自己の課題を明確にすることができる。</td></tr>
<tr><td colspan="7">学習内容並びに方法</td><td>担当教員</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="6">既習の学習内容を統合しながら、複数患者を受け持つとともに、夜間実習をとおして、夜間の患者の状態を把握することで、患者の健康状態を総合的に把握し優先順位を考慮しながら看護援助を行う。また、実習期間中に師長や主任に同行しながら看護管理実習を行い、リーダー業務および、危機管理・医療安全対策、教育体制などの説明を受ける。</td><td rowspan="2">興梠　他
（専任教員及び実習指導教員）</td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="6">１．原則として学生１名が２例を受け持ち、患者の状態を把握し、優先順位を考え看護計画を立案し、指導者と共に看護を実践する。
※受持患者へは「臨地実習説明書」を用いて実習目的や内容、方法を説明し、承諾が得られた場合は「臨地実習同意書」にサインを頂く。
２．実習期間に夜間の実習を行い、夜間における患者の状態や看護師の役割について学ぶ
※ 実習時間は 13:00～22:00（休憩：60 分）とし、夜間実習を行った学生は翌日を休みとする。そのため、祝日は通常通りの実習を行う。
３．師長と主任にそれぞれ同行し、リーダー業務および、危機管理・医療安全対策（日勤帯と夜勤帯における管理の違いを含む)、教育体制などの看護管理について学ぶ。
４．実習の半ばに中間カンファレンスを設け、指導助言をうける。また、実習最終日は実習での学びを統合するカンファレンスを行う。</td></tr>
<tr><td>実習場所</td><td colspan="7">・潤和会記念病院　：Ｓ館３階病棟、Ｓ館４階病棟、Ｓ館５階病棟
Ｎ館３階病棟、Ｎ館４階病棟、Ｎ館６階病棟
・宮崎江南病院　：３階東病棟、３階西病棟、４階病棟
・市民の森病院　：２階病棟、３階病棟
・野崎東病院　：３階病棟、４階病棟
・海老原病院　：２階南病棟</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">実習評価表に準ずる。</td></tr>
</table>